

# 日本特殊教育学会 第61回大会 (2023横浜大会) プログラム集

The 61st Conference of the Japanese Association of Special Education in Yokohama

実践と研究から  
イノベーションを生み出そう



会期 2023年8月25日(金)~27日(日)

会場 横浜国立大学



日本版

# WISC-V 知能検査

Wechsler Intelligence Scale for Children - Fifth Edition

子どもの知能を測定するウェクスラー児童用知能検査WISCの最新日本版です。16の下位検査で構成され、特定の認知領域の知的機能を表す5つの主要指標得点(VCI、VSI、FRI、WMI、PSI)、全般的な知能を表す合成得点(FSIQ)、付加的な情報を提供する5つの補助指標得点(QRI、AWMI、NVI、GAI、CPI)を算出します。

コンプリートセット	165,000円 (税込)	原著者	David Wechsler	原版出版社	Pearson
実施・採点マニュアル	16,500円 (税込)	日本版作成	日本版WISC-V刊行委員会 上野一彦、石隈利紀、大六一志、松田修、名越斉子、中谷一郎		
理論・解釈マニュアル	13,200円 (税込)	適用範囲	5歳0カ月～16歳11カ月		
記録用紙/ワークブック1(各20名分)	16,500円 (税込)	実施時間	45分～		
ワークブック2(20名分)	5,500円 (税込)				

 日本文化科学社



一般社団法人

# 日本特殊教育学会

第61回大会（2023横浜大会）  
プログラム

2023年8月25日（金）～27日（日）

横浜国立大学＋WEB配信

The 61<sup>st</sup> Conference of  
The Japanese Association of Special Education  
YOKOHAMA, Japan

日本特殊教育学会



# 日本特殊教育学会

## 第61回大会(2023横浜大会)プログラム

### 目次

第61回大会 開催のご挨拶 .....	(5)
会場アクセス .....	(6)
大会会場 .....	(8)
大会参加者へのご案内 .....	(12)
発表関係者へのご案内 .....	(17)
発表に際してのお願い (アクセシビリティ関連) .....	(20)
会場別大会日程 .....	(22)
準備委員会企画 .....	(25)
学会企画 .....	(35)
自主シンポジウム .....	(45)
ポスター発表 .....	(77)
索引 .....	(113)
賛助団体ご芳名 .....	(123)
大会準備委員会名簿 .....	(124)



## 日本特殊教育学会第61回大会開催のご挨拶

日本特殊教育学会第61回大会準備委員会  
委員長 渡部 匡隆（横浜国立大学）

日本特殊教育学会第61回大会は、横浜国立大学が主催して開催することになりました。学内事情で8月開催になったこと、加えて、あらかじめお伝えした日程からさらに一週間前倒になってしまったこととお詫び申し上げます。8月開催になりますが、一人でも多くの皆様にご参加頂けることを心から願っています。

横浜国立大学での開催は、今から40年前、昭和59年（1984年）第22回大会以来となります。養護学校の義務化が昭和54年（1979年）、国際障害分類（ICIDH）の制定が昭和55年（1980年）でした。当時は学部生、大学院生であった私も、それらの動きに高揚する気持ちがあったことを覚えています。ところが、40年経過する中で、特殊教育を取り巻く状況は大きく変化しました。

例えば、平成26年（2014年）に「障害者の権利に関する条約」が批准されましたが、昨年の令和4年（2022年）9月には国連の障害者権利委員会から総括所見・改善勧告が出されました。また、平成19年（2007年）4月に特別支援教育が開始され約15年が経過しました。昨年の令和4年（2022年）12月には文部科学省から「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」が出され、学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒が小・中学校で8.8%、高等学校で2.2%という結果が示されました。そして、平成28年（2016年）7月に、津久井やまゆり園事件を経験することになりました。

平成13年（2001年）1月に、21世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議において「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」が出されてから特別支援教育、インクルーシブ教育システムをはじめ特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育・支援の充実を目指してきました。確かな実績をつくりあげてきた一方で、最近の状況は、新たな価値や変革に向けて歩みを進めていくことが求められているように感じています。

第61回大会テーマについて、大会準備委員会で議論してきました。委員から価値、創造、創出といったキーワードが共通して出されました。大会準備委員にも同様の思いがあり、おそらく学会員の皆様も同じ思いがあるのではないかと考えました。そこで、今回の大会テーマを「実践と研究からイノベーションを生み出そう」としました。

とはいえ、新たな価値や変革について、具体的に見えてきているわけではありません。まさに、みんなで考え、議論していくことが必要とされていると思います。しかし、本学会には強みがあります。多くの実践家、研究者から構成され、具体的で建設的な議論を展開できるという持ち味があります。第61回大会は、学会員の皆様のご協力を得て、それぞれの実践や研究から育んできたシーズ（Seeds）を活かしながら、新たな価値や変化について考え、意見交換するような集いとしたいと考えています。

感染対策は十分に配慮する計画ですが、残念ながら令和2年（2020年）のコロナ感染拡大前の年次大会と同様の形式や規模での開催は難しい現状があります。そのため、今回は対面に比重をおきつつ、オンデマンド配信の併用を計画しています。また、横浜周辺の会議場の関係から、大学キャンパスでの開催となります。最寄駅からの距離や地形的にもアクセスがよいと言えないことに加え（羽沢横浜国大駅は、横浜国立大学の名前がついていますが不便ですのでお勧めできません）、コテージ式キャンパスとなっており、つまり、会場を分散して配置せざるを得ない立地環境となっています。

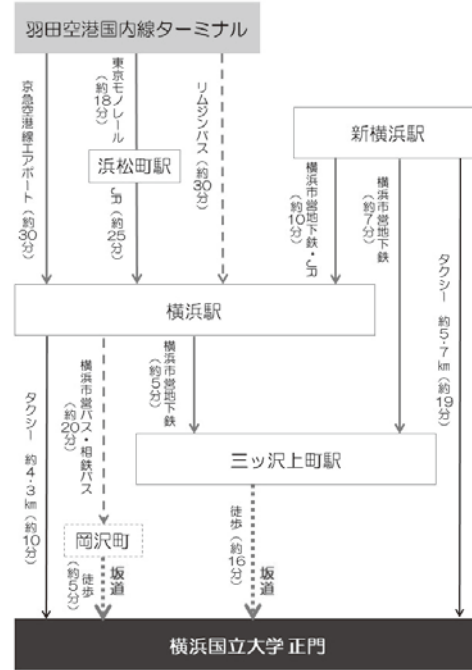
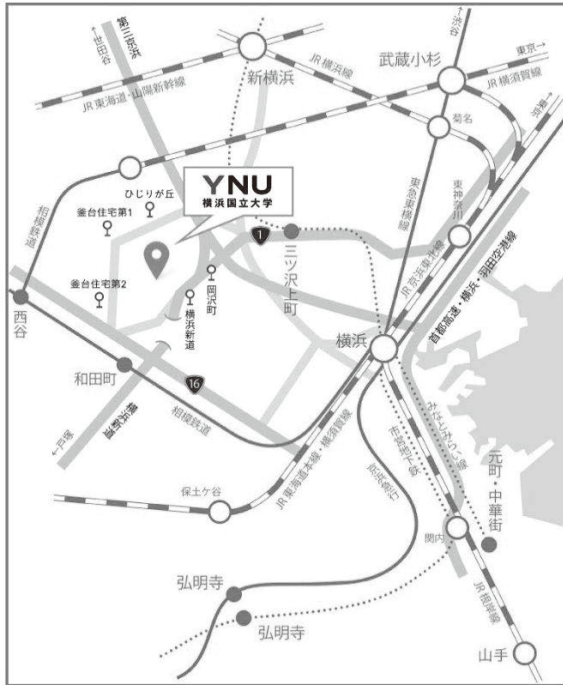
アクセシビリティはしっかり進めてまいります。ご参加の皆様には大変ご不便をおかけすることをご容赦ください。学会からの支援を頂きながら、第61回大会が特別な支援を必要とする子どもたちの教育・支援について未来や夢を語り、イノベーションを考えていく機会にしていきたいと考えています。開港の地、かながわ、よこはまでお会いできることを楽しみにしています。

# 会場アクセス

横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2

会場までのアクセス →



## <鉄道>

鉄道(横浜市営地下鉄) + 徒歩でのご案内

横浜駅 → (約 4 分) 三ツ沢上町駅 → (徒歩約 16 分) → 正門

## 三ツ沢上町駅前からの地図



三ツ沢上町駅 改札を出て右側「2番出口」の階段を登ると、国道1号沿いに出ます。

「2番出口」を出て右方向へ進み、国道1号沿いを3分ほど歩いてください。三ツ沢上町交差点の歩道橋に出ます。

そのまま歩道橋を真っ直ぐ渡り、国道沿いを進み、「第三京浜道路入口」の下をくぐる「地下道」に入ります。

「地下道」を出たら、さらに真っ直ぐ約7分ほど歩いて下さい。「岡沢町バス停」に着きます。

「岡沢町バス停」の右方向に見える階段を登ると正門に着きます。

<バス:横浜駅西口発>

バス(横浜市営)

- 循環外回り 202 系統・208 系統:横浜駅西口(和田町経由)行…岡沢町 下車
- 循環内回り 201 系統:横浜駅西口(松本経由)行…岡沢町、あるいは、国大中央※ 下車
- 急行 329 系統:横浜駅西口行…岡沢町、あるいは、国大中央※ 下車

バス(神奈中)

- 01 系統:中山駅行…岡沢町 下車

バス(相鉄)

- 浜 10 系統:横浜駅西口行…岡沢町、あるいは、国大中央※ 下車
- 浜 5 系統:横浜西口(交通裁判所経由)行…岡沢町 下車

※バスの入構は平日のみです。土・休日は国大中央停留所を経由しませんので、岡沢町停留所で下車してください。岡沢町から正門までは急な上り坂となっており、徒歩で 5 分ほどかかります。

追記:

和田町駅(相鉄線)や羽沢横浜国大駅(東横線)からのアクセスもごさいますが、階段や急勾配の坂が含まれる経路となっておりますので、事前に十分にお調べいただいたうえでご利用を検討ください。

大会事務局では対応いたしかねますので、本経路に関するお問い合わせはご容赦くださいますようお願い申し上げます。

<タクシー>

○横浜駅西口タクシーのりば

正門まで約 4.3km(約 10 分)です。

○新横浜駅北口タクシーのりば

正門まで約 5.7km(約 19 分)です。

なお、車両の入構は正門からのみとなります。

構内では、以下のようにご対応ください。

【降車の際】

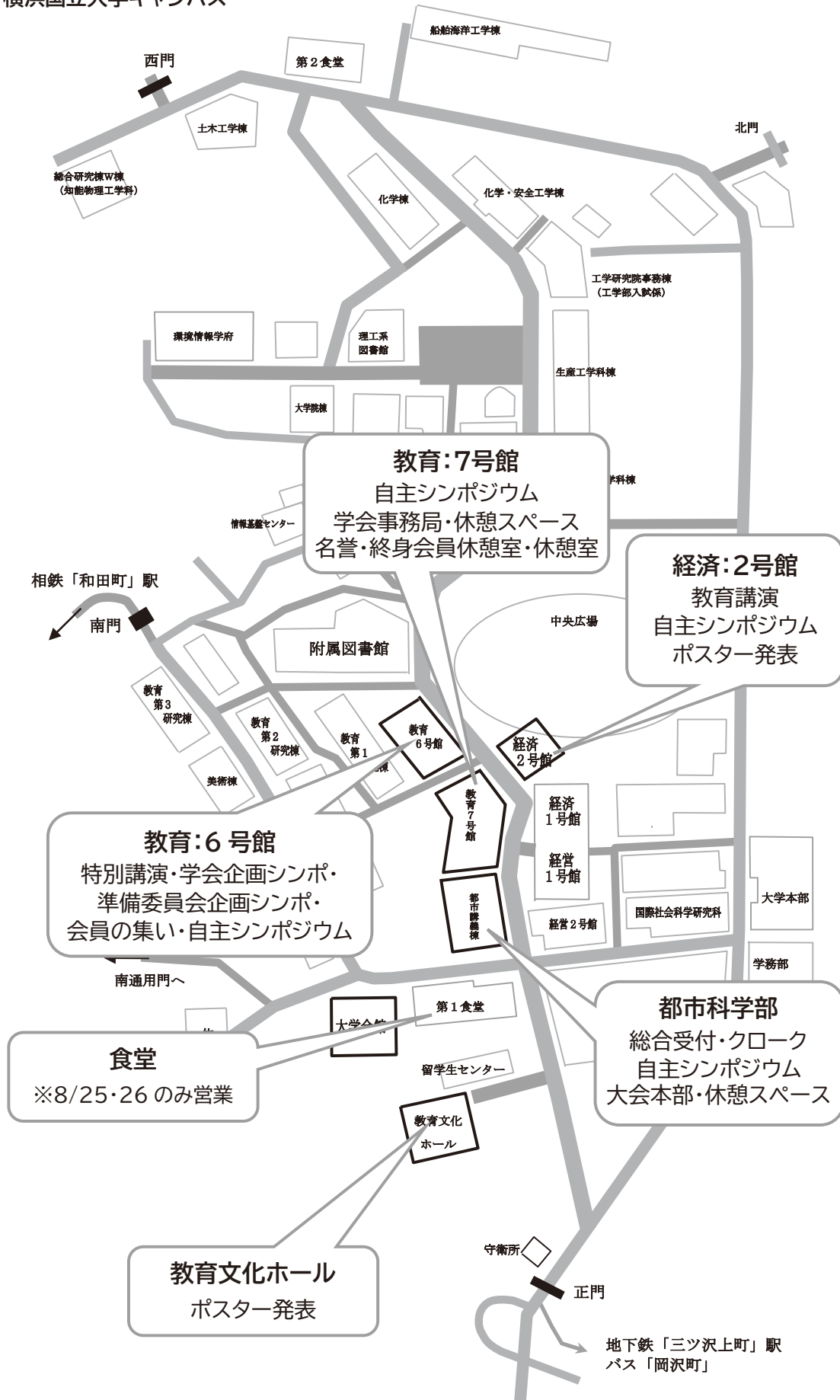
- ・肢体不自由・視覚障害等のある学会参加者は、行き先を「教育学部事務棟前」とご指定の上、教育学部事務棟前スペースで降車してください。
- ・それ以外の学会参加者は、行き先を「横浜国立大学本部棟前」とご指定の上、本部棟向かいの車いすスペースで降車してください。

【乗車の際】

- ・肢体不自由・視覚障害等のある学会参加者は、「教育学部事務棟」前より乗車してください。
- ・それ以外の学会参加者は、横浜国立大学学生会館周辺から乗車してください。
- ・なお、タクシーの不足により、タクシー会社に連絡しても配車されないことがありますのでご注意ください。

# 大会会場

横浜国立大学キャンパス



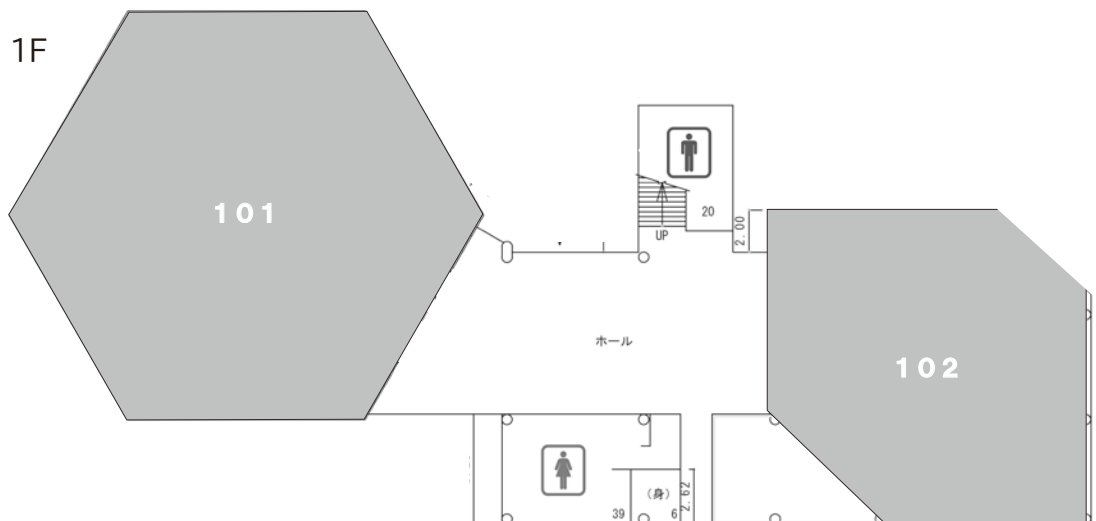
都市科学部講義棟 1F

- ◆エントランスホール…総合受付
- ◆106…クローク
- ◆101・102・103…自主シンポジウム
- ◆104…休憩スペース
- ◆107…大会事務局本部

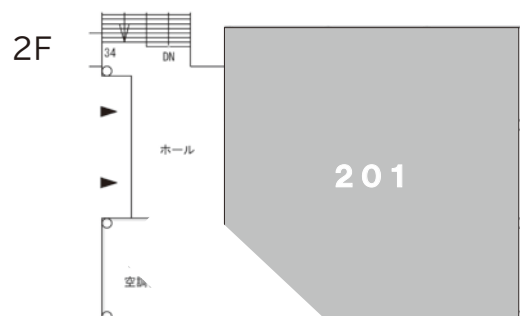


教育学部講義棟 6号館

- ◆101…特別講演／準備委員会企画・学会企画シンポジウム／会員のつどい／自主シンポジウム
- ◆102・201…101の中継／自主シンポジウム／教大協情報交換会

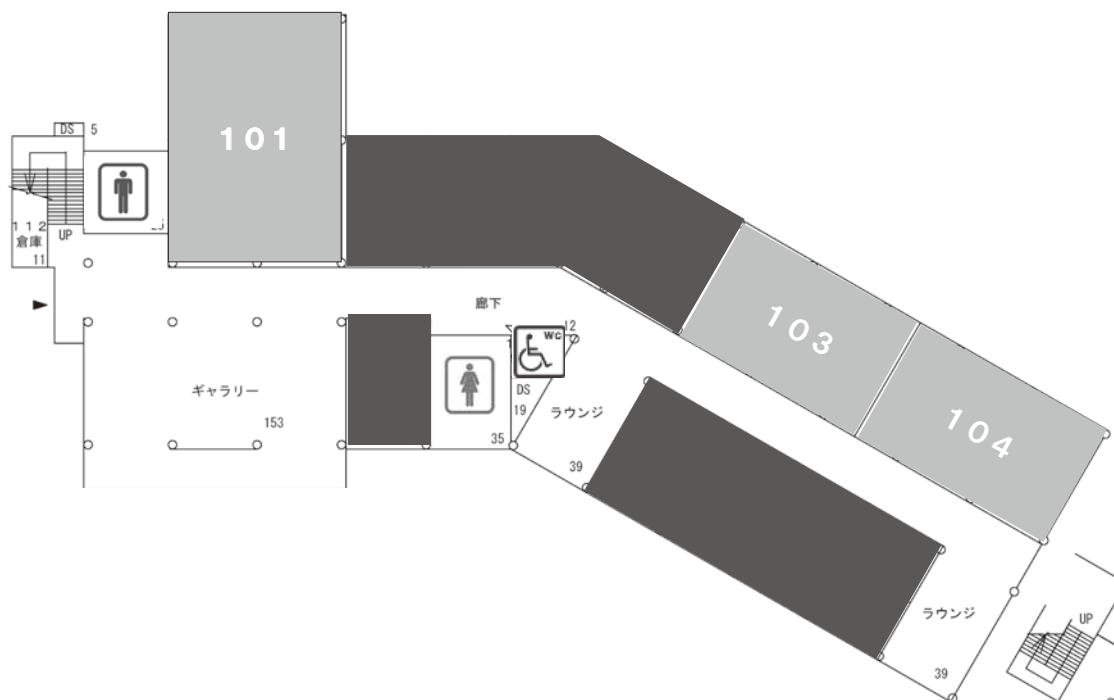


6号館のエレベータは建物の外にあります。



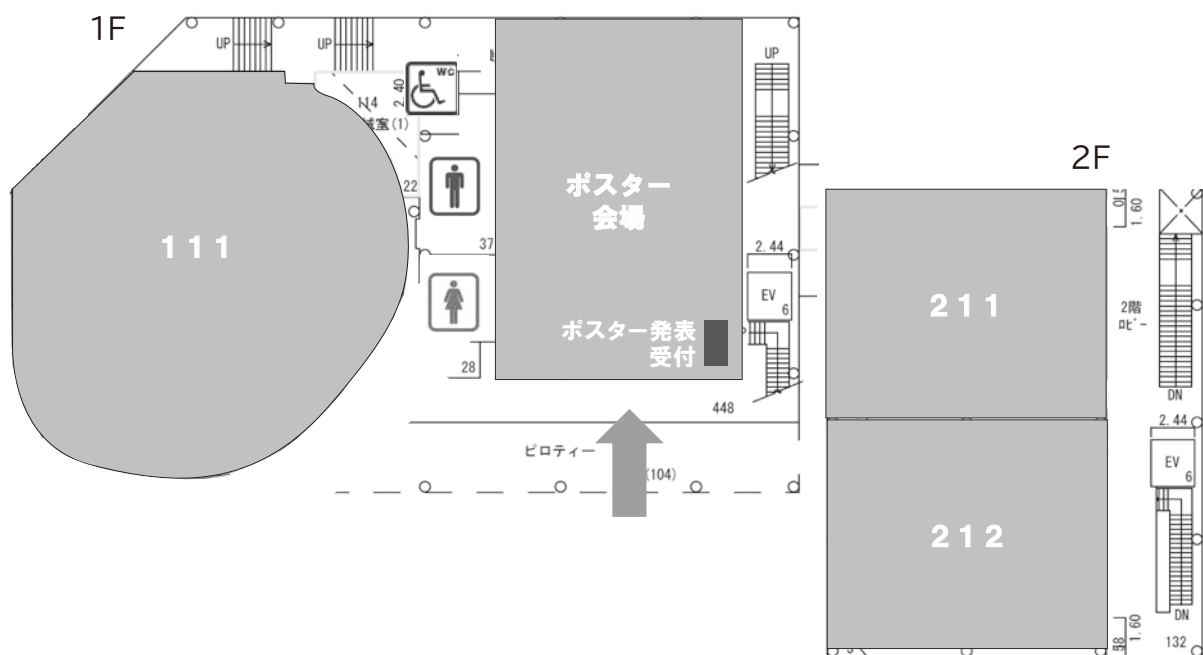
教育学部講義棟 7号館 1F

- ◆101・・・自主シンポジウム
- ◆ギャラリー・103・104・・・休憩室



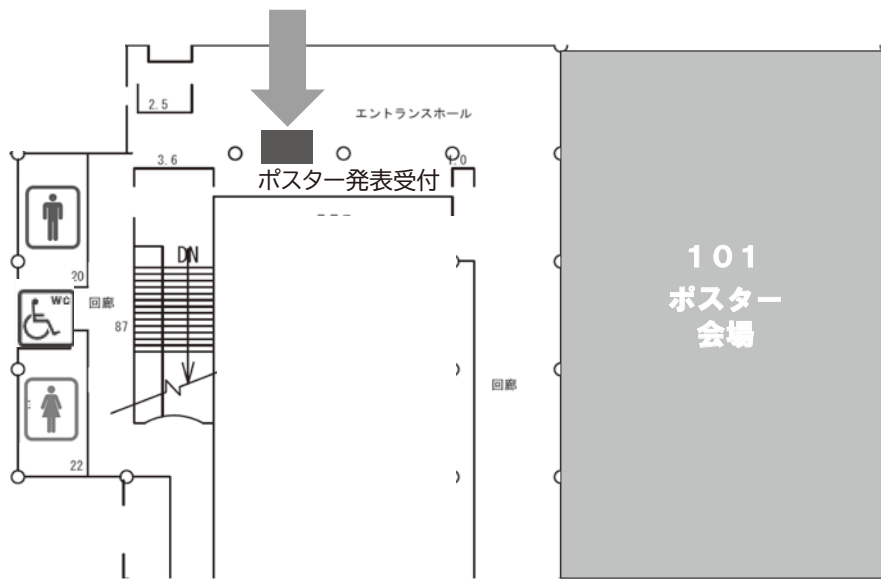
経済学部 2号館

- ◆ラウンジ中ホール・・・ポスター会場
- ◆111・・・教育講演
- ◆211・212・・・自主シンポジウム



教育文化ホール

◆101・・・ポスター会場



# 大会参加者へのご案内

## 1. 開催形式ごとの日程について

開催形式・日程	企画
8月18日(金)～9月20日(水) オンデマンド配信	●自主シンポジウムⅠ(話題提供) ●自主シンポジウムⅡ(話題提供/質問フォームあり) ●国際シンポジウム(日本語字幕あり) ●学会企画シンポジウム(話題提供)
8月25日(金)～8月27日(日) 現地開催(横浜国立大学)	●特別講演 ●教育講演 ●学会・大会企画シンポジウム (話題提供・質疑・ディスカッション) ●ポスター発表 ●自主シンポジウムⅠ(質疑・ディスカッション)

※リアルタイムオンラインによる配信はありません。

## 2. 参加受付

- 1)日時：8月25日(金) 13:00～17:30  
8月26日(土) 9:00～17:00  
8月27日(日) 9:00～13:00

場所：横浜国立大学 都市科学部講義棟1Fホール(詳しくは、会場マップをご覧ください)

### 2)大会参加の手続き

〈名誉・終身会員〉

『名誉・終身会員受付』にお越しください。

〈事前申し込みをされた方〉

『事前参加受付』にて、「ネームカード」「発表論文集(CD-ROM)」をお受け取りください。

- 「発熱、倦怠感、息苦しさ等」の症状がある方の入構をお断りすることがございますので、ご了承ください(今後の状況により、変更が生じる場合があります)。
- ネームカードは、大会期間中必ずご着用ください。
- プログラムや発表論文集(CD-ROM)の追加販売は、残部がある場合のみ行います。

### 3)オンデマンド配信

配信期間：8月18日(金)～9月20日(水)

※リアルタイムオンラインによる配信はありません。

### 3. 諸費用

大会 参加費	正会員	9,000 円	全ての企画に参加可能 ※発表論文集(CD-R)とプログラム (PDF)を含みます。 ※学部生は発表関与者に該当しません。
	大学院生・研究生・専攻科 (会員・非会員とも)	3,000 円	
	臨時会員	10,000 円	
	学部生	無料 (参加申込 必要)	
プログラム(冊子体)	1,500 円	希望者のみ	
発表論文集(CD-ROM)	2,000 円	数に限りがございますのでご注意ください。	

※大会参加は、すべて事前登録となっております(申込受付終了)。

大会当日の参加受付は行っておりませんので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

### 4. 学術行事等

- 1) 本大会での学術行事は、「特別講演(1 演題)」、「学会企画シンポジウム(3 演題)」、「国際シンポジウム(1 演題)」、「準備委員会企画シンポジウム(1 演題)」、「教育講演(10 演題)」、「受賞者講演、実践研究助成報告を含む 4 演題」、「ポスター発表(505 演題)」、「自主シンポジウム(108 演題、自主シンポジウム I 74 演題、自主シンポジウム II 34 演題)」からなっております。
- 2) 会場で実施する講演関係者、シンポジウム関係者、及び発表関係者は、それぞれ「講演関係者へのご案内」「シンポジウム関係者へのご案内」「自主シンポジウム関係者へのご案内」「口頭およびポスター発表関係者へのご案内」を必ずお読みください。

### 5. 会員のつどい

日時：8月26日(土)17:40～18:10

場所：教育学部講義棟 6 号館 101(メイン会場) / 102・201(中継会場)

### 6. 書籍・機器の展示、販売

今大会では書籍・機器の展示、販売はございません。

### 7. 昼食のご案内

感染対策により、大会期間中のお弁当等の販売は行いません。

キャンパス内の第 1 食堂がご利用いただけます。

日時：8月25日(金) 11:30～13:30

8月26日(土) 11:30～13:30

8月27日(日) 営業なし(休憩室としての利用は可)

また、会場内で、昼食をとっていただくことは可能です。

### 8. 学会事務局、大会本部

大会本部：都市科学部講義棟 107

学会事務局：教育学部講義棟 7 号館 202

### 9. 名誉・終身会員の控室

名誉・終身会員：教育学部講義棟 7 号館 201

## 10. シンポジウム等各種打ち合わせ・休憩場所

教育学部講義棟7号館1Fギャラリー・103・104、都市科学部講義棟104を、打ち合わせ場所、休憩室として開放いたします。会場にフリー wi-fi はございません。

## 11. クローク

クロークは都市科学部講義棟106にご用意いたしますが、スペースに限りがございますので、できるかぎり手荷物は宿泊先に預けるなど、自己管理にご協力ください。

<お預かり時間>

8月25日(金) 13:00～18:30

8月26日(土) 9:00～18:00

8月27日(日) 9:00～14:00

お荷物は、各日とも大会プログラム終了後30分以内に、必ずお引き取りください。

## 12. アクセシビリティ・サービス

### 1) アクセシビリティ窓口

アクセシビリティ・サービス関連で、御用のある方は、総合受付にてご用件をお伝えください。

### 2) 論文集の電子データ提供、発表補助、移動介助その他の支援について

本大会では、障害のある方に対して論文集の電子データ提供や発表補助(プレゼンテーションの操作、ポスター掲示等)、移動介助などのサポートをご用意いたします。

大会ホームページで事前にアクセシビリティ・サービスの申し込みをされた方には、大会プログラム公開後に大会準備委員会の担当者または担当コーディネーターよりメールをお送りします。

大会プログラムをご確認の上、実際に希望される具体的な支援内容をご回答ください。ご回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

### 3) 聴覚に障害のある方への情報保障について

大会ホームページで事前にアクセシビリティ・サービスの申し込みをされた方には、大会プログラム公開後に情報保障コーディネーターよりメールを送付します。大会プログラムをご確認の上、実際に情報保障を希望されるセッション名等をお知らせください。回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

聴覚に障害のある発表者や話題提供者は、アクセシビリティ本部にて情報保障コーディネーターを窓口として通訳者と打合せをしていただきます。詳細については個別にご連絡いたします。

また、事前に情報保障を申し込まれた方で、当日やむを得ない事情によりその企画・セッションへの参加をキャンセルされる場合は、当該企画・セッション開始1時間前までに情報保障コーディネーターまでご連絡ください。

### 4) 追加のアクセシビリティ・サービスの利用申し込みについて

事前申し込みをされていない発表者または参加者からの追加のアクセシビリティ・サービスの利用申し込みについては、受け付けられません。

参加者の皆様方におかれましては、大会の円滑な進行にご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 13. 掲示・連絡

1) 大会本部から大会会場での参加者への連絡は、大会ホームページにてお知らせするとともに、受付前に設置する「インフォメーションボード」にて行います。発表等の変更や取り消しも、大会ホームページと「インフォメーションボード」にてお知らせいたします。

2) 緊急の場合を除き、会場での呼び出しはできませんので、ご了承ください。

## 14. 旅行・宿泊など

今大会では旅行会社の斡旋はございません。

## 15. 急病・けが・体調不良など

会場内に簡易な救護室を設けていますので、休憩していただくことができます。なお、救急の場合には「119番」対応となります。救護の必要が生じた場合には、近くの大会係員までご連絡ください。

## 16. 関連行事（予定）

- 編集委員会 8月25日(金)11:00～12:00 教育学部講義棟7号館101
- 日本教育大学協会情報交換会 8月27日(日)13:50～14:50 教育学部講義棟6号館201

## 17. その他

- 1) ご不明な点がありましたら、大会係員にご遠慮なくお尋ねください。
- 2) 消防法の関係で各会場内に規定以上の人数が入れないことがありますので、ご理解ください。
- 3) キャンパス内の駐車場はご利用いただけません。
- 4) 印刷・複写：大会本部では「印刷・コピー」はお受けできません。配布資料、発表論文集は必ず事前に印刷してご持参ください。
- 5) 会場内は屋内・屋外共に全面禁煙です(加熱式たばこも含みます)。
- 6) 会場内にフリー wi-fi 等、インターネット環境はございません。
- 7) 当学会の参加は、以下の更新ポイントとして認められています。手続きの詳細は、申請先機関へお問合せください。
  - ・臨床心理士 資格更新制度「関連学会での諸活動への参加(第3群)」
  - ・学校心理士 更新ポイント F・G・H・I ※ A は対象外です。

## 18. 第61回大会フューチャーリサーチアワードの実施について

### 1) 趣旨

前回大会に引き続き、第61回大会では、将来の学会発展を担う学生の研究奨励を目的として、大学院生が筆頭発表者となる研究発表(ポスター発表、研究発表)の中から優秀な発表を顕彰する「日本特殊教育学会第61回大会フューチャーリサーチアワード」を実施します。

### 2) 選考手順

選考は大会が選定した選考委員により、発表原稿に対する一次審査を経て、当日の発表に対して二次審査を行います。評価の高い数件を「日本特殊教育学会第61回大会フューチャーリサーチアワード」の受賞者とします。

### 3) 受賞者への対応

審査終了後、8月26日の「会員のつどい」にて、受賞者を発表します。その後、承諾が得られた受賞者については、学会ならびに大会ホームページに氏名・発表内容・講評を掲載する予定です。

## 19. 連絡先

日本特殊教育学会第61回大会 運営事務局(株式会社プロアクティブ内)

〒650-0034 神戸市中央区京町83番地 三宮センチュリービル3階

TEL: 078-954-5160 FAX: 078-332-2506 (平日9:30-18:00)

e-mail: jase61@pacmice.jp

\*土日は休業日につき、電話・ファクスはつながりません。

\*大会期間中、会場内への直接のお電話等お問合せはお控えください。


## 発表論文集について

- ・大会当日に、受付にて電子化した発表論文集（CD-R）をお渡しします。
- ・事前に大会ホームページでも公開いたします。（8月中旬頃公開予定。事前参加受付を行った方のみ閲覧可能です。）
- ・当日に冊子や印刷されたものは配布いたしません。事前にプリントアウトした原稿を持参する、CD-Rの内容が確認できるノートパソコン（PDFファイルの読み込みが可能なもの）を準備するなどの対応をお願いいたします。会場内でのプリントアウトはできませんので、ご了承ください。

## 特別講演・学会および大会企画シンポジウム関係者へのご案内

1. 講演者は講演開始 30 分前までに受付にお越しください。係員が講演会場控室または講師控室までご案内いたします。
2. PC プロジェクター・ビデオ・DVD 等のご使用、および当日配布資料などに関しましては、事前に各担当者から相談・確認をさせていただきます。

## 自主シンポジウム(自主シンポジウムI)関係者へのご案内

1. 会場で行う各シンポジウムの質疑、ディスカッションの時間は 1 時間です。発表の時間配分は司会者にお任せしますが、前後の換気時間を確保するため、制限時間を厳守していただくようお願いいたします。パソコンを使用する場合は動作確認を行ってください。
2. 関係者は、セッション開始 15 分前までに各会場にご参集ください。
3. 対面での実施が原則です。Zoom での登壇や事前収録した動画による質疑応答は認められません。なお、不測の事態により登壇者が発表できない場合には、企画者の代理発表を認めます。運営事務局まで、その旨、メールにてご連絡ください。なお、代理発表の対応となった場合、発表抄録およびプログラムの名前は修正できません。
4. 会場ではプロジェクターの使用が可能ですが、パソコンはご持参ください。機器の操作はご自身でお願いいたします。プロジェクター入力端子は、HDMI 端子(右図)です。

お持ちのパソコンの出力端子をご確認いただき、パソコンに応じた変換アダプターを必ずご持参ください。
5. 補足資料を配布される場合には、事前に必要な部数(原則として 100 部程度)をご用意ください。
6. 司会者は、フロアの参加者に対し、氏名・所属を明らかにしてから質問をするように促してください。
7. 終了後は換気および密を防ぐため、速やかに会場より退室のご協力をお願いいたします。
8. 自主シンポジウム I のリアルタイムオンライン配信(会場外への参加者に対する配信)および、録音、録画は認められません。

## ポスター発表関係者へのご案内

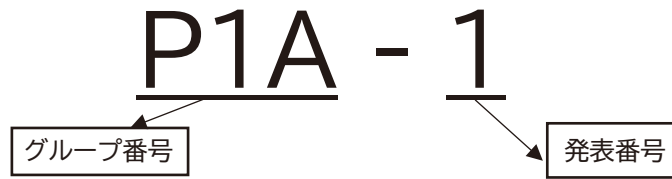
1. 本大会のポスター発表は、自由討論の形式で行います。
2. ポスター発表は、会場に設置されるパネルの指定番号の位置への20分前までの貼付、発表時間60分のポスター掲示、この間の自由討論を満了した場合(在籍者は受付で配布するリボンを必ず着用してください)、正式発表とみなされます。
3. 不測の事態により筆頭演者が発表できない場合には、連名発表者の代理発表を認めます。運営事務局まで、その旨、申し出てください。なお、代理発表の対応となった場合、発表抄録およびプログラムの筆頭演者の名前は修正できません。
4. ポスター発表のリアルタイムオンライン配信(会場外への参加者に対する配信)および、録音、録画は認められません。
5. ポスター発表の掲示・在籍時間は以下の表の通りです。

### 【ポスター発表スケジュール】

	グループ	会場	必要在籍時間
8月25日(金)	P1A	教育文化ホール 101	掲示時間 14:00～15:00
	P1B	教育文化ホール 101	掲示時間 15:30～16:30
	P1C	教育文化ホール 101	掲示時間 17:00～18:00
	P1D	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 14:00～15:00
	P1E	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 15:30～16:30
	P1F	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 17:00～18:00
8月26日(土)	P2A	教育文化ホール 101	掲示時間 9:30～10:30
	P2B	教育文化ホール 101	掲示時間 14:30～15:30
	P2C	教育文化ホール 101	掲示時間 16:20～17:20
	P2D	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 9:30～10:30
	P2E	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 14:30～15:30
	P2F	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 16:20～17:20
8月27日(日)	P3A	教育文化ホール 101	掲示時間 9:30～10:30
	P3B	教育文化ホール 101	掲示時間 11:00～12:00
	P3C	教育文化ホール 101	掲示時間 12:30～13:30
	P3D	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 9:30～10:30
	P3E	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 11:00～12:00
	P3F	経済学部2号館ラウンジ	掲示時間 12:30～13:30

6. パネルの大きさは横90センチ×縦210センチです。左上に横20センチ×縦10センチのポスター番号を掲示いたします。ポスターの最上部には発表題目(フォントサイズ目安:72ポイント)、発表者氏名(筆頭発表者に○印をつける)、および所属を明示してください。ポスター作成の際には、文字の大きさや図表の見やすさに注意し、2メートル離れたところから全体が読めるようにしてください。

(ポスター番号の例)



7. 当日、補足資料を配布される方は各自必要部数を用意し配布してください。
8. 補足資料の回収を必要とする場合は、発表者が責任を持って回収・処分してください。
9. 発表時間が終了したら、直ちにポスターを撤去し、リボンや画鋏は受け取ったポスター会場受付場所に返却してください。
10. ポスターの撤去は、発表時間(60分)終了後、10分以内に速やかに行ってください。時間を過ぎて掲示されている場合、運営側で撤去致しますのでご了承ください。
11. 終了後は換気および密を防ぐため、速やかにポスターの撤去へのご協力をお願いいたします。

以下、研究発表前に、ご確認ください。

(一社)特殊教育学会年次研究大会における研究発表に関する取扱い規定

[https://www.jase.jp/convention/pdf/presentation\\_rule\\_220227.pdf](https://www.jase.jp/convention/pdf/presentation_rule_220227.pdf)

## 発表に際してのお願い(アクセシビリティ関連)

### 1) 色覚特性(色覚障害)・ロービジョン(弱視)の参加者への情報保障のお願い

色覚特性(色覚障害)並びにロービジョン(弱視)の参加者が視覚情報を支障なく受け取れるように、講演用スライドやポスター等を作成する際には色彩や配色、文字の大きさ等に十分配慮していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

色覚特性のある方は日本人の男性の20人に1人、女性の500人に1人、日本全体では約320万人いると言われており、その特性により見えにくい色彩や配色があります。色覚特性に配慮していただきますと、弱視の方もほぼ同様の配慮で見やすくなります。以下に配慮事項や参考資料を掲載いたしますので、資料作成の際にご参考になさってください。

#### 〈配慮事項〉

1. 使用する文字は太字にする
2. 赤色は見えにくいので、注意を喚起する色としては使用しない。
3. 緑色または黒地の背景に赤色(またはその逆)の文字や図の使用を避ける。
4. 黒を背景とした白や黄色の文字は見やすい。
5. 白を背景とし、黒のヘッジ(囲い)をつけた白い文字は見やすい。
6. 判別が難しい色同士の配色を避ける。  
例:「赤・緑」、「深緑・こげ茶」、「ピンク・灰色」、「灰色・水色」、「黄緑・黄土色」、「青緑・灰色」、「薄い緑・肌色」
7. グラフなどの図は、色のみではなく模様または文字などによる情報も加える。
8. グラフなどの図は、外周を黒でふちどり、その中に掲示する色同士の境目にも黒線を引く。
9. スライドの文字は太字で5行以内に大きく掲示すると見やすい。
10. スライドの背景デザインはなるべく連続して同一のものでそろえると目が疲れない。

#### 〈参考資料〉

- 文部科学省「色覚に関する指導の資料」  
<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00004402/sikikaku.pdf>
- 日本生理学会「色覚異常者に配慮したカラースライドとポスター作成についての提言」  
<http://physiology.jp/content/6201/>
- NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構  
<http://www2.cudo.jp/wp/>
- 鳥取県「カラーユニバーサルデザインガイドブック」  
[https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954753/CDU01\\_CUD20.pdf](https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954753/CDU01_CUD20.pdf)

### 2) 視覚障害等のある参加者への電子データご提供等の配慮のお願い

講演やシンポジウム等において、抄録に記載されていない内容がスクリーン投影されたり、追加の資料が配られたりするケースが多く見られますが、視覚に障害があるとこれらの内容にアクセスできないことがあります。もし視覚に障害がある参加者から電子データ等の提供に関する要望があった場合には、ご協力をお願いいたします。

また、ポスター発表や展示等で視覚に障害のある参加者を見かけた際には、積極的にお声掛けいただき、発表や展示の内容を言葉でわかるようにご説明いただけますようお願いいたします。

### 3) 聴覚障害のある参加者のための情報保障のお願い

日本特殊教育学会では聴覚に障害のある会員のために、一部のプログラムで情報保障を行っております。情報保障の質を担保するためには、手話通訳者や文字通訳者のスキルのみならず、講演者や発表者のご協力が欠かせません。

情報保障を設置することになった企画については、情報保障コーディネーターから連絡をさせていただきますので、下記についてのご協力をお願いいたします。

1. 大会1週間前までに、講演者、話題提供者、指定討論者等が当日に使用される資料の提供をお願いいたします。
2. 手話通訳および文字通訳の見やすさに配慮した会場設営にご協力をお願いします。
3. 通訳者席の確保にご協力をお願いします。
4. 文字通訳の場合は、適宜通訳の状況をスクリーンでご確認いただき、司会進行の調整をお願いします。
5. 視聴覚資料を使用される場合は、あらかじめ情報保障コーディネーターにお伝えください。

# 会場別大会日程 1日目 (8月25日 金曜日)

施設	教室	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～	
教育学部 講義棟 6号館	教6 エントランスホール							
	教6-101			学会企画シンポジウム (15:15～16:45)				
	教6-102			学会企画シンポジウム (中継)				
	教6-201			学会企画シンポジウム (中継)				
教育学部 講義棟 7号館	教7-101		自主シンポジウム1 (14:00～15:00)		自主シンポジウム7 (15:30～16:30)		自主シンポジウム13 (17:00～18:00)	
	教7 ギャラリー		休憩スペース					
	教7-103		休憩室					
	教7-104		休憩室					
	教7-201		名誉・終身会員休憩室					
	教7-202		学会事務局					
	教7-203							
都市科学部 講義棟	都101		自主シンポジウム2 (14:00～15:00)		自主シンポジウム8 (15:30～16:30)		自主シンポジウム14 (17:00～18:00)	
	都102		自主シンポジウム3 (14:00～15:00)		自主シンポジウム9 (15:30～16:30)		自主シンポジウム15 (17:00～18:00)	
	都103		自主シンポジウム4 (14:00～15:00)		自主シンポジウム10 (15:30～16:30)		自主シンポジウム16 (17:00～18:00)	
	都104		休憩スペース					
	都ホール		大会受付					
	都106		クローク					
	都107		大会事務局本部					
経済学部 講義棟 2号館	済2ラウンジ		ポスター発表P1D (14:00～15:00)		ポスター発表P1E (15:30～16:30)		ポスター発表P1F (17:00～18:00)	
	済2-111		教育講演1 (14:00～15:00)		教育講演2 (15:30～16:30)		教育講演3 (17:00～18:00)	
	済2-211		自主シンポジウム5 (14:00～15:00)		自主シンポジウム11 (15:30～16:30)		自主シンポジウム17 (17:00～18:00)	
	済2-212		自主シンポジウム6 (14:00～15:00)		自主シンポジウム12 (15:30～16:30)		自主シンポジウム18 (17:00～18:00)	
教育文化 ホール	文101		ポスター発表P1A (14:00～15:00)		ポスター発表P1B (15:30～16:30)		ポスター発表P1C (17:00～18:00)	

# 会場別大会日程 2日目 (8月26日 土曜日)

施設	教室	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～	17:00～	18:00～	
教育学部 講義棟 6号館	教6エントラ ンスホール											
	教6-101	学会企画シンポジウム2 (9:30～10:30)		特別講演 (11:00～12:00)		準備委員会企画 シンポジウム (12:30～14:00)		学会企画 シンポジウム3 (14:30～16:00)		会員の 集い		
	教6-102	学会企画 シンポジウム (中継)		特別講演 (中継)		準備委員会企画 シンポジウム (中継)		学会企画 シンポジウム (中継)		会員の 集い (中継)		
	教6-201	学会企画 シンポジウム (中継)		特別講演 (中継)		準備委員会企画 シンポジウム (中継)		学会企画 シンポジウム (中継)		会員の 集い (中継)		
教育学部 講義棟 7号館	教7-101	自主シンポジウム19 (9:30～10:30)		自主シンポジウム25 (11:00～12:00)		自主シンポジウム31 (13:00～14:00)		自主シンポジウム37 (14:30～15:30)		自主シンポジウム43 (16:20～17:20)		
	教7 ギャラリー	休憩スペース										
	教7-103	休憩室										
	教7-104	休憩室										
	教7-201	名誉・終身会員休憩室										
	教7-202	学会事務局										
都市科学部 講義棟	都101	自主シンポジウム20 (9:30～10:30)		自主シンポジウム26 (11:00～12:00)		自主シンポジウム32 (13:00～14:00)		自主シンポジウム38 (14:30～15:30)		自主シンポジウム44 (16:20～17:20)		
	都102	自主シンポジウム21 (9:30～10:30)		自主シンポジウム27 (11:00～12:00)		自主シンポジウム33 (13:00～14:00)		自主シンポジウム39 (14:30～15:30)		自主シンポジウム45 (16:20～17:20)		
	都103	自主シンポジウム22 (9:30～10:30)		自主シンポジウム28 (11:00～12:00)		自主シンポジウム34 (13:00～14:00)		自主シンポジウム40 (14:30～15:30)		自主シンポジウム46 (16:20～17:20)		
	都104	休憩室スペース										
	都ホール	大会受付										
	都106	クローク										
	都107	大会事務局本部										
経済学部 講義棟 2号館	済2 ラウンジ	ポスター発表P2D (9:30～10:30)						ポスター発表P2E (14:30～15:30)		ポスター発表P2F (16:20～17:20)		
	済2-111	教育講演 4 (9:30～10:30)				教育講演 5 (13:00～14:00)		教育講演 6 (14:30～15:30)		教育講演 7 (16:20～17:20)		
	済2-211	自主シンポジウム23 (9:30～10:30)		自主シンポジウム29 (11:00～12:00)		自主シンポジウム35 (13:00～14:00)		自主シンポジウム41 (14:30～15:30)		自主シンポジウム47 (16:20～17:20)		
	済2-212	自主シンポジウム24 (9:30～10:30)		自主シンポジウム30 (11:00～12:00)		自主シンポジウム36 (13:00～14:00)				自主シンポジウム48 (16:20～17:20)		
教育文化 ホール	文101	ポスター発表P2A (9:30～10:30)						ポスター発表P2B (14:30～15:30)		ポスター発表P2C (16:20～17:20)		

# 会場別大会日程 3日目 (8月27日 日曜日)

施設	教室	9:00～	10:00～	11:00～	12:00～	13:00～	14:00～	
教育学部 講義棟 6号館	教6 エントランスホール							
	教6-101		自主シンポジウム49 (9:30～10:30)	自主シンポジウム58 (11:00～12:00)	自主シンポジウム67 (12:30～13:30)			
	教6-102		自主シンポジウム50 (9:30～10:30)	自主シンポジウム59 (11:00～12:00)	自主シンポジウム68 (12:30～13:30)			
	教6-201		自主シンポジウム51 (9:30～10:30)	自主シンポジウム60 (11:00～12:00)	自主シンポジウム69 (12:30～13:30)	教大協情報交換会 (13:50～14:40)		
教育学部 講義棟 7号館	教7-101		自主シンポジウム52 (9:30～10:30)	自主シンポジウム61 (11:00～12:00)	自主シンポジウム70 (12:30～13:30)			
	教7ギャラリー		休憩スペース					
	教7-103		休憩室					
	教7-104		休憩室					
	教7-201		名誉・終身会員休憩室					
	教7-202		学会事務局					
都市科学部 講義棟	都101		自主シンポジウム53 (9:30～10:30)	自主シンポジウム62 (11:00～12:00)	自主シンポジウム71 (12:30～13:30)			
	都102		自主シンポジウム54 (9:30～10:30)	自主シンポジウム63 (11:00～12:00)	自主シンポジウム72 (12:30～13:30)			
	都103		自主シンポジウム55 (9:30～10:30)	自主シンポジウム64 (11:00～12:00)	自主シンポジウム73 (12:30～13:30)			
	都104		休憩スペース					
	都ホール		大会受付					
	都106		クローク					
	都107		大会事務局本部					
経済学部 講義棟 2号館	済2ラウンジ		ポスター発表P3D (9:30～10:30)	ポスター発表P3E (11:00～12:00)	ポスター発表P3F (12:30～13:30)			
	済2-111		教育講演8 (9:30～10:30)	教育講演9 (11:00～12:00)	教育講演10 (12:30～13:30)			
	済2-211		自主シンポジウム56 (9:30～10:30)	自主シンポジウム65 (11:00～12:00)	自主シンポジウム74 (12:30～13:30)			
	済2-212		自主シンポジウム57 (9:30～10:30)	自主シンポジウム66 (11:00～12:00)	自主シンポジウム75 (12:30～13:30)			
教育文化 ホール	文101		ポスター発表P3A (9:30～10:30)	ポスター発表P3B (11:00～12:00)	ポスター発表P3C (12:30～13:30)			

# 準備委員会企画

特別講演

準備委員会企画シンポジウム

教育講演



## 当事者目線の支援を目指して

—津久井やまゆり園事件を受け止めて—

講師 石渡 和実 (東洋英和女学院大学名誉教授, 元津久井やまゆり園事件検証委員会委員長)  
司会 名執 宗彦 (横浜国立大学)

### 【講演概要】

津久井やまゆり園事件後の検証委員会で、「本人不在」を強調したが報告書には反映されず、悔いばかりが残った。しかし、知的障害がある当事者が支援者や行政を動かし、昨年10月、「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」が公布された。本人の望みと願いを尊重し、自己決定に基づく自分らしい暮らしを実現し、本人も周りの人も喜びを感じられる共生社会の実現がめざされている。

昨年の9月には、障害者権利条約の履行状況に関する日本審査の後、国連の「総括所見(勧告)」が出された。その冒頭で、日本社会のパターナリズムや優生思想を問題視し、津久井やまゆり園事件にも触れている。入所施設や精神科病院からの地域移行が進まないことと分離教育の2点が注目され、子どもの頃に分けられることが成人になって地域から排除されることにつながると指摘している。今、「共に学ぶ」「共に生きる」が問い直され、インクルーシブ教育も当事者目線で検討することが求められている。

# インクルーシブ教育の実現に向けた教育のイノベーション

—教育現場に求められていること—

司会者 渡部匡隆・名執宗彦（横浜国立大学）  
話題提供者 大関 浩仁（品川区立第一日野小学校）  
中田 正敏（横浜創英大学）  
浜田寿美男（奈良女子大学）

KEY WORDS: インクルーシブ教育 ウェルビーイング イノベーション

## 【企画趣旨】

令和5年3月に、次期教育振興計画が答申された。2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上が基本方針とされ、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進が基本的な方針の一つとされた。ところが、子供の抱える困難の多様化・複雑化、心身の健康上の多様な課題、障害のある子供や医療的ケア児、病気療養中の子供への支援、性的マイノリティへの対応、地域社会の国際化に加え、特異な才能のある児童生徒等への指導・支援等その実現にはチャレンジしなければならない大きな課題がある。

中でも、令和4年12月に通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果が発表され、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒の割合が8.8%であると報告された。一方、令和4年9月には、国連の障害者権利委員会からインクルーシブ教育に関して懸念と要請が伝えられている。準備委員会では「共に学ぶ、共に生きる」ことは大きな願いでありながら、その実現には大きな変革が必要とされていると考えた。そこで、本シンポジウムは、それぞれのお立場から、障害のある子供を念頭に、「共に学ぶ、共に生きる」教育の現状や課題について話題提供を頂き、インクルーシブ教育を実現していくための教育のイノベーション（変革）について考えていきたい。

## 【話題提供1：大関浩仁氏】

現在、全国の小・中・義務教育学校の83%（令和3年度学校基本調査より）に特別支援学級が設置されており、32,6万人の児童生徒がその障害特性等に応じて編成された特別の教育課程で学んでいる。さらに、通常の学級に在籍する児童生徒のうち16万人の児童生徒が特別支援教室等において通級による指導を受けている。

特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室など、多様な学びの場があるなか、各学校では一人一人の教育的ニーズに応じるべく、適切な指導・支援ができる体制の整備に取り組むと共に、共生社会の実現を見据え、交流及び共同学習を推進してきたところである。

この10年間で特別支援教育の対象となる児童生徒数は大きく増え、倍増してきた。しかしながら、指導者において特別支援教育に関する専門性の担保はどうかであろうか。また、各校においてインクルーシブ教育システムの構築を支えるための基礎的環境整備や合理的配慮は十分に進んでいるといえるであろうか。諸調査結果から見える現状の課題について触れるとともに、昨今の教員不足問題なども含め、指導者の確保や専門性の担保について意見を交わしたいと考える。

【話題提供2：中田正敏氏】支援というコンセプトを組織マネジメントに位置づけることによりどのようなイノベー

ションが可能になるかについて、高等学校におけるインクルーシブな学校づくりの実践を踏まえて具体的に考えてみたい。「インクルージョンのためのインデックス」（2002）は「インクルーシブな文化・方針・実践」という観点から様々な切り口を提示している。組織文化に着目することで、これまでの垂直的な教師・生徒の関係性を基盤とする「指導の文化」から離脱し、水平的な関係性を基盤とする「対話の文化」を形成することにより、支援ができる組織づくりというイノベーションを構想することが可能である。具体的には、学校の日常実践で起こる様々な軋轢の際に、対象を捉える媒介（レンズ）の転換、対象から主体への転換が起きるように働きかけることにより、「指導の文化」のスキプトの書き換えが可能になることがある。日常実践における論理は既存のスキプトに支配・統制されていることが多く、そこに働きかけて流動化を図れるからである。また、このような転換が具体化されるためには組織におけるインフォーマルなコミュニケーションが必要不可欠であるが、これらも含めた複雑なプロセスの諸局面を把握するためのツールについても考えてみたい。最後に、「協働の文化」の可能性について、当事者である生徒も参加する「コミュニケーション型コラボレーション」という「実践の論理」に関する話題も提供してみたい。

## 【話題提供3：浜田寿美男氏】

時代とともに人びとの「生きるかたち」は変わる。とりわけ私自身が生きてきた戦後の70余年を振り返ってみると、この間に人の「生きるかたち」は大きく変わってきた。おそらく人類史上でも、これほど大きな変化を遂げた時代はなかったのではないかと思われるくらいである。そしてここから先、さらに大きな変化が起こる可能性が高い。そのなかで「学校のかたち」はどのように変化してきたのか。また、これからどのように変化しようとしているのか。

その学校を軸として子どもたちの「生きるかたち」は、これまでどのように変化してきたのか。わが国に学校という制度が始まったのが1873年であるから、今年でちょうど150年。もちろんその間に「学校のかたち」は変わってきたが、子どもたちにとって学校がはじめて出会う社会であったことは、いまも変わらない。そこで子どもたちはみな、他の子どもたち、他のおとなたちと「共に生きる」ことを学び、その「生きるかたち」をなぞって、自らの「生きるかたち」を作り出していく。たとえば、その学校の間でいろんなハンディを持つ子どもと出会い、「共に生きる」ことができれば、自身の「生きるかたち」のなかに、自ずとインクルーシブな目が育つことになる。しかし、いまの学校は子どもたちのなかにこのインクルーシブな目が育まれるような場に成りえているのか。そうした観点から、わが国の「インクルーシブ教育」の現状を再考してみたい。

(WATANABE Masataka, NATORI Munehiko, OZEKI Hirohito, NAKATA Masatoshi, HAMADA Sumio)

## 北欧のインクルーシブ教育システムの概観

—日本に対する示唆も念頭に—

講師 是永 かな子 (高知大学)

司会 高野 陽介 (横浜国立大学)

### 【講演概要】

2022年9月、国連の障害者の権利に関する委員会は日本の第一次報告書に対して「長く続く特別支援教育により、障害児は分離され、通常の教育を受けにくくなっている」との最終見解を公表した。特別な場で分離的に提供される特殊教育から、一般的な教育制度から排除されず個のニーズに柔軟に応じるインクルーシブ教育への転換は日本において依然課題である。本教育講演では日本に対する示唆も念頭に、インクルーシブ教育を推進するスウェーデン、ノルウェー、デンマーク、フィンランドのインクルーシブ教育システムを概観する。具体的な視点としては前述の国連委員会の指摘を踏まえて「すべての障害児が小中高校に入れる手段の確保」のための個別化(Individualization)と柔軟性(Flexibility)を追求する学校制度、「障害者の権利を学ぶ」ことを含めたインクルーシブ教育実践を想定した教員養成・教員研修、「特別支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級で学ぶ」ための実践について、概説する。

## 不器用さのある子どもの学習動作の見方と指導法

—動きのピラミッド・ツールを用いて—

講師 笹田 哲 (神奈川県立保健福祉大学)

司会 徳永 亜希雄 (横浜国立大学)

### 【講演概要】

学習(机上)は頭の中だけで行うわけではなく椅子に座り、鉛筆などの学用品を操作して行うため、体・指先も上手に使わなければなりません。不器用さのある子どもに対してできない動作を繰り返す指導だけでは技能習得につながらないことが多く自己効力感が低下してしまう。学習動作における体の動きをピラミッドで図式化してみると気になる動作が上手にできるためには、どのような機能が必要であるのか理解でき指導に活かすことが可能になる。ピラミッドは4段階から構成され第1段階は姿勢、バランス機能をさす。第2段階は握り・つまみ、両手操作の指先機能である。第3段階は大人を見る、あるいは手元、箸などを目の動きと、噛む飲み込むなどの口の動きが含まれる。第4段階は注意をむける、説明を聞いてやり方を考える、意欲などが含まれる。食事、書字等における課題を取り上げ、ピラミッド法で問題点を抽出し具体的な指導プログラムを解説する。

## NICU命の授業

—新しい命を守る医療の現場から—

講師 豊島 勝昭（神奈川県立こども医療センター周産期医療センター）

司会 宮野 雄太（横浜市港南台ひの特別支援学校）

### 【講演概要】

少子化が進む本邦において、低出生体重児や先天性疾患児の割合は増加している。救命率の上昇につれて、極低出生体重児の約3分の1にいわゆる<発達障害>と呼ばれる発達の差異があることが明らかになった。医療的ケアと共に生活する先天性疾患児も増加している。NICU卒業生は<慢性的な疾患>としての心身の健康を生涯に渡って見守る必要がある。

小児医療と共に生活する子供達とご家族を伝えるSNSでの情報発信と「NICU命の授業」を県内の小中高校で86回行ってきた。早産や疾患があっても、子どもとその家族が生きづらさを感じることなく、笑顔で育てていけるには周産期医療・小児医療・地域医療・保育・保健・療育・教育・福祉のそれぞれの尽力とチーム連携が必要である。早産や先天性疾患の命を救うで止まらず、早産や先天性疾患の新生児が加わる家族全体を支えることを主眼にした教育と小児医療の連携向上のきっかけの1つになる講演を目指したい。

## トラブルを回避しグッドウェイ・バッドウェイを主体的に選択するための認知行動療法セッション

講師 堀江 まゆみ（白梅学園大学）

司会 後藤 隆章（横浜国立大学）

### 【講演概要】

知的障害のある青少年の社会的トラブルに関わる教員や支援者は、支援困難なために「叱る・言い聞かせる」等の対応を取ることも少なくないが、トラウマインフォームドケア（T I C）の課題がある。ここで取り上げるKeepSafeプログラムは、主に「対人関係と性」に課題のある思春期・青年期の知的障害者とその保護者を対象としたグループセッションであり、基本構造としてGoodLiveモデルおよびGoodWayモデルから構成されている。トラブルを繰り返した青少年が感情のナラティブ・コミュニケーションを体験し、トラブル経験を外在化しながら、思考に存在するGoodサイド/Badサイドに気づく。これにより自分にとっての「GoodWay/BadWay」を主体的に選択できるアプローチとなっている。特に、「同意」概念が視覚教材で実感的に理解できる、トラブルの直面化を避けたソーシャルストーリーが活用されるなどに特徴がある。

## 「能力」というモノは存在しない

講師 佐伯 胖（公益社団法人信濃教育会教育研究所）

司会 青木 真澄（東京学芸大学）

### 【講演概要】

特殊教育に限らず、教育の世界は「能力」というトラウマにとらわれている。「教育」といえば、「能力を育成すること」、「能力を獲得させること」というのが当たり前のよう考えられてきた。しかし、インクルーシブ教育が叫ばれるようになってから、どんな特性をもっている、すべての人が「善く生きたい」願いをもっており、その願いはすべて等しく尊重されるべきだ、という考え方に転換してきている。このような発想の転換には、「能力」を、人の心の中にある何かモノのように考える実体論的能力観から、能力はその人が他者や状況との関わりを通して「現れる（可視化される）」特性だとする関係論的能力観に転換する必要がある。そのことはまた、必然的に、「評価」観の転換（外的評価基準によらず、鑑識眼的評価への転換）も意味する。さらに、これら全ての中心に「三人称的アプローチ」から「二人称的アプローチ」への転換があることを示す。

## エビデンスに基づく教育の考え方を巡って

講師 四日市 章（筑波大学）

司会 雁丸 新一（横浜国立大学）

### 【講演概要】

現在、特別支援教育の分野でもエビデンスに基づく教育や評価が話題となり、科学的、論理的な捉え方が提案されている。一方この教育は学習と指導に関わる多量かつ多様な要因を含み、子どもの長期的な変化も視野に入れる必要がある。したがって実践者が、指導する対象や方法を、エビデンスに基づき、科学的、客観的に捉え、論理的に考えながら実践すること、また得られた成果を的確に評価・判断して次の指導に活かすこと等は、容易ではない。さらに、指導では経験によって得られる実践知の有効性も高い。このような背景の中で、教師や研究者が子どもを中心に活動していくためには、多様な専門家また保護者等との協働による多角的な視点が重要となろう。ここでは、教育や指導に関わるエビデンスの捉え方、評価の特性や限界、それらを踏まえた、科学的な思考に基づく教育者と研究者との協働による指導実践への期待について、心理学的な視点を基に考えてみたい。

## 学校教育における病気療養する児童生徒のICT活用

講師 滝川 国芳（京都女子大学）

司会 泉 真由子（横浜国立大学）

### 【講演概要】

病気療養する子どもは、病状や治療等によって、授業時数の制約、学習の空白や遅れ、病気の不安等による学習意欲の低下、身体活動の制限、経験の不足や偏りによる社会性の未熟などの傾向が見られる。そこで、学校の教師には、児童生徒が主体的で意欲的に活動できる環境を整備し、達成感、自己効力感をもつことができるように配慮しながら教育活動を行うことが求められる。その際、ICTを活用することによって、遠隔教育等のこれまではなかった時間や距離の制約なく、病状や学習状況に応じた新たな教育が可能となる。本講演では、ここ数年で大きく変化した病弱教育の教育制度を概説するとともに、ICT活用の意義と実践事例について紹介したい。

## 障害のある子どもの教育における個別的・協働的な学びを考える

—望ましい個性化と社会化を求めて—

講師 石塚 謙二（元文科省特別支援教育課調査官、元桃山学院大学）

司会 名執 宗彦（横浜国立大学）

### 【講演概要】

近年、「個別最適な学び」を充実することを目指して、一律に同じ学習環境とせず、それぞれに適した学習の機会や手立てのきめ細やかさが求められるようになってきた。障害のある子どもの教育においては、従前、それが当然であったことを踏まえると、教育対象によって異にしていた考えが近づいてきたように感じる。この後、小・中学校等と同様の教科学習が行われている場合は、「協働的な学び」の充実も意識し、よりいっそう精緻な指導の手立てが求められよう。同様に知的障害のある子どもの教育においては、教科内容等の特性を踏まえ、個別化と集団化を駆使しつつ、望ましい個性化と社会化の醸成を目指したい。生活に必要な社会の文化や規範などを实际的に身に付けつつ、持てる力を高め、個性を形成し、実社会の中で自らを発揮できるよう手立てを尽くしたい。

## 特別支援教育における生体機能計測データの活用 —エビデンスに基づく特別支援教育のために—

講師 勝二 博亮（茨城大学）

司会 軍司 敦子（横浜国立大学）

### 【講演概要】

近年、スマートウォッチを用いて、活動量だけではなく、脈拍や血中酸素飽和度など、気軽に生体機能を計測できる時代になった。脳波や脳血流計測もモバイル化が進んできており、実験室の外にある生活環境下での計測も可能となった。このような生体機能計測法の発展は、少しずつではあるが、特別な支援を必要とする子どもの行動の「なぜ？」に迫ることを可能にしてきた。「エビデンスに基づく教育」を行うには、子どもの実態を把握することが重要であり、子どもの内面世界を知るためには生体機能計測データも活用できるのではないか。数値化されたデータによって、子どもの全体像を明らかにするには限界があるだろう。しかし、そのようなデータだからこそ、仮説の裏付けや新たな気づきを生むかもしれない。教育講演では、いまだ発展途上ではあるが、さまざまな生体機能計測技術を駆使して、子どもの内面世界に迫ろうとする、これまでの試みを紹介していきたい。

## 強度行動障害の予防と対応のための教育支援

講師 井上 雅彦（鳥取大学）

司会 神山 努（横浜国立大学）

### 【講演概要】

強度行動障害は医学的診断名ではなく、激しい自傷、他害、破壊的行動などの行動上の問題のために特別な支援を必要とする状態像を指す行政用語であり、障害者総合支援法による障害支援区分の行動関連項目が10点以上の場合が該当する。強度行動障害は児童期から重篤化することがわかってきており、令和3年時点で約6万8千人とされている。また強度行動障害はその処遇の困難さから被虐待の約3割が該当するとされ、行動障害のために十分な福祉・医療サービスが受けられない人もいる。このため早期からの家族、学校教育、福祉への適切な養育・支援方法の啓発と連携が必要とされている。厚生労働省は強度行動障害に関する標準的な研修を事業所向けに提供しており、中核的人材の養成も検討してきている。しかし学校教育法には十分な位置づけがなく、アセスメントや支援方法も十分に普及していない。本講演では強度行動障害の実態と社会的課題、学校教育に求められる課題とアセスメント、予防と支援方法について検討する。



# 学会企画

国際シンポジウム  
学会企画シンポジウム  
学会賞受賞者講演



# Innovations in teacher education for inclusive education - Norway

## インクルーシブ教育のための教員養成の革新 - ノルウェー

企画者 是永かな子 (高知大学)・川合 紀宗 (広島大学)・宮本 昌子 (筑波大学)・  
井上 知洋 (香港中文大学)・野口 晃菜 (一般社団法人 UNIVA)  
講演者 Karen Parish (Inland Norway University of Applied Sciences)  
Hege Merete Somby (Inland Norway University of Applied Sciences)

KEY WORDS: ノルウェー インクルーシブ教育 教員養成

本講演では、第一にノルウェーの教育の概略、そしてインクルーシブ教育について紹介する。第二に、教員養成課程からのドロップアウトがいかに課題になっているのかを伝える。第三に、教員養成における革新として、反転学習やバーチャルリアリティシミュレーション (以下、VR) 技術を用いた実践的なスキル形成について、映像も用いつつ示す。

第一にノルウェーの教育の概略である。ノルウェーは北欧に位置する。教育制度は、基礎自治体を基盤とし、万人の教育への平等なアクセス、生涯学習の機会保障の考えに基づいている。小学校と中学校が義務教育であるが、誰もが高等学校に行く権利がある。これは生涯学習のための早期介入に関する政府の方針の反映である。

1歳から5歳の子どもには就学前学校があり、費用は保護者が20%負担し、基礎自治体が80%負担する。就学前学校は非義務制であるが、すべての子どもの91.1%が公立または私立の就学前学校に通っている。基本的には地域の就学前学校に通うが、地域以外でも申請は可能であり、シュタイナー教育やモンテッソーリの理念に基づく就学前学校もある。

ノルウェーでは、6歳から15歳までの10年間は義務教育である。高等学校は義務教育ではないが、先述のようにすべての生徒に進学する権利がある。高等学校は、大学進学を想定した課程と実習を含む職業教育課程がある。

通常の授業では十分に学習できない場合、すべての子どもが特別な教育を受ける権利を有する。ただし、特別な支援を受けるためには、基礎自治体立心理・教育サービス機関 (PPT) の評価が必要である。基礎自治体立心理・教育サービス機関の評価後、保護者、子ども、教員との協議の結果、子どもが個別の計画と追加予算を得られるかが決定される。ノルウェーでは基本的に特別な学校は設置されていないため、通常の学校で追加的支援が行われる。よって通常の学校に重度の聴覚障害のある子ども、学習上の大きな困難を抱える子ども、ノルウェー語をほとんど話せない子ども、さらに行動上の問題を抱える子どもがいることが想定される。つまりノルウェーの教員養成においては、「すべての子どものニーズに応じた指導」ができる教員を育成することが期待されているのである。

第二に、教員養成課程からのドロップアウトについて、である。多様な子どもがいる教室の現実に直面して、教員養成課程の学生がドロップアウトすることもある。教員養成課程の学生は特にストレスを受けたり、燃え尽き症候群に陥りやすかったりする。最近の研究では、教員養成において、理論に基づいた教育と実践的なトレーニングとの間に断絶があることも指摘されている。

第三に、教員養成におけるVRの活用である。ドロップアウト対応の新しいプロジェクトとして、教員養成課程の学

生のレジリエンスを高め、教室の現実に向き合う準備を進めている。このプロジェクトでは、多様な子どもがいる教室、特にインクルーシブ教育に備えて、教員を養成するためにできることは何かの検討をふまえて、VRを開発したのである。VRは、教員と子どもの対話で構成されており、反転学習デザインも用いている。

現在、2つのケースを開発している。ケース1は、ノルウェーの教員に年に2回義務付けられている「保護者面談」である。ケース2は、「プレゼンテーション」である。教員養成課程の学生は、VRメガネをかけて活動する。保護者面談のケースでは、どのように子どもの話を聞き、どのように保護者と良いコミュニケーションを取るかを学ぶ。VRのトレーニングを通して生じた疑問や課題について、理解を促進するのである。

VRの効果を検証するために、教員養成課程の学生を対象としたVRの事前・事後テストの定量的オンライン調査と、VR後の定性的な構造化インタビューを行い、データを収集した。その際のリサーチクエスションは、VRによるトレーニングは、保護者面談を行うための教員養成課程の学生の自己効力感をどの程度促進するか、であった。結果は統計的に有意であり、教員養成課程の学生にとってVRによるトレーニングは有効であることが示された。

またインタビューの中で教員養成課程の学生は、「VRのトレーニングは楽しかった」と言っていた。そして「保護者面談を実施するための準備ができた」と感じていた。その上で、VRを教員養成課程での教育の一環として取り入れることを推奨していた。ある学生は「アニメーションのキャラクターであっても、声があるのでかなりリアルに感じられた」と話していた。ユーザーインターフェイスが学生にとって機能していることが示されたのである。学校の実習に行かなくても、VRでトレーニングできるのは、良い方法だと考えている。また別の学生は、「VRは安全で、間違いを犯すことも許されていた」と言っていた。

今後は、このVR技術を次のレベルに引き上げる新しいプロジェクトに移行する予定である。AIやVRを含む革新的な学習技術を教員養成に活用し、教育の質を高め、将来の教員の専門性を高めていくことで、時代に即した教育を行う新しいプロジェクトが始動するのである。

ノルウェーの学校を想定するならば、多様な子ども集団を想定して、バーチャルクラスルームも活用しつつ、教員養成を行っていく必要がある。先述したように聴覚障害のある子ども、視覚障害のある子ども、ディスレクシアなどの学習障害のある子ども、行動上の問題のある子ども、その他の心理的な問題のある子ども等を想定した、教室での多様性に対応するためのコミュニケーションスキルを教員養成課程でトレーニングすることが求められている。

(Karen Parish, Hege Merete Somby)

# 少年院 100 年の歩み・矯正教育の現状と課題

～個々の特別なニーズに応じた矯正教育の在り方を模索して～

企画者	加藤 重樹 (日本特殊教育学会理事・東京都教育庁) 後藤 信之 (久里浜少年院) 小島富美子 (公益財団法人矯正協会)
司会者	加藤 重樹 (前掲)
話題提供者	重松 弘 (元法務省矯正研修所) 草薙 亜礼 (東日本少年矯正医療・教育センター) 大橋 雅夫 (多摩少年院)
指定討論者	木村 敦 (公益財団法人矯正協会)

KEY WORDS: 少年院創設 100 周年 矯正教育 支援教育課程

## 【企画趣旨】

少年院は、非行のあった少年を収容して矯正教育を行う施設として 100 年の歴史を重ねてきた。少年非行は、その時々少年、家庭・家族、これらを取り巻く社会の在りようを如実に反映しながら様相を変えてきているところ、少年院ではこうした変化に対応しながら、少年の改善更生と円滑な社会復帰に資する教育・支援の実践を続けている。

当学会では、城戸幡太郎・初代理事長が「特殊教育学研究」第 1 号の「刊行のことば」の中で、「たとい異常と認められる社会不適応の行動であっても、その矯正が可能であれば、それはやはり特殊な教育の問題である」と述べているように、1963 年の学会設立当初から、矯正教育は特殊教育の中で議論されるべきものと認識され、現在の矯正教育部会につながる行動問題部会が設けられて、実践や研究が積み重ねられてきた。非行のあった少年を「特別な教育的ニーズ」のある存在としてとらえ、「非行からのリハビリテーション」というタイトルの下、少年院だけでなく司法、学校、福祉等様々な領域から共通のキーワードで話題提供を受けて議論する自主シンポジウムを毎年続けるといった取組も行われていた。

本シンポジウムでは、少年院の歴史を振り返るとともに、2015 年に「特殊教育課程」から改編された「支援教育課程」を取り上げ、同矯正教育課程を実施している少年院から話題提供していただくこととした。少年院の昔と今を見つめながら、これから取り組むべき課題の整理を試みる機会としたい。

話題提供の内容については、関係機関の承諾を得ている。

## 【話題提供者の趣旨】

<重松 弘：少年院 100 年のあゆみ>

1923 年、旧少年法・矯正院法が施行され、当時の少年監獄と感化院の中間的性格を有する矯正院（呼称は少年院）として、東京に多摩少年院及び大阪に浪速少年院が創設された。戦後、1949 年、現行少年法・旧少年院法が施行され、少年院として再出発した。その後、1977 年の「少年院運営改善」や 2014 年の少年院法全面改正を始めとする幾多の制度改正等を経て、現在に至る。

この 100 年にわたる少年院のあゆみは、複雑な諸事情を抱えた在院者個々の特性に応じた処遇等の在り方を探求し続けた道のりであったとも言える。そこで、今回は、少年院運営の歴史一般に加え、そのような志向性を持った制度やその運用の変遷について概観する。その上で、現行「支援教育課程」に連なる、知的障害や発達障害等がある等の事情により社会復帰に向けて特別なサポートが必要な在院者に対する処遇・支援に係る取組みの推移に焦点を当てることとする。

<草薙亜礼：東日本少年矯正医療・教育センターから>

当センターにおける支援教育課程の対象となるのは、主に

東日本全域（北海道、東北、関東甲信越及び静岡）において第 1 種又は第 2 種少年院送致決定を受けた男子少年のうち、①知的障害又はその疑いのある者及びこれに準じた者で処遇上の配慮を要するもの、②情緒障害若しくは発達障害又はこれらの疑いのある者及びこれに準じた者で処遇上の配慮を要するものである。

対象少年には、生活指導の一環として、その特性に応じて、サイコドラマやビジョントレーニング、箱庭療法等の資質、情緒等の問題の変容を支援することを目的とした治療的指導を行っている。

また、本人や家族からの相談、寮担任等の少年院の教官や保護観察所等からの依頼に基づき、対象少年との面接を通じたニーズの把握、自治体等の窓口への相談、関係機関との面接、施設見学等の福祉的な支援を行っている。

<大橋雅夫：多摩少年院から>

2015 年 6 月に施行された少年院法においては、矯正教育課程の一つに、特性に応じた配慮の下、対人関係技能を養い、適応的に生活するための習慣を身に付けるための各種の指導を重点的に行う支援教育課程Ⅲ（N3）が新たに設置された。当院においても、社会適応課程Ⅰ（A1）に加え、2018 年 4 月に N3 が設置され、以降、N3 が指定される在院者の収容は増加傾向にあり、2022 年においては、当院新収容在院者のうち N3 が 4 割弱を占めるに至っている。現在、当院では、在院者個々の特性について理解を深めながら、伝統ある在院者間の相互作用を有効に活用した集団処遇を実践することで、非行性・問題性の除去を行うとともに、再犯防止の観点から、関係機関等との連携の強化や、担任職員、社会福祉士、医師、就労支援スタッフ等で編成したチームによる支援の在り方について日々検討を重ね、円滑な社会復帰を図っている。

## 【指定討論者（木村 敦）の趣旨】

少年院の歴史上、知的障害、発達障害等への対応においては、1949 年の医療少年院発足、1977 年の特殊教育課程設置、2015 年の支援教育課程設置等がエポックと思われる。これらの実践のねらいや背景を振り返り、その意義等について議論を深めてみたい。

今後は、個々の少年の特性に応じた矯正教育の充実を図る一方、社会復帰支援として、福祉、医療、就労又は修学等における各種施策へのつなぎ、関係機関との連携強化に一層配慮する必要がある。その観点から、現状の課題、更に注力すべき点や進むべき方向性等について考えてみたい。

(KATO Shigeki, GOTO Nobuyuki, OJIMA Fumiko, SHIGEMATSU Hiroshi, KUSANAGI Anei, OHASHI Masao, KIMURA Atsushi)

## 論文作成セミナー：採択にむけた論文作成の心構え

企画者・司会者	米田宏樹 (筑波大学人間系, 特殊教育学研究編集委員長) 勝二博亮 (茨城大学教育学部, Journal of Special Education Research 編集委員長)
話題提供者	米田宏樹 (筑波大学人間系, 特殊教育学研究編集委員長) 勝二博亮 (茨城大学教育学部, Journal of Special Education Research 編集委員長) 青木康彦 (聖学院大学人文学部) 新海 晃 (広島大学学術院)

KEY WORDS: 投稿, 論文作成, 査読

## 【企画趣旨】

本学会では機関誌として和文誌「特殊教育学研究」と英文誌「Journal of Special Education Research」をそれぞれ刊行している。いずれも発刊から6か月を経て、J-stage上で電子版が公開されている。令和5年度からは査読過程を経て採択となった論文から、掲載号の刊行を待たずにJ-stage上で早期公開版を順次公開できるようになった。最近では、本学会の領域においても、若手研究者を中心として海外の国際誌に投稿する機会が増えてきたが、研究方法のいかに関わらず、矯正教育を含む様々な障害領域を包括した本学会の機関誌は世界的にも稀有な存在であり、国内では特殊教育学の領域において最も歴史があり権威のある学術誌に位置づけられている。それゆえ、本学会の機関誌の査読レベルは決して低くはなく、投稿されても不採択に至るケースがみられるのが現状である。

そこで、本シンポジウムでは和文誌および英文誌の編集委員長から、本学会の機関誌の位置づけ、査読の現状、投稿段階での留意事項などを紹介する。その上で、本学会の機関誌に掲載された経験がある若手研究者から、採択にむけた論文作成のための心構えについて紹介いただく。なお、話題提供に際して、倫理的配慮のもとに行われる。

## 【話題提供者の趣旨】

## 1. 編集の視点からみた論文作成の心構え

1) これまでの審査状況を踏まえた論文作成の留意点 (米田宏樹)

本学会の「倫理規定」、ならびに和文誌の「編集規定」「執筆規定」「執筆の手引き」の記載事項を確認するとともに、これまでに和文誌編集委員長としてかかわった論文審査の状況を踏まえて、特に投稿者に求めたい留意点について説明したい。各種規定に即した留意点としては、①「先行研究の探索とオリジナリティの確保」と「引用文献」「参考文献」の提示について、②論文種別の理解と適切な種別の選択について、③「二重投稿・分割投稿の禁止」と「関連論文の提出」の義務について、の3点を確認したい。採択に至る論文作成・修正留意点としては、①投稿論文の学術研究上の意義と目的がわかる序論の記述について、②再現可能性を確保する研究方法・手続きの記述について、③投稿論文に記載された結果ならびに先行研究の成果と対照した考察の記述について、④審査員の指摘に対する対応と修正稿及び修正対照表の作成について、の4点に関して共有したい。これらの確認事項は、英文誌も共通である。

2) 英文誌 JSER の位置づけと投稿のメリット (勝二博亮)

本学会の英文機関誌の前身は2001年3月に刊行された和文誌の英文特集号(6号)に遡る。その後、2013年に和文誌から独立し、英文誌としてJSERが誕生した。JSERは、研究の手法を問わず、特殊教育学の様々な領域を含んだ学際的な学術誌として位置づけられる。11巻2号からは、

新たな取り組みとして、我が国の特殊教育に関わる最新動向について海外に発信するため、企画論文のテーマを定めたSpecial Education in Japanが掲載されている。残念ながら、現時点でJSERはインパクトファクターが付与されていないが、先述のようにJ-stage上で掲載論文が公開されているため、日本以外の世界の研究者から閲覧可能になっている。すなわち、自らの論文が世界の研究者から引用される可能性もある。話題提供ではJSERの査読状況とともに、英文論文の投稿先として、海外の国際誌以外にJSERを選択するメリットについて紹介していきたい。

## 2. 論文作成の心構え：若手研究者の経験から

1) 投稿者としての論文作成・査読に対する心構え (青木康彦)

筆者は和文誌「特殊教育学研究」と英文誌「Journal of Special Education Research」に論文を投稿し、採択と不採択のどちらの経験もしてきた。これまで筆者が受け取った査読者からのコメント(採択、不採択を含めて)を紹介し、論文作成、査読者コメントへの対応を考えていく。論文作成では、査読者のコメントで頻繁に指摘を受けたポイントから、投稿前に論文作成で確認すべき事項や気を付けた方がよい論文の論理展開について紹介する。また、査読者からのコメントに対する対応では、(1)時には読むことが辛く苦しいコメントと向き合う際の筆者の対応法、(2)専門領域が異なる査読者のコメントへの対応について紹介する。さらに、採択までに労力と時間がかかる「特殊教育学研究」と英文誌「Journal of Special Education Research」へ論文を投稿する意義や心構えについて、投稿者として紹介する。

2) 投稿論文の作成及び査読対応にむけた心構えと気づき (新海 晃)

筆者は和文誌「特殊教育学研究」と英文誌「Journal of Special Education Research」のそれぞれで採択の経験を有する。本セミナーでは、論文作成及び査読対応の経験から、(1)採択にむけた投稿論文の作成、(2)査読中の査読コメントへの対応の2点について紹介したい。(1)採択にむけた投稿論文の作成については、筆者が投稿論文を作成する際に意識した点や留意した点を紹介し、論文作成のポイントについて考えたい。(2)査読中の査読コメントへの対応については、筆者が受けた査読者からの査読コメントに基づき具体的な対応を紹介するとともに、論文作成時の確認事項や留意事項を紹介し、論文作成のポイントについて考えたい。最後に、和文誌「特殊教育学研究」及び英文誌「Journal of Special Education Research」への投稿・採択の経験から筆者が得た論文作成のための心構えや気づきについて共有したい。

(YONEDA Hiroki, SHOJI Hiroaki, AOKI Yasuhiko, SHINKAI Akira)

# コロナ禍と特別支援教育-これまでとこれから-

企画・司会者 井澤信三 (兵庫教育大学大学院)・田部絢子 (金沢大学)  
話題提供者 田中恭子 (国立成育医療研究センター)  
田部絢子 (金沢大学)  
西牧謙吾 (国立病院機構新潟病院)  
指定討論者 野呂文行 (筑波大学)  
高橋 智 (日本大学)

KEY WORDS: コロナ禍 特別支援教育 子ども

## 【企画趣旨】

いわゆる「コロナ禍」による社会的な変化は劇的であり、子どもを取り巻く環境にも大きな変化が生じた。その変化は、子どものメンタルヘルス、不登校児童・生徒数やいじめ件数の増加、GIGAスクール構想の推進による授業方法の変化等、子どもや家族に多くの影響を及ぼした。現在、マスクの着用も個人判断となり、「5類感染症」に引き下げられた。今、これからの特別支援教育の有り様を考えるべきタイミングにあると言える。今後、教育の中で何を大切にしていくべきであろうか、コロナ禍以前に戻るだけではなく教育の新しいステージに移行できるであろうか。本シンポジウムでは、あらためてコロナ禍が子どもや家族、学校等に与えたインパクトを総括し、これからの特別支援教育の積極的な展開を展望することにつなげたい。なお、各発表は研究対象や関連機関等の承諾を得ている。

## 【話題提供者】

**コロナ禍の子どものメンタルヘルスとその支援 (田中恭子) :** コロナ禍において、保護者の精神的健康、保護者のパンデミック関連ストレス、子どもの精神的健康 (外在化、内在化、向社会的行動など) に関する尺度を調査した論文では、COVID-19 パンデミックにおける子どもと保護者の精神的健康の間の相互的關係を評価することは、リスクとレジリエンスのモデルを知らせるために重要であると示されている。また子どものメンタルヘルスへの影響は、社会的孤立、親のメンタルヘルス、COVID-19 に関する経済的問題、家庭内の兄弟姉妹の数と関連しているという報告も存在する。一方で、COVID-19 のポジティブな要素としては、家族の時間の質の向上が挙げられており、これらの結果は、神経学的にリスクのある子どもとその家族の間で、精神衛生上の大きな影響が蔓延していることを反映している。とくに両親の過去のトラウマは、COVID-19 による心的外傷による苦痛と子どもの心理的困難を有意に予測し、過去のトラウマと子どもの心理的困難との関係は、親の心的外傷による苦痛と育児ストレスによって連続的に媒介されるという報告もある。またマスク着用による子供の感情や言葉の発達にも影響を与える可能性に関しては、科学者たちは、意味のある解釈をするには時期尚早であると述べており、今後より一層、子どものバイオサイコソーシャルアプローチを強化する必要がある。

**コロナ禍における子どもの発達困難・リスクと特別支援教育の課題 (田部絢子) :** COVID-19 は子どものいのち・生活・学習・発達に多大な影響を及ぼしている。感染症や急激な社会変化への不安・恐怖、自粛・我慢を強いられ先行きの見えない生活での抑うつ・ストレスや孤独、登校困難を感じる子どもや自殺者数の増加等の実態が報告されている。コロナ禍以前から子どもの「生きづらさ」「からだのおかしさ」が指摘されていたが、発達の困難・リスクが一層深刻化したとの指摘も多い。その影響は直接の感染や病理的な罹患後症状のほか、

心理発達の影響も想定され、時間差を生じて顕在化することや長期化が懸念されている。報告者らの調査研究チーム (代表: 高橋智) は2021年7月に全国の小学生・中学生・高校生 (計1,360人) と保護者683人、教師434人を対象にオンライン質問紙調査を実施し、コロナ禍における子どもの生活実態と支援ニーズを検討してきた。今後の特別支援教育・インクルーシブ教育は、ポストコロナの子どもが有する各種の発達困難・支援ニーズも含めて、全ての子どもの教育と発達の保障をめざすべきであり、そのための課題を明らかにしていく。

**健康危機管理と特別支援教育 (西牧謙吾) :** 話題提供者は、保健所勤務の経験もあり医師として公衆衛生を専門としている。また、特別支援教育では病弱教育を研究しており、健康危機管理の視点と病弱教育の視点から話題提供する。学校における児童生徒等の安全については、過去に発生した事故や事件、自然災害等を踏まえて様々な取組が行われてきており、平成21年に施行された学校保健安全法は、各学校において、学校安全計画及び危険等発生時対処要領の策定を義務付けるとともに、地域の関係機関との連携に努めることとしている。新型コロナウイルス感染症の経験を、いかに学校安全計画に活かすかが重要である。備えあれば患いなし。病弱教育は、戦後結核や慢性疾患で長期に教育が受けられない子どもに対する教育の保障のために出来た。新型コロナパンデミック前から、教育のICT化を進め、長期の休校時にも、素早く対応できた学校があり新たな教訓を得ることができた。Gigaスクール構想が定着する中、新型コロナウイルス感染症の経験を追い風に、更なる学校教育のICT化について提言する。

## 【指定討論者】

**(野呂文行) :** 私は応用行動分析学を専門としているが、コロナ禍において個別支援・コンサルテーション等はすべて遠隔となった。その結果、支援者・対象者ともに遠隔での情報交換に慣れ、そのメリット (遠隔地支援、効率性、家庭支援の充実等) を体験した。一方で、対面でない点 (細かな状況の把握等) も明らかになった。多くの人が体験した遠隔支援のメリットが忘れ去られないうちに、ハイブリッドな支援体制ができないものかと考えている。

**(高橋智) :** 私達の「コロナ禍と子どもの発達困難・リスク研究チーム」は日本と北欧で実態調査等に取り組んできたが、作業を通して痛感したのは、①日本政府は2023年5月にコロナ禍の行動制限を大幅緩和したが、しかし「子どもは依然としてコロナ禍の最前線にいる」こと、②子どものコロナ後遺症問題と発達の困難・リスクは「時差」を伴って顕在化するの大きな特徴であり、そうした「時差」を意識した対策・対応が日本の特別支援教育にも強く求められていることである。この点を指定討論として問題提起したい。

(ISAWA Shinzo, TABE Ayako, TANAKA Kyoko, NISHIMAKI Kengo, NORO Fumiyuki, TAKAHASHI Satoru)

# ヤングケアラー的役割を有する子どもの 家族関係と精神的健康の関連

—ケア役割, 母親の養育態度, きょうだい関係に着目して—

藤田由起 (くらしき作陽大学子ども教育学部)

遠矢浩一 (九州大学大学院人間環境学研究院)

KEY WORDS: ヤングケアラー 精神的健康 家族関係

## 【目的】

近年、「家族メンバーのケアや援助, サポートを行っている18歳未満の子ども」(Becker, 2000)である「ヤングケアラー (Young Carer: 以下「YC」)」が注目されている。YCは多様な心理社会的影響を受けると国内外の調査で示されている。YCの内的体験を探る事例研究は増えつつあるが、個人を超え、YCに共通して見られる心理的体験について俯瞰するための実証的検証も必要と考えられる。

以上より本研究は、質問紙調査を通し、日本におけるYC的役割を有する子どもの生活環境(ケア役割, 家族関係)に関する認識の違いの精神的健康への影響性について知見を得ることを目的とする。特に本研究においては、小学校卒業までの時期の生活環境や精神的状態に焦点を当てる。

## 【方法】

①障害・疾患を有する家族と暮らした経験のある成人(以下、経験有群)と、②経験のない成人(以下、経験無群)に対し、WEB上での質問紙調査を実施した。なお、本調査は九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座研究倫理委員会による審査を受けた上で実施された。

質問紙の内容は、(1)フェイスシート(ケア役割の程度について等)、(2)母親の養育態度尺度(龍・小川内(2013)の尺度内の19項目)、(3)きょうだい関係尺度(森下・山口(1992)の尺度内の23項目)、(4)DSRS-C日本語版(村田・清水・森・大島(1996), 18項目、「活動性及び楽しみの減退」「抑うつ気分」の2因子構造, カットオフポイント16点)である。小学校卒業までの時期を回想し回答を求めた。

## 【結果】

まず、測定尺度の因子分析(主因子法, プロマックス回転)を実施したところ、母親の養育態度尺度では「配慮性」「統制性」「従順性」の3因子が得られた。きょうだい関係尺度では、「分離的きょうだい関係」「相補的きょうだい関係」「養護的きょうだい関係」「対立的きょうだい関係」の4因子が得られた。

次に、ケア役割高群・低群・経験無群の3群を独立変数、DSRS-Cの2下位尺度得点及び合計得点を従属変数とする一要因分散分析を行った結果、「抑うつ気分」を従属変数とした場合、主効果が有意であった( $F(2,176)=3.16, p<.05$ )。多重比較の結果、ケア役割高群が経験無群に比べて、有意に「抑うつ気分」得点が高かった( $p<.05$ )。なお、有意差はなかったものの、DSRS-C合計得点の平均値は、ケア役割高群でのみカットオフポイントを上回っていた。

さらに、経験有群・無群に分け、経験有群ではケア役割得点、母親の養育態度の3下位尺度得点、きょうだい関係の4下位尺度得点を用いてクラスター分析(Ward法)を行った。経験無群では、母親の養育態度の3下位尺度得点、きょうだい関係の4下位尺度得点を用いてクラスター分析(Ward法)を行った。その結果、経験有群では5つ、経験無群では4つのクラスターが得られた(Fig.1, 2)。

次に、9つのクラスターとDSRS-Cカットオフポイント以上・以下の人数の関連について、2変量の $\chi^2$ 検定を基に検討した結果、【母親低配慮・高YC】型においては、有意にカットオフポイント以上の人数が多く、【家族との関わり親密】型においては、有意にカットオフポイント以下の人数が多い傾向が示された( $\chi^2=13.84, df=8, p<.10$ )。

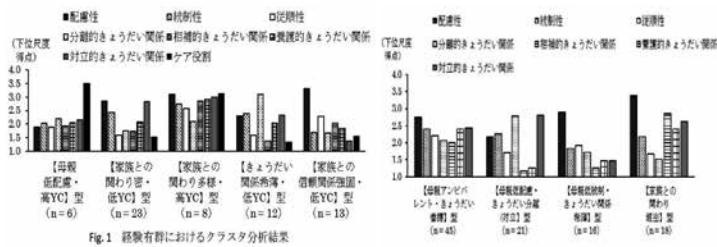


Fig.1 経験有群におけるクラスター分析結果

## 【考察】

分散分析の結果、ケア役割を多く担うことが子どもの心理的負担に繋がっていたことが窺えた。ケア役割低群と経験無群のDSRS-C合計得点はカットオフポイント以下だったことから、障害・疾患を有する家族と暮らすこと自体でなく、ケア役割を担うという主観的経験が精神的健康に影響する可能性が示唆された。よって、子どもが障害・疾患を有する家族と暮らす環境において、子どもが担うケアの実際の時間や量にかかわらず、子どもが感じている心理的負担に十分に配慮した大人の関わりが必要と考えられる。

また、クラスター分析で得られた【母親低配慮・高YC】型は、ケア役割が高く、母親の配慮性が低い型であった。一方、【家族との関わり多様・高YC】型は、ケア役割が高い点は上述の型と同様であるが、母子の関係性自体が密である傾向が窺えた。そして、2つのクラスターのうち前者のみDSRS-C合計得点以上の得点を示した人数が有意に多かったことから、母親の配慮性が子どもの精神的健康を大きく左右する要因として考えられた。

また、母親が受容的に関わり、きょうだいと互いを大切にし合える関係を築いている【家族との関わり親密】型において、DSRS-C合計得点がカットオフポイント以下の人数が有意に多かったことから、きょうだいとの関わり親密性についても、精神的健康に影響を及ぼすと示唆された。すなわち、子どもの精神的健康保持のためにはケア役割の有無や程度だけでなく、きょうだいの親密性といった親子関係のみに留まらない家族関係の視点が不可欠である。

以上をまとめると、子どもが年齢や発達水準に不相応で過剰な役割を課されることは避けつつ障害・疾患を有する家族に関わり、その貢献を認められること、そのような関わりの中で、過剰な役割意識でなく、子どもの自己肯定感を育む配慮的態度や親密な家族関係が重要と考えられた。※本研究は、科研15K040749の補助を受けた。

(FUJITA Yuki, TOYA Koichi)

# Evaluation of Persuasive Writing by Deaf and Hard of Hearing Students: Impression Ratings and Related Linguistic Information

○新海晃 澤隆史 林田真志  
(広島大学) (東京学芸大学) (広島大学)  
KEY WORDS: 聴覚障害 説得的文章 評価

【目的】聴覚障害児の文章を書く力の指導においては、作文評価による実態把握が行われてきた。特に複数の観点から書く力を評価することは、評価方法の確立や指導方針の設定においても有効であるとされる。しかし、これまでの研究対象の多くは自由作文や創造作文であった。例えば卒後の職業場面を想定した場合、依頼や提案等の際に、自己の考えや意見を読み手に分かりやすく記述することや、相手の共感や納得・同意を得るための文章を書く力が不可欠である。聴覚障害児においては談話文や説明文に比して説得的な文章を書くことの困難さが指摘されている(Wolbers et al., 2015)が、多様な側面からの評価により、書く力を的確に捉え指導と関連付けることができよう。また、指導のポイントを明確にするため、新海らによる一連の研究では、印象評定法を用いた作文評価と作文中の言語的及び内容的要素との対応関係を検討し、指導に向けた示唆を得ている(例えば、新海・澤(2019))。そこで本研究では、聴覚障害児が書いた説得的な文章の評価の特徴について検討するため、印象評定法による作文評価を実施した。そして、説得的な文章を書く力に対する評価尺度の利用可能性を検証した(検討1)。さらに、作文評価と言語的及び内容的要素との対応関係を分析し、作文評価に影響する要素について検討した(検討2)。

## 検討1

【方法】1)対象: 聾学校在籍の中学部生徒57名及び高等部生徒65名。2)作文課題: 「中学生(又は高校生)には毎月お小遣いをあげた方が良い」というテーマに関する3種の課題を設定した(意見文課題: テーマに賛成の立場から意見を述べる, 説得文課題A: お小遣いは必要ないと考える親を説得する, 説得文課題B: テーマに反対の立場をとる友人を説得する)。3)手続き: 各課題について学部ごとに10名程度に実施した。400字詰め原稿用紙を使用し、制限時間20分を目安に200~300字以内で記述させた。なお、実施に先立ち、個人情報扱い(例: 個人名の不使用)等を説明した文書を学校に呈示し学校長の承諾を得た。本研究は、東京学芸大学内に設置された倫理審査委員会による承認を得て行われた。4)作文評価: 大学生9名による印象評定を実施した。分析的評価として新海・澤(2019)が用いた7つの評価観点に、一貫性、説得力、言論性、情動性の4項目を加えた11観点を設定し7件法により評定させた。また、総合評価を10点満点で評定させた。

【結果と考察】112編の作文を分析対象とした。まず、評価観点別に学部及び課題ごとの評定値の平均を算出し、2要因分散分析を実施した。その結果、課題による主効果及び交互作用は確認されなかった。したがって、本評価尺度では、テーマによらず文章力の適切な評価が可能となることが示唆された。また、ほとんどの観点で学部による主効果が示され、書く力の発達的な変化が示唆された。

次に、評価者ごとに評定値を標準得点(z得点)に変換し、総合評価を目的変数、分析的評価を説明変数とする重回帰分

析を実施した。その結果、決定係数は高い値を示し、11の分析的な評価観点によって総合的な書く力を評価し得ることが明らかとなった。

## 検討2

【方法】1)対象作文: 検討1と同様。2)分析指標: 新海・澤(2019)と同様に48の言語要素を使用し、その出現率等を求めて標準化を行った。また、Clark and Delia(1976)を参考に、15項目からなる内容的な分析指標を作成し、作文ごとに該当する項目をカウントした。3)分析方法: 評価尺度の各観点を目的変数、48の言語要素を説明変数としたRF-R法により回帰木を作成し、そのノード(純度)を算出した。また、評価観点のうち、一貫性、説得力、言論性、情動性、総合評価を目的変数、内容的要素の15項目を目的変数としたRF-R法により回帰木を作成し、そのノード(純度)を算出した。

【結果と考察】まず、作文評価と言語要素に関する分析の結果、ほとんどの評価観点に対して純度が高い値を示した言語要素が確認された。例えば、中学部の意見文課題では列挙型の接続詞の純度が高く、「はじめに」「次に」等の話題の展開が明確な「文章構成」の良し悪しが評価に全体的に強く影響を与えることが示唆された。また、特定の評価観点に対して純度が高い値を示した言語要素が確認された。例えば、情動性に対する評価のモダリティの純度が高く、その解釈において評価のモダリティの使用頻度の多い作文ほど情動性の評定値が低くなる傾向にあった。これは、「した方が良い」等の表現が、意見の押し付けに近い印象を与え共感的な理解を阻害した結果であると推察される。

次に、作文評価と内容的要素に関する分析の結果、意見文課題及び説得文課題Bでは各評価観点に対し純度の高い項目がそれぞれで共通する傾向にあった。例えば、高等部の意見文課題では反論に関する内容の純度が高く、反論を含む作文では評定値が高くなる傾向にあった。したがって、論証構造が作文の評価に強く影響し、指導においても重要であることが考えられた。また、中学部の意見文課題及び説得文課題Bでは生活上の有用性を示した内容の純度が高かった。一方、その解釈においては、意見文課題では生活の有用性を示した内容が含まれる作文ほど評定値が低く、説得文課題Bでは生活の有用性を示した内容が含まれる作文ほど評定値が高い傾向にあり、評価への影響が異なることが明らかとなった。2種の課題は読み手が特定されているか否かに違いがあるが、この結果から、読み手意識に乏しく、相手に応じた内容の選択や書き分けに困難を有することが示唆された。

【今後の展望】本研究では読み手の違いから3種の課題を設定したが、その比較については検討が十分でない。読み手に合わせた文章産出の特徴やその困難さに係る要因に関する検討をさらに進めることで、指導方法や指導のポイントがより明確になるだろう。併せて、小学校段階から説得的な文章を書く力について検討することも重要であろう。

(SHINKAI Akira, SAWA Takashi, HAYASHIDA Masashi)

# 少年院における経験の意味付けと非行からの立ち直りとの関係 —ある男子少年院における出院時アンケートの分析を通して—

神垣一規 (関西国際大学心理学部心理学科)

KEY WORDS: 少年院、立ち直り、経験の意味付け

## 【はじめに】

近年、非行少年に対する効果的な処遇とはどのようなものなのか明らかにする必要性が高まっている。この要請に応える理論的枠組みの一つとして、犯罪者や非行少年の長所に着目する長所基盤モデルがある。津富 (2011) によると、長所基盤モデルは、犯罪者等の『『価値』を復権させ、本人がそもそも持っている善き側面(長所・資源)を手がかりに立ち直りへの道筋をつける』ことを重視しており、「犯罪者は、他者にとって問題のある『客体』ではなく、自ら問題を解決する『主体』として位置づけられ」という。この考え方の基盤となった Maruna (2001) の研究では、犯罪から離脱している元犯罪者は、犯罪行為を私という主体から切り離すことなく、その上で本当の私を善いものとしていく傾向が見られたと指摘されている。つまり、ネガティブな事実も含めて自分自身のことをいかに肯定的に捉え直すことができるかが再非行の防止に重要であると言える。これは、少年院での経験の捉え方にも当てはめられると考える。

坂野 (2015) は、非行から離脱し立ち直った元非行少年の手記を分析し、少年院に入院した当初は収容されたことへの不満から教官の関わり等に拒否的な構えを示すものの、次第に受け入れ馴染んでいき、自己効力感や自尊感情が回復することを示している。また、千賀 (2019) は、元非行少年に対してインタビューを実施し、少年院の中では模範生であり、信頼できる教官との出会いなど非行から立ち直るきっかけとなりそうなエピソードは複数あるものの、少年院から出院した直後に再非行に及んだという経過を示している。これらの研究結果から、少年院での生活を初めから受け入れるよりも、不満や不甲斐なさなどに葛藤したり悩んだりすることを乗り越えた上で少年院生活を意味あるものとして受け入れていく方が、出院直後の予後は良いのではないかと考えられる。

そこで本研究では、少年院出院時のアンケート調査を分析し、少年院での経験の捉え方と出院後の再非行状況との関係性について検討することにより、社会復帰に役立つ少年院処遇の在り方について考察することを目的とする。

## 【方法】

2015年4月1日から2017年3月31日までの間にA少年院を仮退院した男子少年のうち、2016年4月1日から2019年3月31日までの間に保護観察が終了した旨の通知を受けた者102名(少年院入院時の平均年齢17.23歳、 $SD=1.45$ )を対象とした。A少年院で出院前の少年に記載させている出院時アンケートの記載項目の中から、辛かったことについての自由記述をKJ法により分類し、それらの経験が自分にとって意味のあるもの、良い効果をもたらすものであったとする記述が見られるか検討した。

## 【倫理的配慮】

本アンケートはA少年院の規定に基づき実施したものであり、研究のために実施したものではない。資料等はA少年院内において厳重に保管し、個人情報特定されるよう

な情報を削除した上で分析を実施し、プライバシーの保護には十分に留意している。本研究を行うに当たってはA少年院の長の許可を得ており、その内容及び手続きに問題がないことを承認されている。

## 【結果】

分類したカテゴリーごとに意味があると回答した人数の割合を計算すると、「改善、適応に向けた努力」が最も多く66.7%であり、次に「自己の問題点の自覚」の57.1%、「少年院内での人間関係」の55.0%と続いた。辛かったことに意味を見出しているかどうかで再非行率に差があるのか比較するため、カプランマイヤー推定法により、各群の再非行率について生存関数を求め、各群の再非行率の違いについてログランク検定を実施したところ、辛かったことに意味を見出している群とそうでない群との間に5%水準で有意な差異が認められた( $\chi^2=4.43$ ,  $df=1$ ,  $p<.05$ )。

## 【考察】

少年院で体験した辛かったことに肯定的な意味を見出している少年は、そうでない少年に比べて保護観察期間中の再非行率が有意に低いことが分かった。また、自分の問題点と向き合うことのような統制可能な部分から生じる辛さの方が、少年院での生活や職員の評価などのような統制できない部分に感じる辛さよりも意味を見出しやすいことが示された。これらの結果から、自分ではどうにもならない辛さに注目するのではなく、自己の認知の傾向に注意を向け、内的な主体性・能動性を育むことが重要と言える。そして、少年院生活にも意味があったと自分なりに捉えることができれば、非行という失敗経験も含めて自分自身であると捉えることができ、社会復帰に結び付くと言える。今後は、本研究で考察されたような処遇を行うことが、少年院の処遇に意味を見出すことへと実際につながり、再非行を防止する効果を発揮するのかが検証する必要がある。

(文献)

Maruna, S. (2001) *Making good: How ex-convicts reform and rebuild their lives*. American Psychological Association, Washington D.C. 津富宏・河野荘子監訳 (2013) 犯罪からの離脱と「人生のやり直し」—元犯罪者のナラティブから学ぶ—。明石書店。

坂野剛崇 (2015) 少年の非行からの立ち直りのプロセスに関する一考察—元非行少年の手記への複線径路等至性モデルによるアプローチ—。関西国際大学研究紀要, 16, 47-60.

千賀則史(2019)当事者中心モデルによる非行からの立ち直り支援の意義と可能性—少年非行の支援団体を設立した元非行少年の語りを通して—。コミュニティ心理学研究, 22, 98-112.

津富宏 (2011) 犯罪者処遇のパラダイムシフト—長所基盤モデルに向けて—。日本犯罪社会学会(編), 犯罪者の立ち直りと犯罪者処遇のパラダイムシフト。現代人文社。

(KAMIGAKI Kazuki)

## 実践ワークショップ 2022年度採択研究成果発表

企画者 佐島 毅 (日本特殊教育学会研究委員会, 筑波大学人間系)

発表1 三浦 巧也 (東京農工大学)

特別な支援が必要な高校生を考慮したクラスベースによるストレスマネジメントプログラムの開発

発表2 西田 裕明 (兵庫県立赤穂特別支援学校)

自閉症スペクトラム症の児童へのアニメーションセルフモデリングを用いた探し物課題の指導研究

### 【実践研究助成事業立ち上げの背景】

2012年、つくば国際会議場にて開催された日本特殊教育学会第50回大会において、学会としてのそれまでの50年を振り返ると同時に、今後50年をどのように展望するかについて検討することが企画立案において検討されました。

そうした新たな課題解決に向けた事業の一つとして、2012年度より独立英文誌 *Journal of Special Education Research* が刊行される等の事業とともに、2014年度より実践研究助成事業（以下、実践研究助成）を立ち上げました。本助成事業は本学会の会員構成において、特別支援学校教員等の実践研究者が多くを数えることに着目し、地域での特別支援教育の深化等に貢献するものです。

これまで、いずれの研究も特別支援教育の新たな実践研究の展開と展望の起点となるものであり、その成果の広い普及が期待されているところです。

### 【実践研究助成事業の目的等】

実践研究助成の目的は、地域における特別支援教育の発展と現職教員等正会員の専門性向上に寄与するため、現職教員等の優れた実践的研究に対して助成するものであり、本学会正会員である期間が3年以上の現職教員等(常勤)で、特別支援教育等の実践に携わる者であることを応募要件としております。共同研究者は、地域の特別支援教育等に関連する職にある者で、必ずしも正会員でなくてもよいとしています(実践研究助成内規)。すなわち、実践研究活動の地域化、共同化を目指すことを企図するものです。まさに学会活動におけるローカリゼーションに依拠するものといえます。

実践研究助成に採択された研究は、1年間の研究の成果を報告するとともに、次年度の研究大会にて報告することが義務づけられています(実践研究助成内規)。この規定にもとづき、2022年度開催の第60回大会以降、採択研究について年次大会において報告することとなっております。

なお、実践研究助成は、2014年の立ち上げ移行、試行としての助成事業を続けてきましたが、2019年度よりこれに加え研究奨励助成事業も立ち上がりました。それぞれの事業をう

まく活用・継続いただき、会員の皆様の活発な研究活動に寄与したいと考えています。今後もぜひ関心をお寄せいただき、申請をご検討いただきたくお願い申し上げます。

### 【2022年度 実践研究助成の応募状況及び採択者等】

2022年度の実践研究助成の募集は2021年9月初旬に学会ホームページ掲載、9月に会員への電子メール連絡で周知しました。これらを経て、①すべての学会員に実践研究助成の公募を周知すること、②11月下旬の締切りまでの3か月間、公募期間を設定いたしました。その結果、3件の応募があり、内規にもとづく審査の結果、2件が採択されました。

2022年の採択研究については、1年間の研究の取組が行われ2023年4~5月に成果報告が提出されました。

特別支援教育の日々の教育実践から実践知を起点とした研究知見を皆さんと共有し、未来の特別支援教育の充実につながるワークショップにしたいと思っております。

### 【助成研究受託者と研究テーマ】

〔発表1〕

報告者 三浦 巧也 (東京農工大学)

研究テーマ

『特別な支援が必要な高校生を考慮したクラスベースによるストレスマネジメントプログラムの開発』

〔発表2〕

報告者 西田 裕明 (兵庫県立赤穂特別支援学校)

研究テーマ

『自閉症スペクトラム症の児童へのアニメーションセルフモデリングを用いた探し物課題の指導研究』

なお、発表者の所属は、応募時のものを掲載しました。

(MIURA Takuya, NISHIDA Hiroaki)

# 自主シンポジウム

## 自主シンポジウムI

(オンデマンド配信+対面による質疑, ディスカッション)

## 自主シンポジウムII

(オンデマンド配信+質問フォームによる質疑)



**自主シンポジウム I-1 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 教育:7号館101**

「教室」から発信するカリキュラム・マネジメント  
-実態把握図/個別の指導計画の作成プロセスから-

企画者:丹野 傑史 (公立大学法人長野大学)  
司会者:北川 貴章 (文教大学教育学部)  
話題提供者:八柳 千穂 (茨城県立水戸特別支援学校)  
引場 陽子 (妙高市立新井中央小学校)  
神田 智美 (上越教育大学教職大学院)  
佐藤 貴宣 (高知大学教育学部)  
指定討論者:一木 薫 (福岡教育大学教育学部)

**自主シンポジウム I-2 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 都市科学:101**

知的障害特別支援学校における外国語科教育の実際とその意義  
-高等部・高等特別支援学校を中心に-

企画者:木村 素子 (群馬大学共同教育学部)  
加藤 達也 (群馬県立富岡特別支援学校)  
司会者:木村 素子 (群馬大学共同教育学部)  
話題提供者:加藤 達也 (群馬県立富岡特別支援学校)  
松本真利子 (群馬県立富岡特別支援学校)  
高橋美由貴 (群馬県立高崎高等特別支援学校)  
指定討論者:飯島 睦美 (群馬大学グローバルイニシアチブセンター)

**自主シンポジウム I-3 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 都市科学:102**

知的障害のある生徒の自立活動における心理的な安定に関する社会モデルの検討

企画者:下山 真衣 (信州大学学術研究院教育学系)  
司会者:下山 真衣 (信州大学学術研究院教育学系)  
戸谷 健史 (信州大学学術研究院教育学系)  
話題提供者:小林 愛 (信州大学教育学部附属特別支援学校)  
堀 和音 (信州大学教育学部附属特別支援学校)  
指定討論者:堂山 亜希 (目白大学人間学部)  
大石 幸二 (立教大学現代心理学部)

**自主シンポジウム I-4 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 都市科学:103**

障害の重い子どもとの教育的かかわり合い

企画者:松本健太郎 (東京都立多摩桜の丘学園)  
話題提供者:奥山 敬 (スマイリングホスピタルジャパン/訪問大学おおきなき/國學院大)  
柴田 保之 (國學院大學)  
指定討論者:三科 聡子 (宮城教育大学)  
菅井 裕行 (宮城教育大学)

自主シンポジウム I-5 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 経済:2号館211

特別支援学校(聴覚障害)における地域支援の現状  
—山形県・福島県の事例から—

企画者: 茂木 成友 (東北福祉大学)  
司会者: 小林 優子 (上越教育大学)  
話題提供者: 吾妻 恵夢 (山形県立山形聾学校)  
佐藤真智子 (福島県立聴覚支援学校福島校)  
茂木 成友 (東北福祉大学)  
指定討論者: 山本 晃 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム I-6 オンデマンド配信+8月25日(金)14:00~15:00 経済:2号館212

小中学校における特別支援教育の在り方を考える  
-特別支援教育支援員の支援のやりがいと困難さに関する調査研究から-

企画者: 若井広太郎 (東京家政大学 児童学部 初等教育学科)  
司会者: 大内 進 (星美学園短期大学)  
話題提供者: 青木 隆一 (筑波大学附属視覚特別支援学校)  
若井広太郎 (東京家政大学 児童学部 初等教育学科)  
指定討論者: 秋山 篤 (聖徳大学)

自主シンポジウム I-7 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 教育:7号館101

遠隔支援技術を用いた特別支援教育巡回相談の展開②

企画者: 大橋 智 (東京未来大学)  
話題提供者: 榎本 拓哉 (徳島大学社会産業理工学研究部)  
宮木 秀雄 (山口大学教育学部)  
須藤 邦彦 (山口大学教育学部)  
指定討論者: 松岡 勝彦 (山口大学教育学部)

自主シンポジウム I-8 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 都市科学:101

小学校等との連続性を実現する教育課程の検討

企画者: 吉田 道広 (尚絅大学こども教育学部)  
加藤 宏昭 (文部科学省)  
話題提供者: 北 翔平 (金沢大学附属特別支援学校)  
西島沙和子 (熊本県立ひのくに高等支援学校)

**自主シンポジウム I-9 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 都市科学:102**

教室における自閉スペクトラム症児の対話の発達支援  
-「注意の共有」の意味を探る-

企画者：吉井 勘人（山梨大学）  
司会者：長澤 真史（関東学院大学）  
話題提供者：青木 雄一（東京学芸大学附属特別支援学校）  
角原 佳介（岡山県立東備支援学校）  
吉井 勘人（山梨大学）  
指定討論者：長崎 勤（実践女子大学）

**自主シンポジウム I-10 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 都市科学:103**

エデュケアハビリテーション教育実践  
-「インクルーシブ教育の推進力となるために」-

企画者：小玉美津子（神奈川県立小田原支援学校）  
話題提供者：中村しおり（神奈川県立座間支援学校）  
佐々木俊英（神奈川県立ひなたやま支援学校）  
竹田 智之（横浜市教育委員会）  
指定討論者：中村 信雄（東京理科大学）

**自主シンポジウム I-11 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 経済:2号館211**

ことばの教室の吃音指導を考える  
個別指導とグループ学習

企画者：高橋 三郎（府中市立住吉小学校きこえとことばの教室）  
司会者：高橋 三郎（府中市立住吉小学校きこえとことばの教室）  
話題提供者：飯村 大智（筑波大学人間系）  
高橋 三郎（府中市立住吉小学校きこえとことばの教室）  
石田 修（茨城大学教育学部）  
指定討論者：宮本 昌子（筑波大学人間系）

**自主シンポジウム I-12 オンデマンド配信+8月25日(金)15:30~16:30 経済:2号館212**

小・中学校における多層型支援システムの導入

企画者：野口 晃菜（一般社団法人UNIVA）  
話題提供者：前川圭一郎（足立区こども支援センター/白梅学園大学）  
萩野 昌秀（足立区こども支援センター/埼玉東萌短期大学）  
藤本 恵美（戸田市教育委員会）  
手塚 浩（戸田市立喜沢小学校）  
福田 裕美（戸田市立喜沢小学校）  
指定討論者：平澤 紀子（岐阜大学）

**自主シンポジウム I-13 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 教育:7号館101**

きょうだい支援に必要な視点とは4

企画者: 諏方 智広 (横浜市立港南台ひの特別支援学校)  
話題提供者: 藤木 和子 (聞こえないきょうだいをもつSODAソーダの会)  
話題提供者: 松島より子 (認定NPO法人スマイルオブキッズ)  
指定討論者: 三平 元 (医療法人社団すこやかおやこ)

**自主シンポジウム I-14 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 都市科学:101**

エージェンシーを発揮する生徒を育む特別支援学校のこれからの学びを考える3

企画者: 松見 和樹 (千葉県立特別支援学校流山高等学園)  
司会者: 松見 和樹 (千葉県立特別支援学校流山高等学園)  
話題提供者: 古江 陽子 (千葉県立特別支援学校流山高等学園)  
武富 博文 (神戸親和大学)  
指定討論者: 福本 徹 (国立教育政策研究所)

**自主シンポジウム I-15 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 都市科学:102**

知的障害を伴う自閉症児の行動問題への支援と教師の専門性の向上に関する検討

企画者: 真部 信吾 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者: 山本 麻衣 (山口県立田布施総合支援学校)  
松浦 裕子 (山口県立宇部総合支援学校)  
指定討論者: 松岡 勝彦 (山口大学)

**自主シンポジウム I-16 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 都市科学:103**

支え合い・学び合う環境の構築Ⅵ  
対話を通じた教員のキャリア発達の検討

企画者: 太田 容次 (京都ノートルダム女子大学)  
遠 直美 (東京都立光明学園)  
広兼千代子 (広島県立呉特別支援学校)  
話題提供者: 石井 幸仁 (三重県立松阪あゆみ特別支援学校)  
織田 晃嘉 ((独) 国立特別支援教育総合研究所)  
指定討論者: 竹林地 毅 (広島都市学園大学)

自主シンポジウム I-17 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 経済:2号館211

知的障害を伴う肢体不自由児に対する各教科の指導

企画者：田丸 秋穂（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
話題提供者：佐々木高一（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
福西 八光（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
橋本 陸（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
和久田高之（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
指定討論者：川間健之介（筑波大学人間系,筑波大学附属大塚特別支援学校）  
分藤 賢之（長崎県立鶴南特別支援学校）

自主シンポジウム I-18 オンデマンド配信+8月25日(金)17:00~18:00 経済:2号館212

地域における障害者の生涯学習支援体制の構築

企画者：寺谷 直輝（聖霊女子短期大学）  
司会者：寺谷 直輝（聖霊女子短期大学）  
話題提供者：阿部 圭但（文部科学省障害者学習支援推進室）  
志村 美和（NPO法人春日井子どもサポートKIDSCOLOR）  
藪 一之（見晴台学園）  
指定討論者：小林 洋司（日本福祉大学）

自主シンポジウム I-19 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 教育:7号館101

特別支援学校の「センター的機能」の現状と課題(10)

企画者：田中 雅子（北海道教育大学）  
話題提供者：奥住 秀之（東京学芸大学）  
滝坂 信一（独立行政法人国際協力機構横浜センター）

自主シンポジウム I-20 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 都市科学:101

特別なニーズのある子ども達へのICTの利活用  
音声ペン、タブレットペンシルによる実践を通して

企画者：是枝喜代治（東洋大学）  
石飛 了一（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
生田 茂（大妻女子大学人間生活文化研究所）  
話題提供者：川端 康治（埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校）  
藤田 貴史（神奈川県立高津支援学校）  
柘植 美文（国立特別支援教育総合研究所）  
岡本 明博（十文字学園女子大学）  
指定討論者：根本 文雄（障害児基礎教育研究会）  
菅野 和恵（東海大学健康学部）

自主シンポジウム I-21 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 都市科学:102

知的障害のある子どもの「よさ」を生かした自立活動の在り方

企画者：徳田 朋子（岡山県立岡山南支援学校）  
司会者：徳田 朋子（岡山県立岡山南支援学校）  
話題提供者：天谷由香里（静岡県立吉田特別支援学校）  
金原 正和（静岡県立西部特別支援学校）  
小森谷さおり（宮城県多賀城市立多賀城小学校）  
千葉 聡子（東京都八王子市立中野北小学校）  
三浦 拓也（弘前大学教育学部附属特別支援学校）  
指定討論者：大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム I-22 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 都市科学:103

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った中学校通級指導教室での指導支援  
主体的に学ぼうとする心を育むために

企画者：古賀 裕美（横浜市立洋光台第一中学校 通級指導教室）  
話題提供者：若月 暁（横浜市立洋光台第一中学校）  
野島 正昭（横浜市立洋光台第一中学校）  
指定討論者：滑川 典宏（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム I-23 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 経済:2号館211

これからの肢体不自由特別支援学校に求められるカリキュラム・マネジメント

企画者：小倉 靖範（愛知教育大学）  
司会者：立田 祐子（中部大学）  
話題提供者：小倉 靖範（愛知教育大学）  
上林 宏文（北翔大学）  
池田 彩乃（山形大学）  
指定討論者：菅野 和彦（文部科学省）

自主シンポジウム I-24 オンデマンド配信+8月26日(土)9:30~10:30 経済:2号館212

感覚と運動の高次化による臨床的アプローチ そのV  
－感覚と運動の高次化理論における生涯発達支援－

企画者：渡邊 正人（鳥取大学 地域学部）  
司会者：渡邊 正人（鳥取大学 地域学部）  
話題提供者：関口 薫（白井市こども発達センター）  
渡邊 正人（鳥取大学 地域学部）  
堀川 聖子（社会福祉法人からし種の会 グループホームマナの家）  
指定討論者：石井みや子（元 淑徳大学発達臨床研究センター）

自主シンポジウム I-25 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 教育:7号館101

養成・採用・研修の一体化を通じた特別支援学校教師の専門性向上の在り方Ⅱ  
特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム導入過程における現状と課題

企画者：内海友加利（東京学芸大学）  
池田 彩乃（山形大学）  
安藤 隆男（筑波大学名誉教授）  
司会者：内海友加利（東京学芸大学）  
話題提供者：池田 彩乃（山形大学）  
一木 薫（福岡教育大学）  
塩田 順子（千葉県教育委員会教育振興部特別支援教育課）  
指定討論者：菅野 和彦（文部科学省）

自主シンポジウム I-26 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 都市科学:101

知的障害特別支援学校における理科授業のあり方を考える  
－高等部の学びにおける非認知能力育成の観点から－

企画者：岩井 祐一（東京学芸大学附属特別支援学校）  
司会者：坂井 聡（香川大学）  
話題提供者：岩井 祐一（東京学芸大学附属特別支援学校）  
竹林地 毅（広島都市学園大学）  
指定討論者：福本 徹（国立教育政策研究所）  
中西 史（東京学芸大学）

自主シンポジウム I-27 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 都市科学:102

特別支援学校におけるプログラミング教育を創る2023  
－個別最適な学びと協働的な学びを実現するプログラミング教育実践－

企画者：水内 豊和（島根県立大学）  
司会者：水内 豊和（島根県立大学）  
話題提供者：北村 満（富山大学教育学部附属特別支援学校）  
樋井 一宏（大阪府立西浦支援学校）  
菱 真衣（東京都立あきる野学園）  
指定討論者：織田 晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）  
後藤 匡敬（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

自主シンポジウム I-28 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 都市科学:103

保育所・幼稚園・認定こども園における特別支援教育の推進  
－先進事例から考える新しいステージへの挑戦－

企画者：宮崎 光明（富山大学教育学部）  
司会者：加藤 永歳（東京都手をつなぐ育成会・元厚生労働省発達障害対策専門官）  
話題提供者：加藤 典子（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官）  
宮崎 美江（幼稚園型認定こども園学校法人伸和学園堀川幼稚園）  
小池由香里（滋賀医科大学小児科学講座）  
指定討論者：宮 一志（富山大学教育学部・富山大学附属病院小児科）

自主シンポジウム I-29 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 経済:2号館211

発達障害児者の行動問題から教育・福祉の充実を目指すPBS(17)  
支援者の行動変容を支えるシステムを考える

企画者:平澤 紀子(岐阜大学)  
司会者:平澤 紀子(岐阜大学)  
話題提供者:大対香奈子(近畿大学)  
田中 善大(大阪樟蔭女子大学)  
田熊 立(千葉県発達障害者支援センター)  
谷口 良太(社会福祉法人菜の花会)  
指定討論者:大久保賢一(畿央大学)

自主シンポジウム I-30 オンデマンド配信+8月26日(土)11:00~12:00 経済:2号館212

医療的ケアにおける教育の専門性

企画者:永井 祐也(岐阜聖徳学園大学教育学部)  
司会者:高野 陽介(横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部)  
話題提供者:藤川 雅人(島根大学教育学部)  
笹原 未来(福井大学大学院連合教職開発研究科)  
荒木 良子(福井大学大学院連合教職開発研究科)  
指定討論者:武田 鉄郎(和歌山大学名誉教授)  
永井 祐也(岐阜聖徳学園大学教育学部)

自主シンポジウム I-31 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 教育:7号館101

特別支援教育におけるプログラミング教育の意義と効果  
「マタタラボ プロセット」を活用した事例をふまえて

企画者:爲川 雄二(帝京大学大学院教職研究科)  
西端 律子(畿央大学教育学部)  
司会者:爲川 雄二(帝京大学大学院教職研究科)  
話題提供者:高橋 伸幸(東京都日野市立平山小学校)  
福永 里美(滋賀県湖南市立石部小学校)  
織田 晃嘉(国立特別支援教育総合研究所)  
指定討論者:西端 律子(畿央大学教育学部)

自主シンポジウム I-32 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 都市科学:101

「ラーニングマップ」を活用した学習評価システムの開発 I

企画者:山元 薫(静岡大学)  
司会者:笹原 雄介(静岡県立伊豆の国特別支援学校)  
話題提供者:山地 康代(静岡県立伊豆の国特別支援学校)  
加藤 貴愛(静岡県立伊豆の国特別支援学校)  
木場夕佳子(株式会社アイティエス)  
指定討論者:城田 和晃(東京都教職員研修センター)

**自主シンポジウム I-33 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 都市科学:102**

エージェンシーのダンスとして授業を問い直す

企画者：楠見 友輔 (信州大学)  
司会者：戸谷 健史 (信州大学教育学部)  
話題提供者：上野 大 (信州大学教育学部附属特別支援学校)  
小林 太海 (信州大学教育学部附属特別支援学校)  
楠見 友輔 (信州大学教育学部)  
指定討論者：戸谷 健史 (信州大学教育学部)

**自主シンポジウム I-34 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 都市科学:103**

自閉症スペクトラム障害を有する子どもの学習とは？(3)  
ASD児の心が動くとき

企画者：堀部 要子 (名古屋女子大学)  
司会者：堀部 要子 (名古屋女子大学)  
話題提供者：樋口 和彦 (広島修道大学)  
松浦 百香 (春日井市立西山小学校)  
藤 美帆 (広島修道大学)  
指定討論者：堀部 要子 (名古屋女子大学)

**自主シンポジウム I-35 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 経済:2号館211**

自立活動教諭の専門性(5)  
—自立活動教諭の専門性を培う土台とは—

企画者：今野 邦彦 (藤女子大学人間生活学部)  
古川 章子 (北海道大学大学院教育学院)  
司会者：古川 章子 (北海道大学大学院教育学院)  
話題提供者：春田 大志 (京都府立舞鶴支援学校)  
内山 誉利子 (大阪府立堺支援学校)  
今野 邦彦 (藤女子大学人間生活学部)  
指定討論者：長沼 俊夫 (日本体育大学体育学部)

**自主シンポジウム I-36 オンデマンド配信+8月26日(土)13:00~14:00 経済:2号館212**

特別支援学校(病弱)の特別支援教育コーディネーター等による地域の小・中学校等への  
支援の現状と課題

企画者：嶋野 隆文 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
司会者：嶋野 隆文 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：小西 孝政 (千葉県教育委員会)  
山口 徹 (熊本県立黒石原支援学校)  
宍戸 和枝 (福島県立須賀川支援学校医大校)  
嶋野 隆文 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
指定討論者：土屋 忠之 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

**自主シンポジウム I-37 オンデマンド配信+8月26日(土)14:30~15:30 教育:7号館101**

インクルーシブ教育の実現に向けた専門職支援員の効果的な活用について  
横浜国立大学D&I教育研究実践センターによる取組

企画者：高野 陽介（横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部）  
          泉 真由子（横浜国立大学）  
司会者：高野 陽介（横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部）  
話題提供者：泉 真由子（横浜国立大学）  
              竹田 智之（横浜市教育委員会）  
              芳賀 誠（厚木市立緑ヶ丘小学校）  
指定討論者：堀之内恵司（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

**自主シンポジウム I-38 オンデマンド配信+8月26日(土)14:30~15:30 都市科学:101**

交流及び共同学習を軸とした教員の協働  
－個別最適な学びと協働的な学びを实践する仕組みとして－

企画者：霜田 浩信（群馬大学共同教育学部）  
          坂西 秀昭（群馬大学共同教育学部）  
話題提供者：内田 誠（群馬大学共同教育学部）  
              木村 素子（群馬大学共同教育学部）  
              近藤 智（玉村町教育委員会）  
              河内 昭浩（群馬大学共同教育学部）  
指定討論者：池田 彩乃（山形大学地域教育文化学部）

**自主シンポジウム I-39 オンデマンド配信+8月26日(土)14:30~15:30 都市科学:102**

知的障害教育における国語、算数・数学科の指導Ⅳ

企画者：笹原 雄介（静岡県立伊豆の国特別支援学校）  
司会者：笹原 雄介（静岡県立伊豆の国特別支援学校）  
話題提供者：山口 美樹（静岡県立伊豆の国特別支援学校）  
              清 圭介（静岡県立伊豆の国特別支援学校）  
              笹原 雄介（静岡県立伊豆の国特別支援学校）  
指定討論者：松見 和樹（千葉県立特別支援学校流山高等学園）

**自主シンポジウム I-40 オンデマンド配信+8月26日(土)14:30~15:30 都市科学:103**

汎用見本合わせ課題プログラムを用いた関係フレームスキル訓練の実践と効果について

企画者：竹内 康二（明星大学心理学部心理学科）  
話題提供者：香川 紘子（株式会社スタートライン）  
              岩村 賢（株式会社スタートライン）  
              小幡 和史（樹の子クラブ）  
              高柳 優子（ABA療育支援室egg!）  
              稲田 尚子（大正大学心理社会学部）  
指定討論者：勿田 文記（株式会社スタートライン）

自主シンポジウム I-41 オンデマンド配信+8月26日(土)14:30~15:30 経済:2号館211

視覚障害教育の基礎・基本の再確認 I

- 盲学校の現状と課題 -

企画者：宮崎 善郎（岡山大学）  
司会者：左振 恵子（帝京平成大学）  
話題提供者：渡邊 正人（鳥取大学）  
菅井みちる（東京都立八王子盲学校）  
指定討論者：田中 良広（帝京平成大学）

自主シンポジウム I-42 取下げ

自主シンポジウム I-43 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 教育:7号館101

実践者が語るスヌーズレンの魅力

- 教育や福祉の現場からスヌーズレンのあり方を考える -

企画者：柳本 雄次（東京福祉大学教育学部）  
司会者：野澤 純子（國學院大學人間開発学部）  
後上 鐵夫（前大阪体育大学教育学部）  
話題提供者：樺澤 徹（埼玉県立騎西特別支援学校）  
藤澤 憲（和歌山県立紀伊コスモス支援学校）  
小菅 敏朗（生活介護事業所&COCO）  
指定討論者：西木貴美子（人間環境大学心理学部）  
大崎 博史（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

**自主シンポジウム I-44 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 都市科学:101**

キャリア・パスポートの効果的活用に向けた方策の検討  
目標設定・振り返りにおける対話の促進と本人の気づきや意味付けを促すポイント

企画者：菊地 一文（弘前大学大学院教育学研究科）  
司会者：杉中 拓央（東北文教大学人間科学部）  
話題提供者：藤川 雅人（島根大学教育学部）  
石羽根里美（千葉県立夷隅特別支援学校）  
岡本 洋（横浜市立若葉台特別支援学校）  
田中 美紀（青森県立北斗高等学校）  
指定討論者：菊地 一文（弘前大学大学院教育学研究科）

**自主シンポジウム I-45 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 都市科学:102**

知的障害のある児童生徒に対する情報モラルの指導の実際  
1人1台端末時代における善き使い手を目指す学び

企画者：齋藤 大地（宇都宮大学）  
司会者：齋藤 大地（宇都宮大学）  
話題提供者：菱 真衣（東京都都立あきる野学園）  
関口あさか（埼玉県立本庄特別支援学校）  
指定討論者：山崎 智仁（旭川市立大学経済学部）  
水内 豊和（島根県立大学人間文化学部）

**自主シンポジウム I-46 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 都市科学:103**

特別支援教育における発達障害への実験的接近(10)  
—群間差に焦点を当て“ない”分析—

企画者：北 洋輔（慶應義塾大学）  
司会者：平田 正吾（東京学芸大学）  
話題提供者：鈴木 浩太（四天王寺大学）  
池田 吉史（上越教育大学）  
指定討論者：岡崎 慎治（筑波大学）

**自主シンポジウム I-47 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 経済:2号館211**

視覚特別支援学校における歩行指導  
—外部専門家(歩行訓練士)との連携・協働—

企画者：丹所 忍（兵庫教育大学）  
門脇 弘樹（山口学芸大学）  
司会者：三科 聡子（宮城教育大学）  
話題提供者：中澤由美子（宮城県立視覚支援学校）  
波田野圭子（埼玉県立特別支援学校塙保己一学園）  
堀江 智子（公益財団法人日本盲導犬協会）  
指定討論者：青木 隆一（筑波大学・筑波大学附属視覚特別支援学校）

自主シンポジウム I-48 オンデマンド配信+8月26日(土)16:20~17:20 経済:2号館212

重度・重複障害児の学習とは？(8)

—能動的な学習を促進する学習内容の選定と学習環境の設定(Behavior Setting)—

企画者：樋口 和彦 (広島修道大学人文学部)  
司会者：樋口 和彦 (広島修道大学人文学部)  
話題提供者：池田 知史 (広島市立広島特別支援学校)  
山下 真由 (広島市立広島特別支援学校)  
中尾健一郎 (横浜市東部地域療育センター)  
清田 正史 (横浜市東部地域療育センター)  
名雪 美沙 (横浜市東部地域療育センター)  
指定討論者：平田香奈子 (広島修道大学人文学部)  
藤川志つ子 (千葉敬愛短期大学)

自主シンポジウム I-49 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 教育:6号館101

障害のある児童生徒にとって“望ましい”体育授業とは？(3)

通常学級で実践されるアダプテッドからの再考

企画者：村上 祐介 (順天堂大学)  
吉岡 尚美 (東海大学)  
澤江 幸則 (筑波大学)  
司会者：内田 匡輔 (東海大学)  
話題提供者：萩原 大河 (姫路市立水上小学校)  
今城 遥 (聖カタリナ大学)  
指定討論者：松浦 孝明 (国土館大学)

自主シンポジウム I-50 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 教育:6号館102

特別支援学校に勤務する教員のキャリアと専門性の向上に関する考察Ⅲ

～専門性の高い教員の確保・育成に向けた教育実習を含む大学等との連携による人材育成～

企画者：深谷 純一 (東京都教育庁指導部)  
司会者：深谷 純一 (東京都教育庁指導部)  
話題提供者：大江 啓賢 (東洋大学)  
岩本 悠希 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
奥住 秀之 (東京学芸大学)  
指定討論者：中西 郁 (十文字学園女子大学)

**自主シンポジウム I-51 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 教育:6号館201**

障害児者のためのチーム支援および組織運営についての検討  
療育・教育・福祉の立場において

企画者：河合 高鋭（鶴見大学短期大学部）  
司会者：河合 高鋭（鶴見大学短期大学部）  
話題提供者：宮野 雄太（横浜市立港南台ひの特別支援学校）  
加藤 健生（社会福祉法人はーとふる）  
中尾健太郎（横浜市東部地域療育センター）  
指定討論者：佐々木敏幸（明星大学教育学部）

**自主シンポジウム I-52 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 教育:7号館101**

多様な教育的ニーズに応じるための連携  
非正規教職員を含めた組織内外の協働を考える

企画者：長澤 真史（関東学院大学）  
司会者：板倉 達哉（文京学院大学）  
話題提供者：長澤 真史（関東学院大学）  
村田由利子（東久留米市立はくさん保育園）  
吉井 勘人（山梨大学）  
若井広太郎（東京家政大学）

**自主シンポジウム I-53 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 都市科学:101**

知的障害児の自立活動  
－本人参加型の「自立活動の個別の指導計画」－

企画者：高橋 幹則（山形大学教職大学院）  
司会者：岩松 雅文（宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校）  
話題提供者：志鎌 知弘（山形大学附属特別支援学校）  
佐貝 賀子（川西町立川西中学校）  
川村 修弘（山形大学教職大学院）  
指定討論者：西川 崇（長崎県立鶴南特別支援学校五島分校）  
三浦 光哉（山形大学教職大学院）

**自主シンポジウム I-54 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 都市科学:102**

知的障害者の大学教育(1)  
－大学が果たす役割と展望－

企画者：水野 和代（日本福祉大学）  
司会者：寺谷 直輝（聖霊女子短期大学）  
話題提供者：鈴木 規子（文部科学省障害者学習支援推進室）  
今枝 史雄（大阪教育大学）  
京 俊輔（島根大学）  
水野 和代（日本福祉大学）  
指定討論者：田中 良三（愛知県立大学名誉教授）

自主シンポジウム I-55 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 都市科学:103

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある子どもの自立活動と各教科等の関連を図った指導に関する検討

企画者：柘植 美文（国立特別支援教育総合研究所）  
佐藤 利正（国立特別支援教育総合研究所）  
棟方 哲弥（国立特別支援教育総合研究所）  
司会者：真部 信吾（国立特別支援教育総合研究所）  
話題提供者：栗田 真和（御殿場市立玉穂小学校）  
久野 優（佐賀市立本庄小学校）  
小泉 俊子（水戸市立第四中学校）  
指定討論者：野呂 文行（筑波大学）  
加藤 宏昭（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

自主シンポジウム I-56 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 経済:2号館211

ノートテイク学生共同養成・共同利用に関する検討  
—大学間連携と情報保障団体の事例から—

企画者：下中村 武（九州大学基幹教育院）  
岸川加奈子（九州大学基幹教育院）  
司会者：岸川加奈子（九州大学基幹教育院）  
話題提供者：井上 寛子（熊本大学障がい学生支援室）  
栗原 和弘（九州ルーテル学院大学人文学部/障がい学生サポート委員会）  
下中村 武（九州大学基幹教育院）  
窪崎 泰紀（特定非営利活動法人ゆに）  
指定討論者：白澤 麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）

自主シンポジウム I-57 オンデマンド配信+8月27日(日)9:30~10:30 経済:2号館212

こころの病気(精神疾患・心身症)のある児童生徒へのCo-MaMeを活用した自立活動における指導

—全国病弱虚弱教育研究連盟及び学校での取組から—

企画者：土屋 忠之（国立特別支援教育総合研究所）  
司会者：土屋 忠之（国立特別支援教育総合研究所）  
話題提供者：山本 有美（静岡県立天竜特別支援学校）  
土屋 忠之（国立特別支援教育総合研究所）  
門田 麻美（高知県立江の口特別支援学校）  
指定討論者：森山 貴史（青森県総合学校教育センター）

自主シンポジウム I-58 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 教育:6号館101

「生涯学習力」の育成と授業づくり

－生涯にわたる学びを支える学校と授業づくりとは－

企画者：竹林地 毅（広島都市学園大学）  
司会者：竹林地 毅（広島都市学園大学）  
話題提供者：伊勢川依里（東京都江東区立深川第八中学校）  
後松慎太郎（秋田大学教育文化学部附属特別支援学校）  
遠 直美（東京都立光明学園）  
指定討論者：齊藤 宇開（たすく株式会社）

自主シンポジウム I-59 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 教育:6号館102

知的障害・発達障害児・者とウェルビーイング

今とこれからを生きる力を育むために支援者が考えておくべきこと

企画者：西村 健一（島根県立大学）  
司会者：水内 豊和（島根県立大学）  
話題提供者：門脇 絵美（横浜市立矢部小学校）  
山崎 智仁（旭川市立大学）  
酒井 泰葉（一般社団法人日本障がい者スイミング協会）  
指定討論者：澤江 幸則（筑波大学体育系）

自主シンポジウム I-60 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 教育:6号館201

自立活動の指導の理解に向けた取組

企画者：宮崎 亜紀（熊本県立菊池支援学校）  
司会者：大櫃 玲子（福岡市発達教育センター）  
話題提供者：松岡 恭平（福岡市立東福岡特別支援学校）  
萱田 沙織（熊本県立鏡わかあゆ高等支援学校）  
指定討論者：北川 貴章（文教大学教育学部）

自主シンポジウム I-61 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 教育:7号館101

読書バリアフリー法と特別支援教育(3)

学校教育分野での読書バリアフリーの現状と課題

企画者：中野 泰志（慶應義塾大学）  
司会者：澤田 真弓（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
話題提供者：野口 武悟（専修大学）  
青木千帆子（筑波技術大学）  
中野 泰志（慶應義塾大学）  
指定討論者：田中 良広（帝京平成大学）

自主シンポジウム I-62 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 都市科学:101

知的障害特別支援学校における学習計画書(シラバス)を活用した単元・授業づくり  
-新学習指導要領に基づく検討を通して-

企画者:今枝 史雄 (大阪教育大学)  
城田 和晃 (東京都教職員研修センター)  
菅野 敦 (東京学芸大学)  
司会者:今枝 史雄 (大阪教育大学)  
話題提供者:八巻 素子 (東京都立青鳥特別支援学校)  
上村 哲也 (東京都立鹿本学園)  
田中孝志郎 (東京都立羽村特別支援学校)  
指定討論者:山元 薫 (静岡大学)

自主シンポジウム I-63 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 都市科学:102

特別支援学校(知的障害)における分身ロボットの利活用と可能性  
特別支援教育、社会福祉、知能ロボティックスの分野から

企画者:高野 聡子 (東洋大学文学部)  
司会者:高野 聡子 (東洋大学文学部)  
話題提供者:志村 健一 (東洋大学福祉社会デザイン学部)  
横田 祥 (東洋大学理工学部)  
小峯 惣太 (千代田区教育委員会子ども部)  
高野 聡子 (東洋大学文学部)  
指定討論者:滝川 国芳 (京都女子大学発達教育学部)

自主シンポジウム I-64 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 都市科学:103

特別支援教育を担う教員の専門性向上に関する課題と展望Ⅲ  
人材育成におけるマネジメントの実践から

企画者:綿引 清勝 (東海大学児童教育学部)  
司会者:綿引 清勝 (東海大学児童教育学部)  
話題提供者:佐々木敏幸 (明星大学教育学部)  
新田 昌広 (ギフテッド)  
指定討論者:島田 博祐 (明星大学教育学部)

自主シンポジウム I-65 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 経済:2号館211

高等学校における特別支援教育の充実に関する一考察  
通級による指導を中心に

企画者:山口真佐子 (桜美林大学)  
司会者:山口真佐子 (桜美林大学)  
話題提供者:江見 大輔 (東京都立秋留台高等学校)  
西牧 桂 (東京都立新宿山吹高等学校)  
指定討論者:篠崎 友誉 (東京都教職員研修センター)

自主シンポジウム I-66 オンデマンド配信+8月27日(日)11:00~12:00 経済:2号館212

障害の重い人の生涯学習(6)  
生涯学習実現のさまざまな形

企画者:三科 聡子(宮城教育大学)  
相澤 純一(NPO法人訪問大学おおきなき)  
石川 政孝(NPO法人訪問大学おおきなき)  
司会者:三科 聡子(宮城教育大学)  
話題提供者:大石 恒子(日野市障害者訪問学級)  
引地 達也(みんなの大学校)  
真見 圭子(訪問カレッジ@きーぼ岡山)  
下川 和洋(訪問カレッジ@希林館)  
阿部 圭但(文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課)  
指定討論者:飯野 順子(地域ケアさぼーと研究所)

自主シンポジウム I-67 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 教育:6号館101

特別支援教育における作業療法士の多様な連携

企画者:塩津 裕康(中部大学)  
司会者:有川 真弓(千葉県立医療保健大学)  
話題提供者:酒井 康年(日本作業療法士協会)  
本間 嗣崇(神奈川県立麻生支援学校)  
中山 雄介(美幌療育病院)  
指定討論者:田中 裕一(公益財団法人兵庫県青少年本部兵庫県立山の学校)

自主シンポジウム I-68 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 教育:6号館102

特別支援学校の教員養成システムの在り方  
教員養成大学と国立特別支援教育総合研究所の連携を視野に

企画者:中村 貴志(福岡教育大学)  
司会者:一木 薫(福岡教育大学)  
話題提供者:菅野 和彦(文部科学省特別支援教育課)  
中村 貴志(福岡教育大学)  
吉川 知夫(国立特別支援教育総合研究所)  
指定討論者:宍戸 和成(国立特別支援教育総合研究所 元理事長)

自主シンポジウム I-69 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 教育:6号館201

インクルーシブ教育の着実な推進に向けた取り組み  
-長野県における各教師の積極的授業改善と持続可能な仕組みづくりからの挑戦-

企画者:奥村真衣子(信州大学学術研究院)  
司会者:奥村真衣子(信州大学学術研究院)  
話題提供者:宮澤 聡(山ノ内町立東小学校)  
戸谷 健史(信州大学学術研究院)  
宮島 崇(松本市教育委員会)  
指定討論者:西村 健一(鳥根県立大学人間文化学部)

自主シンポジウム I-70 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 教育:7号館101

インクルーシブ教育とICF(3)

企画者: 徳永亜希雄 (横浜国立大学)  
司会者: 徳永亜希雄 (横浜国立大学)  
話題提供者: 徳永亜希雄 (横浜国立大学)  
                  齊藤 博之 (山形県立ゆきわり養護学校)  
                  遠 直美 (東京都立光明学園)  
指定討論者: 山元 薫 (静岡大学)  
                  田中 浩二 (至誠館大学, のあ保育園)

自主シンポジウム I-71 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 都市科学:101

思考力の段階に応じた基礎学習・生活に根ざした学習・教育課程  
—学習は生活の延長に・生活は学習に活かされて—

企画者: 佐島 毅 (筑波大学)  
話題提供者: 福田 奏子 (宇都宮大学)  
                  松本健太郎 (東京都立多摩桜の丘学園)  
指定討論者: 坂井 聡 (香川大学)  
                  佐藤 克敏 (京都教育大学)

自主シンポジウム I-72 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 都市科学:102

知的障害特別支援学校におけるデジタル・シティズンシップ教育  
富山大学教育学部附属特別支援学校における取り組みから

企画者: 小林 真 (富山大学)  
司会者: 小林 真 (富山大学)  
話題提供者: 北村 満 (富山大学教育学部附属特別支援学校)  
                  山崎 智仁 (旭川市立大学)  
                  紺 恵 (富山大学教育学部附属特別支援学校)  
指定討論者: 齋藤 大地 (宇都宮大学)

自主シンポジウム I-73 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 都市科学:103

知的・発達障害の評価・支援へのPASS神経認知モデルの活用  
DN-CAS認知評価システム等の新たな活用可能性の検討

企画者: 岡崎 慎治 (筑波大学人間系)  
司会者: 石原 章子 (筑波大学大学院)  
話題提供者: 井上 知洋 (香港中文大学)  
                  大柳 俊夫 (札幌医科大学)  
                  岡村恵里子 (筑波大学大学院)  
指定討論者: 前川 久男 (筑波大学名誉教授)

自主シンポジウム I-74 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 経済:2号館211

病気療養中の高校生への継続的な学習支援の現状と課題2

企画者：大崎 博史 ((独) 国立特別支援教育総合研究所)  
司会者：五島 脩 (横浜国立大学)  
          嶋野 隆文 ((独) 国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：吉田 和市 (三浦学苑高等学校)  
          中村 洋士 (三浦学苑高等学校)  
          手塚亜希子 (栃木県立岡本特別支援学校おおるり分教室)  
          福田 有宏 (栃木県立岡本特別支援学校おおるり分教室)  
指定討論者：羽田 京子 (全国病弱虚弱教育学校PTA連合会)  
          関 由起子 (埼玉大学)

自主シンポジウム I-75 オンデマンド配信+8月27日(日)12:30~13:30 経済:2号館212

障害の重い子どもと係わり合うなかにある実践研究(2)

—相互主客二役性の活用から考える—

企画者：菅井 裕行 (宮城教育大学大学院教育学研究科)  
司会者：菅井 裕行 (宮城教育大学大学院教育学研究科)  
話題提供者：岡澤 慎一 (宇都宮大学大学院教育学研究科)  
          笹原 未来 (福井大学大学院連合教職開発研究科)  
          中村 保和 (群馬大学共同教育学部)  
指定討論者：土谷 良巳 (上越教育大学名誉教授)  
          菅井 裕行 (宮城教育大学大学院教育学研究科)

## 自主シンポジウムⅡ-1

オンデマンド配信

### 学校と放課後等デイサービスとの連携・共同による支援についてⅠ - 視覚障害児童生徒を中心に -

企画者：左振 恵子（帝京平成大学）  
司会者：左振 恵子（帝京平成大学）  
話題提供者：小汐 誉（いちごの会）  
谷口 由佳（社会福祉法人 京都ライトハウス 視覚支援 あいあい教室）  
指定討論者：古川 千鶴（社会福祉法人 京都ライトハウス 視覚支援 あいあい教室）

## 自主シンポジウムⅡ-2

オンデマンド配信

### キューサイン使用の目的と方法

企画者：脇中起余子（筑波技術大学）  
司会者：長南 浩人（筑波技術大学）  
話題提供者：脇中起余子（筑波技術大学）  
宮下 恵子（千葉県立千葉聾学校）  
長南 浩人（筑波技術大学）  
原島 恒夫（筑波大学）  
指定討論者：松本 末男（元筑波大学）

## 自主シンポジウムⅡ-3

オンデマンド配信

### 電話リレーサービス通訳オペレータ養成カリキュラムの開発と展望

企画者：中野 聡子（国立大学法人群馬大学）  
司会者：二神 麗子（日本社会事業大学社会福祉学部）  
話題提供者：新海 晃（広島大学大学院人間社会科学研究科）  
金澤 貴之（群馬大学共同教育学部）  
指定討論者：大沼 直紀（一般財団法人日本財団電話リレーサービス）

## 自主シンポジウムⅡ-4

オンデマンド配信

### 聴覚障害幼児に対する絵本読み聞かせの意義 - 経験豊富な教員の視点から -

企画者：左藤 敦子（筑波大学人間系）  
話題提供者：庄司 和史（信州大学 教職支援センター）  
手塚 清（千葉県立千葉聾学校）  
菅原 充範（東京都立立川学園）  
指定討論者：山中 健二（筑波大学附属聴覚特別支援学校）

## 自主シンポジウムⅡ-5

オンデマンド配信

知的障害特別支援学校における「遊びの指導」の今(5)  
遊びの指導がかたち創られ、受け継がれていくプロセスに焦点を当てて

企画者：真鍋 健 (千葉大学教育学部)  
菅原 宏樹 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)  
話題提供者：名取 幸恵 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)  
高橋 良育 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)  
角原 佳介 (岡山県立東備支援学校)  
小郷 将太 (岡山大学教育学部附属特別支援学校)  
櫻田 佳枝 (秋田県教育庁特別支援教育課)  
指定討論者：名古屋恒彦 (植草学園大学)

## 自主シンポジウムⅡ-6

オンデマンド配信

発達的な視点を取り入れた音楽の授業づくり(2)  
知的障害を伴う自閉症児童を対象とした小学部第1段階の指導に焦点をあてて

企画者：工藤 傑史 (東京福祉大学)  
司会者：工藤 傑史 (東京福祉大学)  
話題提供者：工藤 久美 (筑波大学附属久里浜特別支援学校)  
山本久美子 (日本臨床心理研究所)  
指定討論者：池畑美恵子 (淑徳大学発達臨床研究センター)  
工藤 傑史 (東京福祉大学)

## 自主シンポジウムⅡ-7

オンデマンド配信

課題解決のための研修の在り方  
—知識を行動に移すために—

企画者：村浦新之助 (埼玉県立上尾特別支援学校/東京学芸大学D2)  
司会者：鈴木 潜 (埼玉県立所沢特別支援学校/香川大学研究生)  
話題提供者：永山 宏平 (埼玉県立本庄特別支援学校)  
村浦新之助 (埼玉県立上尾特別支援学校/東京学芸大学D2)  
鈴木 潜 (埼玉県立所沢特別支援学校/香川大学研究生)  
指定討論者：佐々木敏幸 (明星大学)

## 自主シンポジウムⅡ-8

オンデマンド配信

知的障害がある児童生徒の協働的学びと個別最適化の質を問う  
—授業における効果的な支援について—

企画者：細川かおり（千葉大学教育学部）  
司会者：橋本 創一（東京学芸大学教育実践研究支援センター）  
話題提供者：井上 剛（東京学芸大学附属特別支援学校）  
小島 靖弘（群馬大学共同教育学部附属特別支援学校）  
菅原 宏樹（千葉大学教育学部附属特別支援学校）  
指定討論者：橋本 創一（東京学芸大学教育実践研究支援センター）  
霜田 浩信（群馬大学共同教育学部）

## 自主シンポジウムⅡ-9

オンデマンド配信

インクルーシブ教育と知的障害児教育を考える  
知的障害児は増えている！

企画者：渡邊 貴裕（順天堂大学スポーツ健康科学部）  
司会者：橋本 創一（東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター）  
話題提供者：菊池 哲平（熊本大学 大学院教育学研究科）  
小柳 菜穂（東京学芸大学大学院）  
渡邊 貴裕（順天堂大学スポーツ健康科学部）  
指定討論者：加藤 宏昭（文部科学省）

## 自主シンポジウムⅡ-10

オンデマンド配信

知的障害特別支援学校における教科学習の実践(1)

企画者：高津 梓（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
佐藤 義竹（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
大宮 弘恵（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
佐藤 知洋（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
話題提供者：森澤 亮介（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
久野 智宏（東京都立中野特別支援学校）  
山口裕紀子（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
指定討論者：米田 宏樹（筑波大学人間系）

## 自主シンポジウムⅡ-11

オンデマンド配信

### エビデンスに基づく知的障害児の発達と特性に応じた支援(1) 知的障害児の捉えを支援にどう活かすか

企画者：片岡 美華（鹿児島大学教育学系）  
小島 道生（筑波大学人間系）  
司会者：片岡 美華（鹿児島大学教育学系）  
話題提供者：今隈 亮太（鹿児島大学教育学部附属特別支援学校）  
小島 道生（筑波大学人間系）  
北岡 大輔（和歌山大学教育学部）  
指定討論者：別府 哲（岐阜大学教育学部）

## 自主シンポジウムⅡ-12

オンデマンド配信

### 特別支援学校における学校組織としての保護者支援 地域の先進的な取組から学ぶ

企画者：岡村 章司（兵庫教育大学大学院）  
井澤 信三（兵庫教育大学大学院）  
司会者：石坂 務（国立障害者リハビリテーションセンター）  
話題提供者：越 政樹（三鷹市教育委員会）  
上田さとみ（家庭教育支援チーム とらいあんぐる）  
岩佐 直彦（小野市立小野特別支援学校）  
山中 宏之（小野市立小野特別支援学校）  
指定討論者：井澤 信三（兵庫教育大学大学院）  
岡村 章司（兵庫教育大学大学院）

## 自主シンポジウムⅡ-13

オンデマンド配信

### 知的障害の思春期・青年期における強度行動障害の支援

企画者：倉光 晃子（西南学院大学）  
司会者：倉光 晃子（西南学院大学）  
話題提供者：森口 哲也（障がい者行動・地域生活支援センターか〜む）  
齊藤 翔平（福岡市立生の松原特別支援学校）  
指定討論者：下山 真衣（信州大学学術研究院教育学系）

## 自主シンポジウムⅡ-14

オンデマンド配信

### 重度身体障害者とeSports(2) 視線入力を活用したゲーム操作の発展

企画者：大杉 成喜（皇學館大学教育学部）  
司会者：新谷 洋介（金沢星稜大学人間科学部）  
話題提供者：岡元 雅（みやびProject）  
梶山 紘平（かじだすTube）  
引地 晶久（できわかクリエイターズ）  
指定討論者：金森 克浩（帝京大学教育学部）  
伊藤 史人（島根大学）  
田中 栄一（北海道医療センター）

## 自主シンポジウムⅡ-15

オンデマンド配信

### 特別支援教育専攻学生対象の障害理解のための教材開発 その12: 超重症児, 重度・重複障害児の教育と評価に関する教材

企画者：村上 由則（東北福祉大学 教育学部）  
話題提供者：菊池 紀彦（三重大学 教育学部）  
八島 猛（上越教育大学 大学院学校教育研究科）  
大江 啓賢（東洋大学 文学部）  
指定討論者：寺本 淳志（宮城教育大学 教育学部）

## 自主シンポジウムⅡ-16

オンデマンド配信

### わが国における場面緘黙研究の現在と今後の方向を考えるⅨ —高校入試における場面緘黙のある受験生の「英語スピーキングテスト」及び「自己表現」 をめぐって—

企画者：園山 繁樹（KBS発達教育支援研究所/日本場面緘黙研究会）  
司会者：奥村真衣子（信州大学/日本場面緘黙研究会）  
話題提供者：公文 匠（静岡場面かんもくの会/日本場面緘黙研究会）  
若山 恵（つぼみの会（関東親の会）/日本場面緘黙研究会）  
久田 信行（群馬医療福祉大学/日本場面緘黙研究会）  
指定討論者：梶 正義（関西国際大学/日本場面緘黙研究会）

## 自主シンポジウムⅡ-17

オンデマンド配信

### 強度行動障害に関わる専門援助職に求められること(8) 教育・福祉現場でのOJT:働きながら腕を磨く

企画者: 笹田夕美子 (行動コーチングアカデミー)  
          奥田 健次 (学校法人西軽井沢学園)  
司会者: 奥田 健次 (学校法人西軽井沢学園)  
話題提供者: 原 伸生 (長野県上田養護学校)  
              藤岡 有希 (長野県上田養護学校)  
              近藤 瑞季 (行動コーチングアカデミー)  
              神田 知美 (行動コーチングアカデミー)  
指定討論者: 加藤 哲文 (上越教育大学)

## 自主シンポジウムⅡ-18

オンデマンド配信

### A S D児に対して「非認知能力」をどう育むかⅢ スクリプトによる社会・情動力のマネジメント

企画者: 佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)  
司会者: 関戸 英紀 (東海大学児童教育学部)  
話題提供者: 原田 崇 (宮崎県立延岡しろやま支援学校)  
              神宮寺 悠 (山梨県立わかば支援学校)  
              青木 雄一 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
              長崎 勤 (実践女子大学生生活科学部生活心理専攻)  
指定討論者: 松田 信夫 (山口学芸大学教育学部)  
              宮崎 真 (元明治学院大学心理学部)

## 自主シンポジウムⅡ-19

オンデマンド配信

### 発達障害児・者の心理教育的アセスメントを担う人材に求められるスキル・コンピテンシーを考える

企画者: 中野 泰伺 (筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局)  
          脇 貴典 (筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局)  
司会者: 脇 貴典 (筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局)  
話題提供者: 青木 真純 (東京学芸大学障がい学生支援室)  
              井上 操 (つくば心療内科クリニック)  
              半田タユ美 (麗澤大学障がい学生支援課)  
指定討論者: 岡崎 慎治 (筑波大学人間系)  
              篠田 晴男 (立正大学心理学部)

## 自主シンポジウムⅡ-20

オンデマンド配信

発達障害学生支援における学生ピアサポーターの育成  
—支援スキルの育成に焦点を当てて—

企画者：永井 友幸（九州大学 基幹教育院）  
横田 晋務（九州大学）  
司会者：田中 真理（九州大学）  
話題提供者：永井 友幸（九州大学）  
日下部貴史（富山大学）  
末吉 彩香（筑波大学）  
指定討論者：西山 久子（福岡教育大学）

## 自主シンポジウムⅡ-21

オンデマンド配信

学校・地域の特色・ニーズに応じたインクルーシブ教育実践研究の開発  
教育・臨床フィールドと大学研究機関の連携

企画者：橋本 創一（東京学芸大学）  
司会者：橋本 創一（東京学芸大学）  
話題提供者：平澤 紀子（岐阜大学）  
川合 紀宗（広島大学）  
小島 道生（筑波大学）  
岩本 佳世（愛知教育大学）

## 自主シンポジウムⅡ-22

オンデマンド配信

発達障害学生のコミュニケーションにおける言葉の活用

企画者：岩崎真梨子（八戸工業大学）  
司会者：菊地 一文（弘前大学大学院教育学研究科）  
話題提供者：岩崎真梨子（八戸工業大学）  
松本 敏治（教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる）

## 自主シンポジウムⅡ-23

オンデマンド配信

療育記録映画「夜明け前の子どもたち」1968を教材に使った大学等での講義づくり

企画者：渡部 昭男（大阪成蹊大学）  
話題提供者：小野川文子（北海道教育大学釧路校）  
垂髪あかり（神戸松蔭女子学院大学）  
川内紀世美（大阪健康福祉短期大学（松江キャンパス））  
金 仙玉（愛知みずほ短期大学）  
國本 真吾（鳥取短期大学）

## 自主シンポジウムⅡ-24

オンデマンド配信

高等学校段階におけるキャリア・パスポート活用の課題と展望  
—障害のある生徒の「進路の意思決定」を支えるために—

企画者：榎本 容子（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
伊藤 由美（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
司会者：井上 秀和（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
話題提供者：相田 泰宏（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
井澤 典之（京都市立東山総合支援学校）  
神尾 俊平（静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校）  
指定討論者：瀧田美紀子（横浜市教育委員会事務局学校教育企画部特別支援教育相談課）

## 自主シンポジウムⅡ-25

オンデマンド配信

生涯学習をライフロング・ライフワイドで捉える

企画者：船橋 秀彦（福祉型専攻科シャンティつくば）  
司会者：寺門 宏倫（茨城県立つくば特別支援学校）  
話題提供者：國本 真吾（鳥取短期大学）  
清時 忠吉（社会福祉法人いずみ野福祉会）  
船橋 秀彦（福祉型専攻科シャンティつくば）  
指定討論者：渡部 昭男（大阪成蹊大学／鳥取大学名誉教授）

## 自主シンポジウムⅡ-26

オンデマンド配信

音楽の特性を活かした授業づくり  
～実践からの考察～

企画者：伊藤 啓子（昭和音楽大学客員教授）  
司会者：伊藤 啓子（昭和音楽大学客員教授）  
話題提供者：中川留美子（東京都立光明学園教諭）  
大山 祥子（東京都立町田の丘学園外部専門員）  
指定討論者：矢作 聡子（千葉県立つくし特別支援学校主幹教諭）

## 自主シンポジウムⅡ-27

オンデマンド配信

「身体」から問い直す知的障害特別支援教育における自立活動の指導のあり方(4)  
実践における評価について「身体」から問い直す

企画者：岩井 俊夫（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
司会者：丸山 真幸（東京都立光明学園）  
話題提供者：有井 香織（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
岩井 俊夫（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
本多 克敏（大阪教育大学附属特別支援学校）  
指定討論者：久田 信行（群馬医療福祉大学）  
藤野 陽生（大阪大学大学院 連合小児発達学研究所）

## 自主シンポジウムⅡ-28

オンデマンド配信

### 学校研究の充実を目指す 学び続ける教師と学校

企画者：中村 晋（帝京大学教育学部）  
辻村 洋平（東京都立南多摩地区特別支援学校（仮称）開設準備室）  
話題提供者：昼間 友彦（東京都立調布特別支援学校）  
青山 直樹（東京都立矢口特別支援学校）  
澤田 隆視（埼玉県立岩槻はるかぜ特別支援学校）

## 自主シンポジウムⅡ-29

オンデマンド配信

### 障害学生支援と災害 災害等の緊急時における予防・対応の指標策定と活用

企画者：佐藤 剛介（久留米大学）  
森脇 愛子（青山学院大学）  
話題提供者：佐藤 剛介（久留米大学）  
酒井 春奈（立命館大学）  
竹田 周平（福井工業大学）  
指定討論者：羽野 暁（九州大学）

## 自主シンポジウムⅡ-30

オンデマンド配信

### 共生社会の形成に向けた保育・教育の希求(6) 保育における「その子(人)へのまなざし」から学ぶ

企画者：広瀬 由紀（共立女子大学）  
司会者：広瀬 由紀（共立女子大学）  
話題提供者：若月 芳浩（四季の森幼稚園・玉川大学）  
篠原 直子（練馬区立光が丘むらさき幼稚園）  
指定討論者：守 巧（こども教育宝仙大学）  
久保山茂樹（国立特別支援教育総合研究所）

## 自主シンポジウムⅡ-31

オンデマンド配信

### 対話的な実践によるインクルーシブな実践をめざして

企画者：荒巻 恵子（帝京大学）  
司会者：司城紀代美（宇都宮大学）  
香川奈緒美（島根大学）  
話題提供者：荒巻 恵子（帝京大学）  
指定討論者：TRIGO-CLAPÉS Ana Laura（メキシコ国立自治大学）  
楠見 友輔（信州大学）

## 自主シンポジウムⅡ-32

オンデマンド配信

### 特別支援学校のスクールソーシャルワーカーのニーズと役割

企画者：熊谷 恵子（筑波大学 附属学校教育局・人間系）  
司会者：熊谷 恵子（筑波大学 附属学校教育局・人間系）  
話題提供者：藤本 啓寛（筑波大学附属学校教育局SSW）  
山田 詩織（筑波大学附属学校教育局SSW）  
佐々木順子（筑波大学附属視覚特別支援学校SC）  
指定討論者：飯田 順子（筑波大学附属学校教育局・人間系）

## 自主シンポジウムⅡ-33

オンデマンド配信

### 通常学級の多様な子どもを支援するための教員養成の課題 －教職員がもつ課題の現状と研修ニーズに関する調査研究の報告と既存科目の検討－

企画者：吉田 ゆり（長崎大学）  
鈴木 保巳（長崎大学）  
司会者：西村 大介（長崎大学）  
話題提供者：石川 衣紀（長崎大学）  
高橋 甲介（長崎大学）  
指定討論者：寺田 信一（高知大学）  
相澤 雅文（京都教育大学）

## 自主シンポジウムⅡ-34

オンデマンド配信

### 『特殊教育とインクルーシブ教育の社会学』を読み解く

企画者：伊藤 駿（広島文化学園大学学芸学部）  
古田 弘子（熊本大学大学院教育学研究科）  
司会者：伊藤 駿（広島文化学園大学学芸学部）  
話題提供者：古田 弘子（熊本大学）  
吉井 涼（福山市立大学教育学部）  
本間 桃里（京都大学大学院人間・環境学研究科）  
指定討論者：是永かな子（高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門）

# ポスター発表



## 知的障害1

8月25日(金)14:00~15:00 教育文化ホール1階

P1A-1	この子一人の確かな学びと育ちを支援するとは(4) 青少年の生活・自然体験の実態と小学校学習指導要領の教育観及び知的障害児の教育内容・方法の検討から	市澤 豊(星槎大学)
P1A-2	知的障害特別支援学校の卒業者と保護者等に対する自立活動の観点を踏まえた社会生活調査	田原 洋明(茨城県立協和特別支援学校) 佐々木銀河(筑波大学人間系)
P1A-3	成人期知的障害者の自己決定に関わる選択行為の実態 —本人調査を通して—	今枝 史雄(大阪教育大学 特別支援教育部門) 菅野 敦(東京学芸大学)
P1A-4	成人期知的障害者に対する将来の目標選択に関わる学習支援 自己決定の選択プロセスに基づいて	辻村 洋平(都立南多摩特別支援学校(仮称)開設準備室) 大沼 健司(社会福祉法人 創隣会) 今枝 史雄(大阪教育大学) 菅野 敦(東京学芸大学)
P1A-5	知的障害のある成人の生涯学習への取り組み 「参加」という視点からの募集とプログラムの検討	衛藤 裕司(大分大学 教育学部)
P1A-6	知的障害特別支援学校における外国語教育の現状と展望	池田順之介(東京学芸大学教職大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1A-7	視線解析装置を使用した読み間違いの原因の検討	畑 翔太(京都府立八幡支援学校) 藪中 良彦(大阪保健医療大学大学院) 小林利恵子(京都府立井手やまぶき支援学校) 竹内 理恵(京都府立井手やまぶき支援学校)
P1A-8	知的障害児における両眼協調性評価の重要性	藪中 良彦(大阪保健医療大学) 畑 翔太(京都府立八幡支援学校) 竹内 理恵(京都府立井手やまぶき支援学校) 小林利恵子(京都府立井手やまぶき支援学校)
P1A-9	学びを深めるハイフレックス型「大学で学ぼう」への転換 ハイフレックス型動画教材と指導形態の開発	山元 薫(静岡大学) 瀬戸脇正勝(静岡県障害者就労研究会)
P1A-10	欠番	
P1A-11	卒業生の就労先調査に基づく知的障害教育特別支援学校進路テキストの開発	千明亜由美(高知県立山田特別支援学校) 山崎 敏秀(高知大学) 松田 弥花(広島大学) 是永かな子(高知大学大学院)
P1A-12	養護学校義務制前の六方学園の教育的役割	平田香奈子(広島修道大学 人文学部)
P1A-13	学校卒業後の知的障害者に対する生涯学習に関する検討 障害福祉サービス事業所における生涯学習実践例を中心に	坂口 友良(ひまわり学園真美ヶ丘自立訓練校)
P1A-14	知的障害児における手指の巧緻性の評価 評価課題の探索	岡田 類(埼玉県立川口特別支援学校) 平田 正吾(東京学芸大学)
P1A-15	特別支援学校におけるマカトン法の活用の実態	齋藤 愛子(旭出学園教育研究所) 菊池けい子(旭出学園教育研究所)

P1A-16	知的障害国語、算数・数学の系統性を踏まえた教材開発 ーラーニングマップによる学習状況の評価に基づく教材化 の工夫ー	笹原 雄介(静岡県立伊豆の国特別支援学校) 山口 美樹(静岡県立伊豆の国特別支援学校) 加藤 貴愛(静岡県立伊豆の国特別支援学校) 宇根 桃子(静岡県立伊豆の国特別支援学校) 清 主介(静岡県立伊豆の国特別支援学校) 山元 薫(静岡大学教育学部)
P1A-17	ベルクソンの記憶理論を手掛かりにしたエピソード記録の 分析 知的障害特別支援学校高等部での日々の実践を通して	濱田 曜(岡山大学教育学部附属特別支援学校)
P1A-18	特別支援学校におけるリズムジャンプトレーニングの実践 研究	都築駿次郎(旭出学園(特別支援学校))
P1A-19	知的障害教育における各教科等を合わせた指導の方策 ー「各教科等の内容の取扱いや学習評価」に着目してー	藤谷 峻介(岡山県立岡山東支援学校) 宮崎 善郎(岡山大学学術研究院教育学域)
P1A-20	自立活動の個別の指導計画作成における課題 ～「流れ図」に沿った書式における作成困難性に関するアン ケート調査結果より～	竹中 正彦(兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校)
P1A-21	知的障害教育における「考える力」を大切にした教育実践(1) 子どもの「考える姿」の探究	岩松 雅文(宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校) 齋藤 大地(宇都宮大学共同教育学部)
P1A-22	知的障害特別支援学校の保護者のICTの利用に対する意識	大川甲太郎(静岡大学教職大学院特別支援教育分野) 大塚 玲(静岡大学)
P1A-23	特別支援学校における健康診断について 視覚的な教材の工夫	林 美里(旭出学園(特別支援学校))
P1A-24	知的障害者における自己調整学習過程の検討 ループリックを用いた学習における教師の授業内発話及び インタビューの質的データ分析を通して	中村 晋(帝京大学教育学部) 米田 宏樹(筑波大学人間系障害科学域)
P1A-25	知的障害のある子どものための触覚活用教材の検討 立体イメージプリンターで作成した触覚活用教材を用いた 授業実践から	溝口 大輔(信州大学教職大学院) 宮地弘一郎(信州大学学術研究院教育学系)
P1A-26	教科の視点に着目して「各教科等を合わせた指導」を行うた めのシートの開発・検討 ～A県版単元計画・評価シートの提案～	遠山裕一郎(長野県木曾養護学校) 柘植 美文(国立特別支援教育総合研究所)
P1A-27	知的障害を伴う自閉症幼児へのコミュニケーション指導 教師との関わりを通して「やりたい」気持ちや伝える力を育 てる実践	飯田里佳子(筑波大学附属久里浜特別支援学校)
P1A-28	知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究(1)	横尾 俊(国立特別支援教育総合研究所) 真部 信吾(国立特別支援教育総合研究所) 平沼 源志(国立特別支援教育総合研究所) 横倉 久(国立特別支援教育総合研究所) 柘植 美文(国立特別支援教育総合研究所) 嶋野 隆文(国立特別支援教育総合研究所) 山口 遼(国立特別支援教育総合研究所)
P1A-29	知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究(2)	平沼 源志(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 横尾 俊(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 真部 信吾(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 横倉 久(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 柘植 美文(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 嶋野 隆文(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 山口 遼(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

P1A-30	知的障害特別支援学校体育科の授業における主運動に応じた体づくり運動の検討 長縄跳びを主運動とした際の準備運動の検討	長谷川麗央(宮城教育大学大学院教育学研究科) 永井 伸幸(宮城教育大学大学院教育学研究科)
P1A-31	「ラーニングマップ」を基盤とした学習評価システムの開発Ⅱ	立石 宣暁(静岡県立浜北特別支援学校) 山元 薫(静岡大学)
P1A-32	知的障害教育における身体づくり・動きづくりの体育科カリキュラム開発	松見 育子(静岡大学教職大学院2年(清水特別支援学校)) 山元 薫(静岡大学教育学部)
P1A-33	重度の知的障害のある生徒に対する情緒の安定と行動の調整を目指した自立活動の実践 エピソードを基にした事例検討を踏まえて	小出 博史(栃木県立那須特別学校学校)
P1A-34	「防災パンフレット」の学習効果に関する一考察 保護者アンケート結果の検証を通して	澤本 佳江(筑波大学附属大塚特別支援学校) 杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 飯島 徹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 堀江 俊丞(筑波大学附属大塚特別支援学校) 菊池 恵美(筑波大学附属大塚特別支援学校) 島 尚平(筑波大学附属大塚特別支援学校) 久野 智宏(東京都立中野特別支援学校) 藤本 美佳(神奈川県立茅ヶ崎特別支援学校) 小島 道生(筑波大学人間系)
P1A-35	知的障害者のQOLを支える教育の在り方についての考察 卒業生による学校教育の評価と生活の満足度	新妻翔太郎(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 細川かおり(千葉大学教育学部)
P1A-36	自分の思いをうまく表現できない児童への理解と支援の在り方	横堀 壮昭(新潟県立新発田竹俣特別支援学校いじみの分校) 森川 悟(新潟大学附属特別支援学校)
P1A-37	自閉スペクトラム症児におけるAQの特徴 得点の信頼性について	佐々木琉奈(東京都立多摩桜の丘学園) 平田 正吾(東京学芸大学)
P1A-38	スウェーデンのインクルーシブ教育と知的障害教育問題の動向 スウェーデンの知的障害当事者組織「Riksförbundet FUB」への訪問調査から一	田部 絢子(金沢大学) 能田 昂(尚絅学院大学) 石井 智也(兵庫教育大学) 内藤 千尋(山梨大学) 石川 衣紀(長崎大学) 池田 敦子(東海学院大学) 高橋 智(日本大学)
P1A-39	担任チームにおけるチームワークと会議のあり方の関連性 知的障害特別支援学校において複数教員で担任する学級を対象にした質問紙調査の結果をもとに	宮野 雄太(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 八重田 淳(筑波大学人間系)

## 発達障害1、ダイバーシティ

8月25日(金)15:30~16:30 教育文化ホール1階

P1B-1	幼児教育施設における気になる子どもへの合理的配慮 園行事における配慮の実態	小林 真(富山大学教育学系)
P1B-2	特別支援学校幼稚部における「家庭生活支援」の取組	石川 千尋(筑波大学附属久里浜特別支援学校)
P1B-3	重度知的障害を伴う自閉症者のアナログ時計の読み指導 コロロメソッドを活用したSさんの事例	金子 尚弘(社会福祉法人コロロ学舎) 金子真奈美(社会福祉法人コロロ学舎) 芝崎 悦子(社会福祉法人コロロ学舎)
P1B-4	構造化された学習環境に関する学校研究の実践 自閉症スペクトラムの障害特性と構造化の知識に焦点を当てて	村浦新之助(上尾特支/東京学芸大学D2)

P1B-5	オンライン学習システムによる学習効果の検討 広島大学UD学習支援システムの運用と開発	諸星 奏希(広島大学大学院人間社会科学研究所) 氏間 和仁(広島大学大学院人間社会科学研究所)
P1B-6	OJT事例検討の成果から見る情報共有支援ツールの活用と 連携のあり方 行動問題への指導・支援が中心的課題となった5事例の分 析に基づいて	区 潔萍(関西外国語大学) 柘植 雅義(筑波大学人間系) 熊谷 恵子(筑波大学人間系) 三益 亜美(筑波大学人間系) 宮本 昌子(筑波大学人間系) 岡崎 慎治(筑波大学人間系) 野呂 文行(筑波大学人間系) 小島 道生(筑波大学人間系) 米田 宏樹(筑波大学人間系)
P1B-7	自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する子どもを育てる 母親のわが子の幼児期から就学期における心理変容に関す る検討	石川 美喜(福岡教育大学大学院教育学研究科) 見上 昌睦(福岡教育大学教育学部) 中村 貴志(福岡教育大学教育学部)
P1B-8	教育系大学生の発達障害児への対応に関する考え方の変化 —特別支援教育の学びによる合理的配慮及び漢字指導の工 夫—	深谷あんじ(福島大学大学院教職実践研究科) 鶴巻 正子(福島大学人間発達文化学類)
P1B-9	発達障害が疑われる児童へのひらがな指導 50音表を活用したひらがな読み書き指導を中心に	裴 虹(筑波大学) 三益 亜美(筑波大学)
P1B-10	プログラミング学習で思考力を育む	竹内 嘉恵(合同会社くらしのまなび舎) 五味 修(合同会社くらしのまなび舎)
P1B-11	重度知的能力障害を伴うダウン症候群1例の個別音楽療法 における変化	山下 貴子(目白発達心理研究所 松本大学) 五十嵐一枝(国立病院機構 東京医療センター)
P1B-12	自閉スペクトラム症の傾向がある幼児の共同注意の発達に 関する予備的検討	李 彩環(明星大学大学院心理学研究科) 竹内 康二(明星大学心理学部) 裴 虹(筑波大学大学院人間系)
P1B-13	コロナ禍での発達障害のある児童生徒の様子と小中学校の 対応 通常の学級・特別支援学級に在籍児童生徒に関する支援教育 コーディネーターによる自由記述回答の分析	竹村 洋子(国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(国立特別支援教育総合研究所, 常葉大学教育学部) 廣島 慎一(徳島県立徳島視覚支援学校) 井上 秀和(国立特別支援教育総合研究所) 榎本 容子(国立特別支援教育総合研究所) 玉木 宗久(国立特別支援教育総合研究所) 西村 崇宏(国立特別支援教育総合研究所) 三浦 千夏(横須賀市教育委員会)
P1B-14	幼児期のアクティブラーニングにおけるユニバーサルデザ イン化に向けた事例的検討	橋本 陽介(白梅学園大学子ども学部)
P1B-15	教師による授業内対話の改善をめざす全学校規模の介入 予備的研究:hyper-QUを用いた学校生活意欲の低位尺度 (対人関係・学業達成)の前後比較	大石 幸二(立教大学現代心理学部)
P1B-16	中学校における多様性理解学習の効果等に関する検討	鈴木 暢子(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科)
P1B-17	大学ゼミと障害者支援事業団との構内活動の連携 ゼミでの障がい者施設との協働による授産品の大学内販売 活動と障がい者理解啓発の試み	川田 和子(大和大学 教育学部)
P1B-18	インクルーシブ保育実践の可視化に向けて テキストマイニングによる保育者の事例対応における視点 の分析	中内 麻美(相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科)

P1B-19	特別支援教育で培った書写指導の工夫 連携指導実践の汎用性に着目して	河野 文子(筑波大学 附属桐が丘特別支援学校) 諏訪 肇(東京都立青島特別支援学校) 吉田 崇(東京都立志村学園)
P1B-20	高校生の「障害」に対するイメージの実態 総合的な探究の時間における実践から	瀬戸山 悠(くらしき作陽大学子ども教育学部)
P1B-21	特別支援教育に関わる知見検索支援システムの開発に向けた概念体系の構築1 特別支援教育及び日本語指導に関わる教員支援に向けて	小川 修史(兵庫教育大学) 橋本 悠司(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) 辻村 実央(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) 太田 容次(京都ノートルダム女子大学)
P1B-22	特別支援教育に関わる知見検索支援システムの開発に向けた概念体系の構築2 特別支援教育及び日本語指導に関わる教員支援に向けて	太田 容次(京都ノートルダム女子大学) 小川 修史(兵庫教育大学) 橋本 悠司(兵庫教育大学) 辻村 実央(兵庫教育大学)
P1B-23	ギフト傾向のある子どもの特性に関する研究 保護者へのアンケート調査から	伊藤 駿(広島文化学園大学・NPO法人ROJE) 佐藤 駿一(東京大学大学院・NPO法人ROJE) 村上 詩織(広島文化学園大学大学院教育学研究科・NPO法人ROJE) 中西 美裕(大阪大学大学院人間科学研究科・NPO法人ROJE)
P1B-24	発達障害者に対する受容意識・理解度の性および世代間差異	石黒 栄亀(松本大学教育学部)
P1B-25	学術研究において「色覚」の扱われ方はどう変わったか 文献に見る色覚研究についての変遷	加部 清子(筑波大学附属大塚特別支援学校)

## 発達障害2

8月25日(金)17:00~18:00 教育文化ホール1階

P1C-1	保護者が考える自閉症のある子どもの感覚面の特性 自閉症のある子どもの感覚面の特性とセンサールームの 設置希望	高橋 眞琴(鳴門教育大学) 中西 裕子(兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科) 牛込 彰彦(帝京平成大学) 田中 淳一(鳴門教育大学)
P1C-2	障害理解啓発授業の実践における一考察 「みんなちがってみんないい」学級づくりをめざして	齋藤 澄子(和光大学)
P1C-3	全校児童への認知機能強化トレーニング「コグトレ」による アセスメントの検討	北村 和美(滋賀県米原市立米原小学校)
P1C-4	通常学級の国語科と自立活動との関連を図る授業づくり 特別支援学級教師による通常学級教師の気づきに応じた支 援の実践的検討	高地 朋見(富岡市立高瀬小学校) 藤井 和子(上越教育大学)
P1C-5	ライフキャリア教育の検討 自閉スペクトラム症のある児童生徒の発達支援に視点をあ てて	大谷 博俊(鳴門教育大学大学院)
P1C-6	学習の見通しをもつための「算数科学びの系統表」の作成 小学校算数科「A数と計算」領域を例にして	関口 貴之(境町立静小学校) 小里 直通(東京家政大学子ども支援学部)
P1C-7	小学生のローマ字の達成状況及び学習支援効果に関する研究 クラス分析を用いた介入群・未介入群の比較による検討	銘苅 実土(帝京大学教育学部) 小池 敏英(尚絅学院大学)
P1C-8	小学校通常の学級における教師のアセスメントに基づく行 動コンサルテーションの効果	北場早智恵(宝塚市立養護学校) 岡村 章司(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
P1C-9	ASD児を対象とした平仮名指導における遅延見本合わせに よる指導の検討	武藤 豊(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 石井 恭子(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 野呂 文行(筑波大学人間系)

P1C-10	場面緘黙傾向児童の授業参加行動の形成 社会科の授業における選択法・穴埋め法と3語文回答法を通して	藤本進太郎(神戸市立盲学校) 藤田 継道(兵庫教育大学名誉教授) 庭山 和貴(大阪教育大学)
P1C-11	通級指導教室に通う小学4年生の読み障害のある児童に対する文節単位読み指導の効果	野田 航(大阪教育大学)
P1C-12	マルチメディアDAISY教科書の活用阻害要因の分析 マルチメディアDAISY教科書の活用経験のある小中学校教員へのインタビューを通して	楠 敬太(大阪大学)
P1C-13	自己刺激行動を示すASD児に対する遊び・学習場面での適切行動の獲得と増加に向けた取り組み	和田多香子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 丸山 真幸(東京都立光明学園) 稲本 純子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 遠藤 佑一(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 野呂 文行(筑波大学人間系)
P1C-14	聞き取り場面におけるプランニングを促進する指導の検討	本間美桃子(京都市立西院小学校) 石原 章子(筑波大学人間総合科学研究科) 岡崎 慎治(筑波大学人間系)
P1C-15	発達障害のある児童が意欲的に取り組むLD等通級教室の授業づくり	片桐 侑大(信州大学大学院教育学研究科) 下山 真衣(信州大学学術研究院教育学系)
P1C-16	児童の情報活用能力の育成を通じた読みの困難に対する指導	熊谷 裕央(塩竈市立第二小学校) 永井 伸幸(宮城教育大学)
P1C-17	知的障害自閉症児童が意欲的に活動に向かう指導の検討 －困難さの分析から得られた効果的な指導の視点を他の学習活動に生かす取組－	遠藤 佑一(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 飯島 杏那(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 野呂 文行(筑波大学人間系)
P1C-18	海外で特別支援教育を受ける発達障害児の保護者のニーズ 半構造化面接を通じた特別支援教育に対するニーズの把握	鳥田 恭仁(関西福祉科学大学)
P1C-19	通級指導教室における学校インターンシップの試行	中村 理美(西九州大学)
P1C-20	ある市における公立小学校から中学校への進学連携に関する研究	大竹くるみ(東京学芸大学) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1C-21	小学校の通常学級における離席行動への対応 授業映像の視聴を通じた振り返りと授業改善	鏡原 崇史(松山東雲女子大学)
P1C-22	対人関係ゲームが特別支援学級の児童に与える効果の検討 交流学級での般化の様子を考察して	鈴木 若那(加茂市立加茂小学校) 有川 宏幸(新潟大学)
P1C-23	小学生を対象とした発達障害に関する障害理解教育の在り 方の検討 NHK for School『u & i』の視聴による効果	飯原 美帆(新潟市立南万代小学校) 有川 宏幸(新潟大学教育学部)
P1C-24	ASD児・者における言葉の発達支援の内容と日常生活への活用	斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学)
P1C-25	小学校道徳科におけるクラスワイドな支援の実態 －通常の学級の担任教員への質問紙調査より－	青木 利樹(那珂川町立小川小学校/東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1C-26	自閉症・情緒障害特別支援学級におけるADHD児の自己肯定感を高める支援の工夫 自立活動の指導を通して	加藤由佳里(君津市立周西小学校)

P1C-27	A県立高等学校における通級による指導 －拠点校方式による「巡回指導」の導入期における課題と解決の手立て－	大本 直子(鳥取県立米子西高等学校) 原 広治(鳥根大学大学院)
P1C-28	進路成熟態度を標的とした高校のポジティブ行動支援の試行	若林 上総(宮崎大学教育学部)
P1C-29	特別支援学校高等部の生徒の二次障害に対する教員の意識	北岡 大輔(和歌山大学教育学部) 武田 鉄郎(和歌山大学名誉教授)
P1C-30	英語学習の特異的な弱さを早期にスクリーニングする方法 スクリーニングアプリ『E-Screener』の開発	鈴木 恵太(岩手大学)
P1C-31	専門学校における発達障害特性のある学生への支援の実態 学生支援担当者を対象とした質問紙調査	齊藤 彩(お茶の水女子大学基幹研究院)
P1C-32	大学での困難認知に影響する要因と心理的不適応感 －ADHD特性の認知・被サポート認知及び顕在的不安・心理的不適応感との関連の検討－	吉田 ゆり(長崎大学) 田中 真理(九州大学)
P1C-33	大学生の自閉スペクトラム症傾向とオンライン授業に対する意識との関連	市川 哲(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 森本 晃介(大阪府立豊中支援学校) 井澤 信三(兵庫教育大学)
P1C-34	精神疾患を主とする高等部生徒を対象とした発問への応答 理解を促す指導技術に関する研究	土谷 充章(大分県立別府支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P1C-35	高等学校の通級による指導におけるチーム学校としての生徒支援	矢島 総一(東京学芸大学教職大学院特別支援教育高度化プログラム) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1C-36	大学生における障害への態度の変容	横田 晋務(九州大学) 佐々木銀河(筑波大学人間系) 藤原 あや(福岡教育大学 障害学生支援センター) 脇 貴典(筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局) 末吉 彩香(筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局) 竹田 一則(筑波大学人間系)
P1C-37	大学における発達障害学生支援に必要なとされる知識の検討 支援者へのインタビューを通して	藤原 あや(福岡教育大学障害学生支援センター) 田中 真理(九州大学基幹教育院) 横田 晋務(九州大学基幹教育院) 石井 映美(早稲田大学) 大村 美保(筑波大学人間系) 脇 貴典(筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局) 岩田 淳子(成蹊大学) 竹田 一則(筑波大学人間系)

## 知的障害2

8月25日(金) 14:00～15:00 経済:2号館1階

P1D-1	コロナ禍でのオンラインによる特別支援学校教員研修 ICT活用の促進をねらいとしたワークショップ型研修後アンケートの分析から	郡司 竜平(名寄市立大学 保健福祉学部) 奥村 香澄(名寄市立大学 保健福祉学部)
P1D-2	特別支援学級教師の交流及び共同学習に対する意識 コロナ禍による影響と工夫	小島 道生(筑波大学人間系)
P1D-3	知的障害特別支援学校でのメタバースを活用した体育実践 －インクルーシブ教育の視点を踏まえた授業実践－	岩井 祐一(東京学芸大学附属特別支援学校)

P1D-4	知的障害特別支援学校における卒業後の豊かな生活を支える支援に関する研究(1) 姿勢・身体の動きに着目し、作業療法士と連携とした取り組みについて	松下 圭輔(香川大学教育学部附属特別支援学校) 小林 敬芳(香川大学教育学部附属特別支援学校) 西浦 修平(香川大学教育学部附属特別支援学校) 朝倉由里乃(香川大学教育学部附属特別支援学校) 坂井 聡(香川大学教育学部)
P1D-5	特別支援学級を担当する教師の人材育成に関する研究 【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標(試案)の開発を通して	加藤美千子(東京都教育庁) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1D-6	特別支援学校(知的障害)の道徳教育における現状と課題に関する予備的検討	高橋 祐貴(横浜国立大学大学院教育学研究科) 雁丸 新一(横浜国立大学教育学部)
P1D-7	知的障害特別支援学校の道徳教育に関する教員の意識調査	齋藤 大地(宇都宮大学)
P1D-8	コロナ禍における特別支援学校教育実習の現状と課題 -全国国立大学附属特別支援学校に対する質問紙調査より-	岩本 悠希(東京学芸大学附属特別支援学校) 奥住 秀之(東京学芸大学特別支援科学講座) 藤野 博(東京学芸大学教職大学院、東京学芸大学附属特別支援学校校長)
P1D-9	知的障害特別支援学校の就職率の推移からみえる成果と課題 国や県の施策に基づく取組を通して	中川恵乃久(愛知県立三好特別支援学校)
P1D-10	特別支援学校の教頭が行う問題解決志向型相談への対応の 類型化 教頭が受けた「相談内容」と行った「対応」に着目して	三原 彰夫(大分県立新生支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P1D-11	知的障害特別支援学校を対象とした教科学習に関する調査 生活科・理科・社会科に関するアンケート調査を通して	佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 大宮 弘恵(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 小笠原志乃(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 石飛 了一(筑波大学附属大塚特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系)
P1D-12	知的障害特別支援学校における教育課程編成の実態 実態調査結果の概要	米田 宏樹(筑波大学人間系) 小林 秀之(筑波大学人間系) 細川かおり(千葉大学教育学部)

## フューチャーリサーチアワード

8月25日(金)14:00~15:00 経済:2号館1階

P1D-13	小学校高学年における欠席と関連する主観的容態の検討 欠席日数が影響する要因と欠席日数に影響する要因の分析	佐藤亮太郎(筑波大学人間総合科学学術院) 熊谷 恵子(筑波大学人間系)
P1D-14	先行情報が雑音下聴取時のListening Effortに及ぼす影響 聴者を対象とした基礎的検討	佐藤 真希(茨城大学大学院教育学研究科)
P1D-15	小学1年生のADHD児における継次的刺激ペアリング手続きによるひらがな単語読みの流暢性に対する効果	内田 佳那(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科/日本学術振興会) 木下 豪(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 丹治 敬之(岡山大学学術研究院教育学域)
P1D-16	呼名活動における重度・重複障害児の表出に関する事例的 検討 8年間の継続的な観察を通して	大谷 萌(茨城大学大学院教育学研究科) 久保 愛恵(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 田原 敬(茨城大学教育学部) 勝二 博亮(茨城大学教育学部)
P1D-17	Cambodian Teachers' Concerns about Including Students with Disabilities in Mainstream Classrooms	POV Sokunrith(Hiroshima University)

P1D-18	顔の一部を隠した際の表情識別と視線機能の検討	井澤 悟(早稲田大学大学院人間科学研究科) 大森 幹真(早稲田大学人間科学学術院)
P1D-19	障害児を中心とした地域防災の課題 学校・地域支援団体関係者へのインタビュー事例の質的 データ分析から	梶本 夏未(岡山大学大学院 教育学研究科) 丹治 敬之(岡山大学 学術研究院教育学域)
P1D-20	初等教員養成課程の大学生を対象とした美術鑑賞の実践研究 ろう芸術における多様な身体表現を活用して	劉 錡洋(広島大学大学院人間社会科学研究所博士課程後期) 池田 吏志(広島大学大学院人間社会科学研究所)
P1D-21	超重症児における快状態の推定に関する事例的検討 -鼻部皮膚温度を用いて-	石田 基起(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 石倉 健二(兵庫教育大学大学院)
P1D-22	小学校における外国人児童の抱える困難に関する研究 担任教師への質問紙調査を通して	楊 鈺倩(筑波大学人間総合科学研究群) 裴 虹(筑波大学人間系) 三益 亜美(筑波大学人間系) 米田 宏樹(筑波大学人間系)
P1D-23	人工内耳装着者の障害認識とアイデンティティ形成に関する 考察 一思春期以降に人工内耳埋め込み手術を行った事例から一	柘植 香穂(愛媛大学教育学研究科 教育実践高度化専攻) 岩田 吉生(愛知教育大学特別支援教育講座)
P1D-24	間接的要求理解におけるASD傾向と視線機能の関連	林 珠里(早稲田大学 大学院人間科学研究科) 大森 幹真(早稲田大学 人間科学学術院)

## 肢体不自由

8月25日(金) 15:30~16:30 経済:2号館1階

P1E-1	肢体不自由通級指導を受けている児童生徒の移行期支援の 課題 通級担当と通級による指導を受けている児童生徒の在籍す る学校との関係から	新田 賢司(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 真鍋 健(千葉大学教育学部)
P1E-2	肢体不自由特別支援学級に在籍する児童へのインクルーシ ブ体育の実践 一 8の字大縄跳びのルールの変更と視覚支援を用いた段階 的な指導の効果 一	宮崎 光明(富山大学教育学部) 齊藤 嵩之(富山大学教育学部附属小学校)
P1E-3	重度重複障害児の視線入力装置を使った初期学習 重度障害児・者支援システムEyeMoTを使った二者択一の 習得	由谷るみ子(常葉大学)
P1E-4	肢体不自由児の小中学校体育に対するセンター的機能の検討 養護学校義務制前の養護学校学習指導要領の記述を通して	松浦 孝明(国士舘大学文学部)
P1E-5	重度脳性まひ児童の視線選択動作の指導手順の開発	中野 芽生(高知県立高知若草特別支援学校) 寺田 信一(高知大学 教育学部)
P1E-6	中学部理科1段階において疑問をもつ力を育てる単元の構成 「物質とエネルギー」の単元づくりを対象として	小山 信博(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
P1E-7	バリアフリーマップの作成を通じた学生による障害学生支 援の実践	藤村 励子(郡山女子大学)
P1E-8	戦後肢体不自由教育における実践課題の変遷とその背景 日本肢体不自由教育研究会の機関誌『肢体不自由教育』の特 集テーマの分析による考察	柴垣 登(岩手大学教育学部)
P1E-9	ボッチャのリモート投球に関する研究2 知的障害と肢体不自由を併せ有する子どもを対象としたIoT を活用したスポーツ参加	大森 直也(浜松学院大学)

P1E-10	特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントモデル(試案)の検討 —肢体不自由特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの現状を踏まえて—	小倉 靖範(愛知教育大学 特別支援教育講座) 池田 彩乃(山形大学 地域教育文化学部)
P1E-11	肢体不自由のある学生の教育実習について コロナ禍で可能となる教育実習受入れを探る	田実 潔(北星学園大学) 播磨 正一(北星学園大学)
P1E-12	肢体不自由特別支援学校におけるセンター的機能について —通級による指導と高等学校への教育相談に着目して—	阿部 晃久(千葉県立松戸特別支援学校) 三嶋 和也(千葉県立船橋夏見特別支援学校)
P1E-13	肢体不自由特別支援学校の「魅力化」における地域連携コーディネーターの役割(1) 肢体不自由特別支援学校に求められているこれからの学び	玉木実希子(鳥根県立松江清心養護学校) 原 広治(鳥根大学大学院)
P1E-14	肢体不自由特別支援学校の「魅力化」における地域連携コーディネーターの役割(2) 求められる学びを実現するための地域連携コーディネーターの役割と成果	原 広治(鳥根大学大学院教育学研究科) 玉木実希子(鳥根県立松江清心養護学校)
P1E-15	楽器演奏指導における障害特性への配慮 肢体不自由児・者の視覚認知特性および自立活動の指導との関連に着目して	永杉 理恵(東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻)
P1E-16	共生社会の推進につながる交流及び共同学習の検討 —授業を活用した大学生と特別支援学校生徒との行事交流を通して—	藤原 彰子(大阪体育大学教育学部)
P1E-17	女性重度肢体不自由学生の生活支援の援助要請と関連要因	山森 一希(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 川間健之介(筑波大学人間系)
P1E-18	自己免疫疾患に伴う身体機能低下児者への支援内容検討 —病気と身体症状の理解—	兒玉 尚子(筑波大学大学院 宮城教育大学教育学部)
P1E-19	肢体不自由児の社会参加への意識を育む指導 時事を活用した自立活動の指導に関する一考察	加藤 隆芳(香川大学大学院教育学研究科)
P1E-20	肢体不自由者へのキャリア教育・職業教育に関する実態調査	高野 陽介(横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部)
P1E-21	特別支援教育におけるキャリア・パスポートの導入と展開 TT(TeamTeaching)の特性を活かした教師との対話的なかかわりによる授業実践	石川 和博(群馬県立あさひ特別支援学校) 霜田 浩信(群馬大学共同教育学部) 内田 誠(群馬大学共同教育学部) 任 龍在(千葉大学教育学部)
P1E-22	スクールバスと車いす等の安全な車両固定 PT・OT視点からの支援の工夫	本杉 直子(神奈川県立茅ヶ崎支援学校) 石田 秀典(神奈川県立中原支援学校)

## 聴覚障害1

8月25日(金) 17:00~18:00 経済:2号館1階

P1F-1	通常学級に在籍する中学生におけるListening Difficulties	小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 笹目 友香(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 山本 弥生(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 佐々木香緒里(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 岩崎 淳也(国際医療福祉大学成田保健医療学部)
P1F-2	聴覚障害学生のキャリア発達及びその促進と抑制に関する追跡研究V	杉中 拓央(東北文教大学人間科学部)

P1F-3	聴覚障害者と聴者の絵本読みの特徴の違い 眼球運動の測定からの検討	金 恩河 (Changwon National University) 張 好延 (Changwon National University) 梁 洗賑 (Changwon National University)
P1F-4	人工内耳を装着した聴覚障害大学生の発語分析(2) 一有声・無声、母音、直音・拗音、構音点、構音方法別の 明瞭度に関する検討一	加藤誠太郎(東海大学インクルージョン推進室) 湯浅 哲也(大阪教育大学教育学部)
P1F-5	聴覚障害児における副詞の量感評価 量や程度を表す副詞の評価傾向	澤 隆史(東京学芸大学) 大鹿 綾(東京学芸大学) 村尾 愛美(東京学芸大学) 相澤 宏充(福岡教育大学) 林田 真志(広島大学) 新海 晃(広島大学)
P1F-6	聴覚障害児の文章産出における方略使用に関する一考察 文間ポーズのパターンによる個人差の観点から	新海 晃(広島大学) 澤 隆史(東京学芸大学) 林田 真志(広島大学) 相澤 宏充(福岡教育大学)
P1F-7	聴覚障害児における選択的注意の発達的特徴	石田 祐貴(筑波大学人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P1F-8	聴覚障害者の絵物語再生の特徴に関する研究 言語モードと言語力による検討	鄭 仁豪(筑波大学)
P1F-9	聴覚障害幼児を対象とした環境音聴取テストの開発	田原 敬(茨城大学教育学部) 久保 愛恵(筑波大学大学院博士後期課程人間総合科学研究科) 石田 修(茨城大学教育学部) 勝二 博亮(茨城大学教育学部)
P1F-10	難聴通級指導教室在籍児童生徒の障害認識に成人聴覚障害 者との交流が与える影響	小林 優子(上越教育大学 臨床・健康教育学系)
P1F-11	難聴・聞き取り困難者をつなぐ「きこえカフェ」の実践(2) 開催状況と今後の課題	勝谷 紀子(東京大学先端科学技術研究センター) 佐野 智子(城西国際大学福祉総合学部)
P1F-12	聴覚障害幼児における指文字単語表出時の誤りの特徴	井口亜希子(茨城大学教育学部) 田原 敬(茨城大学教育学部) 原島 恒夫(筑波大学人間系)
P1F-13	人工内耳装用児支援のための連携に関する質的研究 ー医療機関と家庭との連携に焦点化してー	紺野 莉沙(東北大学大学院教育学研究科) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科)
P1F-14	Listening Difficultiesを抱える児の学校での聞き取りにくさ	岩崎 淳也(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 笹目 友香(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 山本 弥生(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部)
P1F-15	難聴学齢児の音声における感情判断の処理速度に関する検討 聴児と難聴児の比較	笹目 友香(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 山本 弥生(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 岩崎 淳也(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 佐々木香緒里(国際医療福祉大学成田保健医療学部) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部)

### 知的障害3

8月26日(土)9:30~10:30 教育文化ホール1階

P2A-1	知的障害を伴うASD児の小集団場面における離席行動への機能的アセスメントに基づく介入	滝澤 健(香川県立香川中部支援学校)
P2A-2	相互行為の再演としてのことばの学習	長澤 真史(関東学院大学教育学部こども発達学科)
P2A-3	知的障害がある小学生を対象としたVR動画教材による実践 修学旅行の事前・事後学習での活用	立石 力斗(近畿大学九州短期大学) 小川 拓郎(九州大学人間環境学研究院) 宮本 聡(九州大学人間環境学研究院) 梅崎真理子(九州大学大学院人間環境学府)
P2A-4	知的障害を伴うASD児同士の協同活動の発達支援 —「友だち列車」ルーティンを用いて—	森本 章(徳島県立板野支援学校) 青木 雄一(東京学芸大学附属特別支援学校) 吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域)
P2A-5	多範例訓練による特別支援学級在籍児童の語彙指導 —単語順が異なる文の音読による見本合わせ課題への転移—	河村 優詞(八王子市立宇津木台小学校/環太平洋大学)
P2A-6	教科交流(体育)における知的障害児と典型発達児の相互交渉	細谷 一博(北海道教育大学函館校) 野口 和人(東北大学大学院教育学研究科)
P2A-7	他者との「共有」に焦点を当てたコミュニケーション指導	角原 佳介(岡山県立東備支援学校)
P2A-8	交流及び共同学習において双方向のかかわりが児童に及ぼす影響に関する研究	平塚 達也(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 鈴木 徹(秋田大学教育文化学部)
P2A-9	知的障害児における絵本の内容理解を促す指導について 国語科「読むこと」の“挿絵と結び付けて”内容を捉えることをねらいとした取組みによる検討	宮本 和輝(金沢大学附属特別支援学校) 加賀 詩織(金沢大学附属特別支援学校)
P2A-10	傾きの認知に困難さを示す知的障害児の指導に用いる課題の試作	大久保咲来(愛知教育大学教職大学院教育学研究科) 相羽 大輔(愛知教育大学特別支援教育講座)
P2A-11	ASD児に対する社会情動的アセスメント 行動観察前のサンプル動画の視聴の有無が評価時の教師2者間の会話に及ぼす影響	青木 雄一(東京学芸大学附属特別支援学校) 吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域教育学系)
P2A-12	遠隔操作ロボットDouble3を用いた歴史博物館の鑑賞活動 他機関との連携による小学校特別支援学級における実践	横山 由季(広島大学附属東雲小学校) 池田 吏志(広島大学)
P2A-13	ラーニングボックス学習法における学習者の関係構造の解明	足立 圭子(よこはま児童文化研究所) 原 ふみ(よこはま児童文化研究所)
P2A-14	知的障害を伴う自閉症児の動きを介したやりとりとその分析 自立活動の個別指導から	丸山 真幸(東京都立光明学園)
P2A-15	知的障害を伴う広汎性発達障害のある児童に対する話を振る行動の形成に向けた指導の効果	吉田奈々子(山口県立下関総合支援学校) 宮木 秀雄(山口大学教育学部)
P2A-16	特別支援学級(知的障害)在籍児童の英語教育I 交流学級での学びについての調査から中学年と高学年の違いに注目して	平野 見子(神戸大学附属特別支援学校) 高野美由紀(兵庫教育大学) 有働真理子(兵庫教育大学)
P2A-17	特別支援学級(知的障害)在籍児童の英語教育II 特別支援学級担任への調査から中学年と高学年の違いに注目して	高野美由紀(兵庫教育大学) 平野 見子(神戸大学附属特別支援学校) 有働真理子(兵庫教育大学)
P2A-18	特別支援学校小学部児童に対する書字の代替としてのフリック入力の指導	富山 芽衣(山口県立防府総合支援学校) 吉田奈々子(山口県立下関総合支援学校) 宮木 秀雄(山口大学教育学部)

P2A-19	知的障害特別支援学校の教員が行う授業におけるユーモア活用の認識と自閉スペクトラム症児への指導実践	西 知美(茨城県立美浦特別支援学校) 佐々木銀河(筑波大学人間系)
P2A-20	特別支援学級在籍児童に対する漢字の読みの指導 - 刺激ペアリング手続きを活用して -	松岡 仁哉(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) 細谷 里香(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
P2A-21	知的障害教育と日本語教育における言語能力育成を志向したデジタル教材開発とWeb公開	後藤 匡敬(熊本大学教育学部附属特別支援学校)
P2A-22	知的障害特別支援学級における「生活単元学習」と「算数」との学びをつなげる授業実践	高阪 英徳(広島大学附属東雲小学校) 村上 理絵(広島大学大学院人間社会科学部研究科)
P2A-23	知的障害教育における学級集団に対する教科指導(1) 実態差のある集団における「算数」の授業実践	高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田中 翔大(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P2A-24	知的障害児のルーティンの遂行の特徴 - 通常および後戻りを必要とするルーティンに注目して -	三橋 翔太(茨城キリスト教大学 文学部児童教育学科)
P2A-25	知的障害特別支援学校の心理教育的なニーズとスクールカウンセラーに期待する業務	下山 真衣(信州大学学術研究院教育学系) 堂山 亜希(目白大学人間学部) 酒井 貴庸(甲南女子大学人間科学部)
P2A-26	知的障害児と定型発達児の文表出を促す条件について 能動文と受動文を用いた検討	竹尾 勇太(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
P2A-27	シェアリングタイムによるASD児の仲間との対話の促進 - 支援場面外の変化に着目して -	吉井 勘人(山梨大学) 長澤 真史(関東学院大学) 青木 雄一(東京学芸大学附属特別支援学校)
P2A-28	取下げ	
P2A-29	ダウン症児の行動特性と社会生活能力に関する研究	鶴田 絢子(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 小島 道生(筑波大学人間系)
P2A-30	知的障害児における定位操作の特徴 ~ 2種類の積木課題から ~	佐々木祥日(東京学芸大学教職大学院特別支援教育高度化プログラム) 平田 正吾(東京学芸大学)
P2A-31	知的障害のある子どもの余暇活動と保護者のメンタルヘルスに関する調査研究	松下 浩之(山梨大学教育学部)
P2A-32	双極性障害を伴う知的障害者の実習課題と支援方針に関する検討 ICFの視点を活用した職場体験実習を事例に	松田光一郎(花園大学社会福祉学部)
P2A-33	ASD知的障害児への感覚統合を活かした効果的な遊びの広げ方の検証 I -安全基地からの挑戦-	木村 薫志(ラポール発達教室コーラル) 野々部夫磯子(NPO法人発達サポートNAGOYA)
P2A-34	特別支援学校(知的障害)における単元づくりから学習評価までのプロセスにおける課題の分析 促進要因と阻害要因等の把握をとおして	菊地 一文(弘前大学大学院教育学研究科)

P2B-1	遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装① Apple Schoolworkシステムを用いた支援システムの開発	大橋 智(東京未来大学) 榎本 拓哉(徳島大学) 遠藤 愛(文教大学) 小川 洗菜(巡回相談員・公認心理師) 原口 政明(羽生純真短期大学) 矢野 善教(作新学院大学女子短期大学部)
P2B-2	遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装② 通級指導教室における活用可能性の検討	遠藤 愛(文教大学) 榎本 拓哉(徳島大学) 大橋 智(東京未来大学) 小川 洗菜(巡回相談員・公認心理師) 原口 政明(埼玉純真短期大学) 矢野 善教(作新学院大学女子短期大学部)
P2B-3	遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装③ - 高等学校における活用可能性の検討 -	矢野 善教(作新学院大学女子短期大学部幼児教育科) 大橋 智(東京未来大学) 遠藤 愛(文教大学) 榎本 拓哉(徳島大学) 小川 洗菜(巡回相談員・公認心理師) 原口 政明(埼玉純真短期大学)
P2B-4	小・中学校に在籍する健康管理に特別な配慮を必要とする 児童生徒に関する大学生の問題認識	坂口 嘉菜(上越教育大学)
P2B-5	児童発達支援センターの役割と今後の在り方 アンケート調査における自由記述内容の質的分析から	梶枝喜代治(東洋大学)
P2B-6	「もうすぐ大人期」のきょうだいがとらえた家族QOLに関する 研究 - 思春期後期～青年期前期にあるきょうだいへのアンケート 調査から -	阿部美穂子(山梨県立大学) 諏方 智広(横浜市立港南台ひの特別支援学校) 滝島 真優(成蹊大学文学部)
P2B-7	就労継続支援B型事業所における農作業向上について(Ⅳ) - 農福連携推進のための行政との連携、栽培品種選定、猪 対策における地域との連携について -	畠山富士雄(NPO法人らいふステージ金立ファーム) 船津 静哉(NPO法人らいふステージ) 久野 建夫(周継会教育学・発達医学研究所)
P2B-8	大学における障害学生のキャリア支援に関する調査研究 規模及び地域別にみた実施状況のちがいとキャリア支援の 展望	面高 有作(九州大学)
P2B-9	特別支援学校高等部における個別の移行支援計画(ITP)作成 の現状と課題 -2008時点の本人・保護者の参画の調査結果との比較-	山口明乙香(高松大学発達科学部)
P2B-10	障がいのある親のケアを担うヤングケアラーの自己開示に おける配慮について 研究動向と事例からの考察	江頭 進(栃木県立今市特別支援学校)
P2B-11	なぜ、特別支援教育は「中止」の勧告を受けたのか？ ～勧告(a)の検討から～	中山 忠政(弘前大学 教育学部)
P2B-12	「個別の教育支援計画」の作成・活用と連携についての研究 -特別支援学校における連携事例を通して-	半澤 彰子(宮城県立山元支援学校) 菅井 裕行(宮城教育大学教職大学院)
P2B-13	特別支援学校におけるGIGAスクール構想の成果と課題の 検討 秋田県内の特別支援学校の研究主任に対するアンケート調 査の分析を通して	池田 和馬(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科)

P2B-14	インクルーシブ教育の推進に必要な教員養成に関する研究Ⅲ 「特別の支援を必要とする幼児, 児童及び生徒に対する理解」 の事項を含む科目に関する検討	磯貝 順子(大妻女子大学)
P2B-15	フィンランドの通常学校における多様な学びの保障 PBLとインクルーシブ教育の視点から	是永かな子(高知大学)
P2B-16	子どもの育ちを切れ目なく支えるICFを活用した共通情報 シート開発に向けた基礎的研究	徳永亜希雄(横浜国立大学) 田中 浩二(至誠館大学)
P2B-17	障害のある外国人児童生徒への特別支援学校における教育 支援に関する調査研究Ⅰ	坂本 裕(岐阜大学教育学部)
P2B-18	特別支援学校における不登校児童生徒の実態把握に関する 研究 ～各々に応じた不登校支援の充実を目指して～	山崎 真理(神奈川県立瀬谷支援学校) 渡部 匡隆(横浜国立大学大学院教育学研究科)
P2B-19	コロナ禍のスウェーデンにおける子どものメンタルヘルス 問題の動向と発達支援の課題 一児童思春期精神障害中間ケア施設「BUP Mellanvård NV」 の訪問調査を通して一	石川 衣紀(長崎大学教育学部) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石井 智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) 能田 昂(尚綱学院大学総合人間科学系) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部) 高橋 智(日本大学文理学部教育学科)
P2B-20	多様な障害種に対応した3Dプリンター教材データベースの 構築と活用方法の研究	青木 高光(長野県長野養護学校)
P2B-21	インクルーシブ教育システム構築の現状と動向に関する研究 都道府県の「特別支援教育推進計画」を中心に	楊 子驍(孔子園株式会社) 内海友加利(東京学芸大学)
P2B-22	障害と人権に関わる社会問題に着目した障害理解教育で扱 いたい内容の検討	日高 優(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 本吉 大介(熊本大学大学院教育学研究科)
P2B-23	我が国におけるカンボジアの特別支援教育に関する文献研究	鈴木 祥隆(岐阜大学教育学部) 間々田和彦(王立ブノンペン大学社会科学部)
P2B-24	スウェーデンの就学前学校における特別ニーズ教育の動向 と実際 一特別ニーズ教育を実施する就学前学校3校の訪問調査か ら一	内藤 千尋(山梨大学) 田部 絢子(金沢大学) 石井 智也(兵庫教育大学) 能田 昂(尚綱学院大学) 石川 衣紀(長崎大学) 池田 敦子(東海学院大学) 高橋 智(日本大学)
P2B-25	特別支援学校「自立活動」を幼児教育に活かす一考察 特別支援学校学習指導要領自立活動と保育所保育指針との 関連の検討から	鈴木美枝子(名古屋女子大学短期大学部保育学科) 東原 文子(聖徳大学教育学部児童学科)
P2B-26	特別支援学校における授業改善システム「授業者支援会議」 への関心理由と有用性	田村康二郎(東京都立墨東特別支援学校) 遠 直美(東京都立光明学園)
P2B-27	障害児・者のきょうだいに関する研究 一日本語版SRQを用いて一	黒岩 あこ(新潟大学) 有川 宏幸(新潟大学)
P2B-28	特別支援教室構想のその後に関する一考察 インクルーシブ教育を実現するプロセスとしての展望	高橋 幸子(國學院大學)
P2B-29	特別支援教育の国際連携に関する研究 その8 バンコク中央特別支援教育センターにおけるセン ターの機能の検討	池谷 尚剛(岐阜大学教育学部) 池谷 幸子(岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校)

P2B-30	障害のある子どもの自己決定の指導の課題 —中国本土と台湾の特別支援学校の教員に焦点を当てて—	陳 玉欣(広島大学)
P2B-31	インクルーシブ教育学のための教育対話研究2 —交流及び共同学習での対話的な実践から「Inclusive Pedagogy」を捉え直す—	荒巻 恵子(帝京大学) TRIGO-CLAPÉS Ana Laura(メキシコ国立自治大学) 司城紀代美(宇都宮大学) 楠見 友輔(信州大学) 池田 彩乃(山形大学) 香川奈緒美(鳥根大学)
P2B-32	特別支援学校における初任者研修について 拠点校方式による校内研修	檜皮 修(滋賀県立草津養護学校)
P2B-33	小・中学校への学校コンサルテーションの研究動向 効果的なコンサルテーションに求められる専門性の検討に向けて	長澤 洋信(四天王寺大学) 麻生川理詠(元大阪府立和泉支援学校)

## 病弱虚弱、行動・情緒障害

8月26日(土)16:20~17:20 教育文化ホール1階

P2C-1	1型糖尿病のある子どもの病気体験 学校生活における病気開示に焦点を当てて	藤中 真帆(安田女子大学大学院) 永田 彰子(安田女子大学教育学部)
P2C-2	小学校の通常の学級における病弱教育の推進に向けた教職員の資質能力向上の実際	田中 亮(長野県塩尻市立桔梗小学校) 奥住 秀之(東京学芸大学教育学部特別支援科学講座)
P2C-3	教員が精神疾患を抱える生徒の理解を深める過程 支援方法に関する検討	古長 治基(大分大学)
P2C-4	入院治療を経験した子どもの病気説明および友人からの質問への対処 —学校に復帰する際の適応を目指して—	大野智佳子(静岡市立西豊田小学校) 石川 慶和(静岡大学教育学部) 大多 和碧(ミナシアフレンズ)
P2C-5	筋ジストロフィー児の就学状況の現状について 筋ジストロフィー児の総人数の変化による影響を踏まえて	新津 雪乃(東北大学大学院教育学研究科) 野口 和人(東北大学大学院教育学研究科)
P2C-6	病弱教育に携わる教員の教育的対応の様相に関する研究 —主として指導している子どもの病類との関連—	五島 脩(横浜国立大学) 泉 真由子(横浜国立大学) 高野 陽介(横浜国立大学)
P2C-7	病弱特別支援学校における遠隔操作ロボット活用の現状 GIGAスクール時代における遠隔操作ロボットの有用性	越智ちひろ(東京都立光明学園) 奥住 秀之(東京学芸大学) 田村康二郎(東京都立墨東特別支援学校)
P2C-8	病気療養児の学習と教育的支援の実態 子どもの主体的な困難の克服を促す支援の検討	大多和 碧(ミナシアフレンズ) 大野智佳子(静岡市立西豊田小学校) 石川 慶和(静岡大学教育学部)
P2C-9	病気療養児の自己調整学習を促す学習支援の在り方	長田百萌子(静岡県立藤枝特別支援学校) 石川 慶和(静岡大学教育学部)
P2C-10	筋ジストロフィー症児のためのVRボッチャの事例的検討	木尾京一郎(岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校) 村瀬 忍(岐阜大学教育学部) 坂本 裕(岐阜大学教育学部)
P2C-11	疾患及び障害種と各学部による病弱児の社会的自立のために行っている指導内容の違い	李 受眞(浜松学院大学) 橋本 創一(東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター) 川池 順也(山梨大学)
P2C-12	授業中に行動問題を示す小学校通常学級2年生に対する相互依存型集団随伴性を用いた支援	松永 悟(神奈川県立相模原支援学校) 関戸 英紀(東海大学児童教育学部)

P2C-13	場面緘黙児に対する交換ノートを用いた支援	小島 拓也(船橋市立市場小学校)
P2C-14	小学校における自閉傾向のある児童の特性に配慮した「不安対処プログラム」の効果検討 - 対処行動と行動問題の変容に着目して -	小谷 理恵(尼崎市立難波小学校) 岡村 章司(兵庫教育大学院学校教育研究科)
P2C-15	特別支援学校において指示待ちを示す自閉症生徒に対する自発的な着替え行動の促進 いわゆるプロンプト依存の変容	末永 統(都立羽村特別支援学校) 原田 晋吾(東京家政学院大学) 富田 享子(愛媛大学)
P2C-16	自閉スペクトラム症児に対するエビデンスに基づいた実践を学ぶことのできるネット上の公的資料について AFIRM(Autism Focused Intervention Resources and Modules)を参考に	大石 博司(畿央大学大学院(院生))
P2C-17	スマートウォッチとクラウドによる行動記録共有システムの構築と試用	原 伸生(長野県上田養護学校) 青木 高光(長野県長野養護学校)
P2C-18	特別支援学校におけるキャリア教育体制の充実 - 研修や対話を通じたキャリア発達支援の促進 -	長井 奈月(岐阜県立郡上特別支援学校) 平澤 紀子(岐阜大学大学院教育学研究科) 出口 和宏(岐阜大学大学院教育学研究科)
P2C-19	特別支援学校における経験の浅い教員が自己の目標達成に向かうことを支えるメンタリング体制の構築	松本 光央(岐阜県立羽島特別支援学校) 平澤 紀子(岐阜大学大学院教育学研究科) 出口 和宏(岐阜大学大学院教育学研究科)
P2C-20	強度行動障害のある特別支援学校卒業生の現状と課題 - 所属事業所に対する聞き取り調査を踏まえて -	矢野川祥典(福山平成大学) 大久保裕也(高知大学教育学部附属特別支援学校)
P2C-21	公立小学校通常の学級における行動問題改善のための行動コンサルテーション実践 - 授業妨害行動と離席行動の低減をめざして -	松岡 勝彦(山口大学)
P2C-22	家庭場面における自閉スペクトラム症児の行動問題変容と母親の心理的变化の検討 自己記録とトークン・エコノミー法を用いた介入を通して	棚田 千尋(兵庫教育大学大学院) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院)
P2C-23	日本における場面緘黙の研究動向に関する研究事例論文アブストラクトの計量テキスト分析	飯村 大智(筑波大学人間系) 辻田 那月(大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構) 萩原 広道(大阪大学大学院人間科学研究科)
P2C-24	我が国におけるRRBIsに関する行動的介入のレビュー	高橋 甲介(長崎大学教育学部)
P2C-25	場面緘黙質問票(SMQ)を使用した介入研究のメタ分析	辻田 那月(大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構) 飯村 大智(筑波大学人間系) 青木 瑞樹(筑波大学大学院 人間総合科学学術院、日本学術振興会) 萩原 広道(大阪大学大学院人間科学研究科)
P2C-26	場面緘黙当事者・経験者と対照群における精神・行動の問題と社交不安、発話の関連および比較	田中佑里恵(京都大学大学院人間・環境学研究科)
P2C-27	インターネットゲーム障害と診断された児童の攻撃行動に対する心理社会的介入 家庭訪問による行動療法の試み	藤田 知也(上越市役所)
P2C-28	強度行動障害の予防 福祉型障害児入所施設における集中療育の現状と課題	高橋 潔(公益財団法人鉄道弘済会(弘済学園))
P2C-29	自閉症青年の母親との主に郵送での協議ツールを活用した協働的アプローチの効果	岡本 邦広(新見公立大学)

- P2C-30 離島における遠隔版保護者支援インストラクター養成研修の効果  
プログラム全体への評価アンケートの分析から  
今村 幸子(鹿児島女子短期大学)  
肥後 祥治(鹿児島大学教育学部)

## 視覚障害

8月26日(土)9:30~10:30 経済:2号館1階

- P2D-1 視覚障害児の立体図形認識に関する研究  
宮崎 善郎(岡山大学)  
正井 隆晶(大阪教育大学)
- P2D-2 小学生を対象とした手引き歩行の習得を通じた視覚障害理解授業の実践  
越智 美雨(札幌市立東光小学校)  
細谷 一博(北海道教育大学函館校)
- P2D-3 触覚に依拠した数のブロックの作成と評価触覚に依拠した数のブロックの作成と評価  
—10までの数量感覚を促すために—  
小森 朱里(筑波大学人間総合科学学術院)  
佐島 毅(筑波大学人間系)  
宮田 桃佳(筑波大学人間総合科学学術院)  
森本 朝子(筑波大学人間総合科学学術院)  
中西 雄飛(筑波大学人間総合科学学術院)
- P2D-4 日本の教育的文脈からみた拡大コアカリキュラム(ECC)の特徴と習得上の課題  
宮内 久絵(筑波大学)
- P2D-5 視覚障害生徒の日常生活動作の再指導方法についての提案(2)  
紙を折る—発達順序性の項目ネットワーク図・下位項目表の活用—  
左振 恵子(帝京平成大学)
- P2D-6 盲生徒に対する投影図法の指導法に関する研究  
園芸用スポンジを用いた教材の作成と評価  
岩田 恵実(東京都立久我山青光学園)  
青柳まゆみ(愛知教育大学特別支援教育講座)
- P2D-7 坐骨神経鍼通電の正確な刺鍼部位決定のための指導法の有効性の検証  
—特別支援学校理療科生徒を対象として—  
工藤 滋(筑波大学人間系(理療科教員養成施設))  
和田 恒彦(筑波大学人間系(理療科教員養成施設))
- P2D-8 視覚特別支援学校における多職種連携に関する一考察  
スクールカウンセラーへの面接調査から  
長崎 龍樹(日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科)
- P2D-9 台湾高等教育における視覚障害学生のキャリア支援  
卒業直前の視覚障害学生の経験と期待から  
呉 純慧(台湾国立台北教育大学)  
森 まゆ(広島大学大学院人間社会科学研究科)
- P2D-10 読み視覚補助具としてのタブレットの利用価値  
今津 麻衣(広島大学大学院人間社会科学研究科)  
氏間 和仁(広島大学大学院人間社会科学研究科)
- P2D-11 視覚特別支援学校幼児児童生徒の視覚障害原因等の推移  
—2000年度と2020年度調査結果との比較—  
柿澤 敏文(筑波大学人間系)  
加藤 幹人(筑波大学大学院人間総合科学学術院)
- P2D-12 読書バリアフリー法成立後の弱視児用デジタル教材の利用実態  
中野 泰志(慶應義塾大学)
- P2D-13 デジタルリーディングの最適表示形式の検討  
弱視のある人々にとって読みやすい表示環境の検討  
氏間 和仁(広島大学)
- P2D-14 視覚障害を併せ有する知的障害児の見え方のアセスメント  
とその支援に関する研究  
富賀見日奈子(東京学芸大学教職大学院)  
奥住 秀之(東京学芸大学)
- P2D-15 盲学校高等部生徒によるあん摩実技時の教員による言語的  
教示  
関節可動域と施術の安定性に与える影響  
末永多香光(大分県立盲学校)  
衛藤 裕司(大分大学教育学部)

P2D-16	歩行路の障害物が疑似弱視状態の人の視線行動に与える影響 視野障害のシミュレーションによる検討	田中 門脇 氏間 中村	円華(広島大学 人間社会科学研究所) 弘樹(山口学芸大学) 和仁(広島大学) 貴志(福岡教育大学)
P2D-17	晴眼者において文章/単語テストで臨界文字サイズと最大読 書速度の測定法の比較	張 氏間	凱琪(広島大学大学院人間社会科学研究所) 和仁(広島大学大学院人間社会科学研究所)
P2D-18	視覚支援学校における鑑賞学習の実施状況についての一考察 ～先行研究調査との比較から～	正井 松山 山本	隆晶(大阪教育大学) 沙樹(京都国立近代美術館) 利和(大阪教育大学)
P2D-19	視覚特別支援学校における遮光眼鏡の使用状況について -2020年全国視覚障害幼児児童生徒の視覚障害原因等実態 調査から-	加藤 柿澤	幹人(筑波大学大学院障害科学学位プログラム) 敏文(筑波大学人間系)
P2D-20	乳幼児期における盲児の知的発達に関する文献的考察 一触知覚の影響に焦点を当てて一	宮田 森本 小森 中西 佐島	桃佳(筑波大学人間総合科学学術院) 朝子(筑波大学人間総合科学学術院) 朱里(筑波大学人間総合科学学術院) 雄飛(筑波大学人間総合科学学術院) 毅(筑波大学人間系)
P2D-21	弱視学生が求めるICT環境整備に対する大学教員の顕在的 態度・潜在的態度と個人要因の関連	相羽 丹野 鈴木	大輔(愛知教育大学 特別支援教育講座) 傑史(長野大学 社会福祉学部) 祥隆(岐阜大学 特別支援教育講座)
P2D-22	視覚障害教育におけるキャリア発達支援のための長期的な 視点での支援の在り方	刀禰	豊(岡山東支援学校)
P2D-23	踏切内及び横断歩道部に設置されているエスコートゾーン 設置状況と問題点	徳田 水野	克己(アール医療専門職大学) 智美(筑波大学医学医療系)
P2D-24	イタリアの美術館における視覚障害がある訪問者へのアク セシビリティ対応 -ミラノを中心に-	大内 茂木 手塚 池田	進(星美学園短期大学日伊総合研究所) 一司(跡見学園女子大学) 千尋(明治学院大学) 吏志(広島大学)

## 知的障害4、言語障害

8月26日(土) 14:30～15:30 経済:2号館1階

P2E-1	小学校の知的障害特別支援学級における一人一台の学習用 端末を活用した授業実践	丹沢 奥住	茂樹(東京学芸大学大学院教育学研究科) 秀之(東京学芸大学大学院教育学研究科)
P2E-2	特別支援学校小学部における図画工作科を中心とした学び の研究 触覚に焦点を当てた造形遊びの実践研究	北野	ちゆき(横浜国立大学教育学部附属特別支援学校)
P2E-3	知的障害特別支援学校における卒業後の豊かな生活を支え る支援に関する研究(2) 感覚処理特性の観点からの姿勢・バランスの改善について	西浦 坂井	修平(香川大学教育学部附属特別支援学校) 聡(香川大学教育学部)
P2E-4	重度知的障害児童の好みにもとづく選択行動の生起条件	由井 村中	晶(栃木県立のざわ特別支援学校) 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系)
P2E-5	特別支援学校(知的障害)に在籍する児童の靴を履く動作の改 善に資する指導に関する研究	後藤 徳永	理央(神奈川県立あおば支援学校) 亜希雄(横浜国立大学)
P2E-6	知的障害児と典型発達児を対象とした協同学習を用いた学 校間交流の実践的検討	三瓶 細谷	夏希(北海道教育大学) 一博(北海道教育大学函館校)

P2E-7	知的障害児の書字(名前記入)に関する課題遂行の特徴 —各精神年齢(MA)における取組状況に基づく検討—	山口 遼(国立特別支援教育総合研究所) 橋本 創一(東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター)
P2E-8	ASD児が共同注視の成立や状況理解の力を伸ばし「わかる」 経験を積み上げた事例 マカトン法のコミュニケーションを活用して	若林くもみ(旭出学園教育研究所)
P2E-9	知的障害児の読み書き指導「たんぼぼの紙芝居作り」 シユタイナー教育の国語科・生活科・水彩の学習方法を取り 入れた実践	佐々木浩江(東京学芸大学附属特別支援学校) 田中 敦士(札幌学院大学)
P2E-10	T e a m sを活用した特別支援学校のカリキュラム・マネ ジメント(2) ファイル共有・共同編集機能を活用した指導要領取扱状況 管理・単元計画管理の2年目の取り組み	田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田中 翔大(筑波大学附属大塚特別支援学校) 加部 清子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 宇佐美太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 森澤 亮介(筑波大学附属大塚特別支援学校) 兼子 南(筑波大学附属大塚特別支援学校) 宮林 一葉(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P2E-11	T e a m sを活用した特別支援学校のカリキュラム・マネ ジメント(3) —再現性のある普遍的な学習の蓄積を目指した知的障害教 育カリキュラム運用システムの模索—	佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 大宮 弘恵(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 小笠原志乃(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 石飛 了一(筑波大学附属大塚特別支援学校) 川間健之介(筑波大学 大学院人間総合科学研究科)
P2E-12	知的障害児童の計数における対象物の配置が正答率と計数 方略に及ぼす影響	木村 昭善(見附市立見附特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学臨床・健康教育学系)
P2E-13	知的障害児のパネルシアターにおける子ども参加型の効果	廣瀬由季奈(山梨県立かえで支援学校) 村中 智彦(上越教育大学 臨床・健康教育学系)
P2E-14	文章作成学習における画像生成AIの活用 Canvaの「Text To Image」を活用した、自分から積極的に 2語文、3語文を作りたくなる文法指導	関口あさか(埼玉県立本庄特別支援学校) 水内 豊和(島根県立大学)
P2E-15	小学校特別支援学級における自立活動の指導に対する実態 把握の困難さ、工夫の内容分析	鉄井 史人(名古屋市立西特別支援学校) 相羽 大輔(愛知教育大学特別支援教育講座)
P2E-16	自傷行為を示す自閉スペクトラム症児への発達支援 触—圧アプローチの実践を通して	富澤佳代子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P2E-17	数量概念形成に向けた個別学習に関する臨床的研究 —計数行為の分析から—	横田千賀子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P2E-18	知的障害児を対象としたすごろくを用いた数量概念の支援② すごろくをシンプルにして	井上 和紀(新潟県新潟市立漆山小学校)
P2E-19	子どもの「よさ」を見取る視点を明らかにした自立活動の指導 知的障害のある児童生徒の「自分らしさ」を育む自立活動の 指導を行うために	徳田 朋子(岡山県立岡山南支援学校) 天谷由香里(静岡県立吉田特別支援学校) 金原 正和(静岡県立西部特別支援学校) 小森谷さおり(宮城県多賀城市立多賀城小学校) 千葉 聡子(東京都八王子市立中野北小学校) 三浦 拓也(弘前大学教育学部附属特別支援学校) 大崎 博史(国立特別支援教育総合研究所)

P2E-20	知的障害特別支援学校におけるチームティーチングの一考察 小学部児童の主體的な活動を支える教師間インターラク ション	城間 園子(琉球大学教職大学院) 松崎 保弘(福岡女学院) 山之内 幹(南九州大学)
P2E-21	コロナ禍における特別支援学校のチームティーチング 知的障害特別支援学校小学部における「朝の会」の事例から	松崎 保弘(福岡女学院大学) 城間 園子(琉球大学) 山之内 幹(南九州大学)
P2E-22	複合語の産出が吃音頻度に与える影響 語頭音節の核母音からの移行に視点を当てた検討	松本 幸代(東京学芸大学)
P2E-23	吃音のあるこどものきょうだい グループインタビューにおけるきょうだいの心情、きょう だい支援の意義	堅田 利明(関西外国語大学)
P2E-24	知的障害児に見られる格助詞の誤用の要因に関する研究 －定型発達児を対象とした予備的検討－	村尾 愛美(東京学芸大学)

## 聴覚障害2

8月26日(土)16:20～17:20 経済:2号館1階

P2F-1	日本手話・日本語バイリンガル児童生徒の言語運用力とは 何か －ろう者教員に対する半構造化インタビュー調査をととし て(第2報)－	阿部 敬信(九州産業大学)
P2F-2	ろう学校高等部生徒の手話力の実態調査 －高等部における手話学習カリキュラム作成の基礎資料－	武居 渡(金沢大学 学校教育系)
P2F-3	聴覚特別支援学校の数学教師における数学的な態度に関す る考察 聴覚特別支援学校の数学教師へのインタビュー調査をもとに	加藤 慎一(秋田大学) 森本 明(福島大学) 東城 恵(白河第二小学校) 小原 舞音(福島大学教職大学院院生) 曾根 一輝(宇和特別支援学校) 米山 文雄(筑波技術大学)
P2F-4	聴覚障害者の英語に関するインタビュー調査(2) 中学校・高等学校における英語教科に着目して	小林 汰門(東京学芸大学 教職大学院) 濱田 豊彦(東京学芸大学)
P2F-5	音声認識を用いた情報保障のノウハウ蓄積に向けた実践的 研究	白澤 麻弓(筑波技術大学) 萩原 彩子(筑波技術大学) 磯田 恭子(筑波技術大学) 中島亜紀子(筑波技術大学) 吉田 未来(筑波技術大学) 岡田 雄佑(筑波技術大学)
P2F-6	聴覚障害学生 の 意思 表明 と 情報 保障 利用 経験 の 関わり に 関 する 検討 大学 入学 前 の 支援 利用 に ついて の 語り を 通 して	中島亜紀子(筑波技術大学)
P2F-7	聴覚障害者が建設的対話を志向・実践していくプロセスの 分析	土田 悠祐(筑波技術大学大学院 技術科学研究科) 白澤 麻弓(筑波技術大学)

P2F-8	遠隔情報保障システム「T-TAC Caption」の活用場面に関する報告	岡田 雄佑(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 磯田 恭子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 三好 茂樹(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 河野 純大(筑波技術大学産業技術学部) 白澤 麻弓(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 吉田 未来(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 中島亜紀子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 萩原 彩子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)
P2F-9	ノートテイカー学生の共同養成に必要な観点に関する検討 -複数大学のノートテイカー学生による共同実践を通じて-	下中村 武(九州大学) 岸川加奈子(九州大学) 横田 晋務(九州大学) 田中 真理(九州大学)
P2F-10	聾学校における職場環境の類型と聴覚障害教員の抱える困難との関連について	石川 美希(東北大学大学院教育学研究科) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科)
P2F-11	聴覚障害児における文理解力と音読時のポーズ挿入に関する一検討	喜屋武 睦(福岡教育大学教育学部特別支援教育研究ユニット)
P2F-12	盲ろう児担当教員の困難克服のプロセス コミュニケーションに関する自立活動の指導にあたる教員 1名へのインタビュー調査から	河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 林田 真志(広島大学)
P2F-13	聴覚障害理解に対する教職員の認識	中西 裕子(兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科) 田中 淳一(鳴門教育大学) 高橋 眞琴(鳴門教育大学)
P2F-14	難聴乳幼児のサポートファイル作成の取り組み 実際の作成を通して	大島 美絵(栃木県立足利特別支援学校) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部)
P2F-15	中国における人工内耳装用児の言語に関する研究のレビュー 中国の論文データベース「知網」にみられる現状と課題	何 美隣(筑波大学人間総合科学学術院障害科学学位プログラム) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P2F-16	聴覚障害者の単音節発話明瞭度に関する研究 聴覚障害児・者との接触経験の有無が明瞭度に及ぼす影響 の検討	湯浅 哲也(大阪教育大学教育学部)
P2F-17	中国における聴覚障害児に対する発語指導に関する文献的 研究 声調の指導に関する検討	劉 李双(大阪教育大学) 湯浅 哲也(大阪教育大学教育学部)
P2F-18	中国聴覚障害幼児の音韻意識の発達的特徴に関する研究	郭 思奕(筑波大学人間総合科学学術院障害科学学位プログラム) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P2F-19	聴覚障害学生が数学文章題の読解に用いる読解方略について	大谷 泰樹(茨城県立水戸聾学校) 坂口 嘉菜(上越教育大学)
P2F-20	重度聴覚障害幼児における絵本理解の発達的特徴に関する 研究 ひらがな習得の程度の違いによる検討	三枝 里江(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P2F-21	昭和戦前・戦中期聾教育における生活と言語の相関論(2) 愛知県聾学校の「生活の言語化」論	佐々木順二(文教大学教育学部)
P2F-22	聴覚障害児童生徒における抽象語理解に関する研究 発達段階に応じた抽象語習得の検討	山本 晃(国立特別支援教育総合研究所) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P2F-23	聴覚障害児の手話表出スキル向上のための指導に関する事 例的研究	岩田 吉生(愛知教育大学 特別支援教育講座)

P3A-1	知的障害児・者における特別支援学校高等部卒業前後の友人関係の変化に関する研究	佐々木健太郎(尚絅学院大学) 平野 幹雄(東北学院大学) 野口 和人(東北大学大学院教育学研究科)
P3A-2	知的障害教育課程(国語科)の実施状況と課題について 知的障害特別支援学校への国語科の実施状況調査の結果から	北 翔平(金沢大学附属特別支援学校)
P3A-3	就労に生かせる「強み」とは何か 特別支援学校(知的障害)高等部における進路指導の実践から	河村佐和子(山口県立田布施総合支援学校) 船橋 篤彦(広島大学学術院)
P3A-4	自閉症スペクトラムのある中学生への手洗い指導 課題分析手続きによる指導	佐治信一郎(都立羽村特別支援学校)
P3A-5	日常生活がダンスになる マカトンサインを使ったダンスの振付・指導方法	藤島美乃里(旭出学園)
P3A-6	知的障害教育におけるエージェンシーを育む授業づくり 生徒一人一人が「個性」と向き合う「私ノート」の実践	松見 和樹(千葉県立特別支援学校流山高等学園) 古江 陽子(千葉県立特別支援学校流山高等学園) 山崎慶太郎(千葉県立特別支援学校流山高等学園) 武富 博文(神戸親和大学)
P3A-7	知的障害特別支援学校における卒業後の豊かな生活を支える支援に関する研究(3) 姿勢・身体の動きに着目し、作業療法士と連携した取り組みについて	小林 敬芳(香川大学教育学部附属特別支援学校) 坂井 聡(香川大学教育学部)
P3A-8	知的障害特別支援学校中学部における社会科の指導 知的能力の実態の幅が広い生徒集団に対する単元ルーブリックを活用した学習評価	本宮久仁彦(千葉県立香取特別支援学校) 橋本 創一(東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター)
P3A-9	知的障害児によるミシンの操作を支援する教師の方略 状況的認知論による談話シーケンスの構造の記述	緒方 亜文(東京大学大学院教育学研究科)
P3A-10	軽度知的障害生徒の自己理解の指導・支援に関する調査研究	佐伯 忍(上越教育大学大学院学校教育専攻) 笠原 芳隆(上越教育大学)
P3A-11	情報活用能力を発揮して未来社会を切り拓く知的障害のある児童生徒の育成(1) ～中学部理科「実験してみよう・調べてみよう①【電気の通り道】」の授業実践と一考察～	植田 青士(熊本大学教育学部附属特別支援学校) 佐々木竜太(熊本大学教育学部附属特別支援学校) 後藤 匡敬(熊本大学教育学部附属特別支援学校)
P3A-12	情報活用能力を発揮して未来社会を切り拓く知的障害のある児童生徒の育成(2) 中学部理科「実験してみよう・調べてみよう【風の力の働き】」の授業実践と一考察	佐々木竜太(熊本大学教育学部附属特別支援学校) 植田 青士(熊本大学教育学部附属特別支援学校) 後藤 匡敬(熊本大学教育学部附属特別支援学校)
P3A-13	相手意識を持った関わりや発信を引き出すための授業づくり1 ～特別支援学校の学校間交流学習・修学旅行を通して～	田畠 葵子(石川県立いしかわ特別支援学校)
P3A-14	相手意識を持った関わりや発信を引き出すための授業づくり2 ～特別支援学校の学校間交流学習・修学旅行を通して～	山口 哲平(群馬大学共同教育学部附属特別支援学校)
P3A-15	知的障害特別支援学校高等部における卒業後を見据えた学びについて -卒業生への生活状況調査を通して-	迫田 真喜(大阪教育大学附属特別支援学校) 今枝 史雄(大阪教育大学)

P3A-16	特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」 その9 中学部3年間での「実」の概念の獲得過程とその支援方法	山口 昂子(学校法人 旭出学園(特別支援学校))
P3A-17	知的障害特別支援学校美術科における対話型鑑賞の実践的研究 主体的・対話的で深い学びの観点を基に	花田 知恵(大阪教育大学附属特別支援学校) 今枝 史雄(大阪教育大学)
P3A-18	知的障害特別支援学校生徒のプログラミング学習について タンジブル教材を用いた学習活動における分析を通じた困難さと支援の検討	永田 真吾(山梨大学 大学院総合研究部 教育学域) 波多野浩史(山梨大学教育学部附属特別支援学校)
P3A-19	知的障害を対象としたメンタルヘルス研究の動向 教育・心理・精神医学の3学界を概観して	鈴木 悠介(東京都立高島特別支援学校)
P3A-20	Dreams come true! ～自分の夢・将来像を模索しながら、生徒が自身の金銭管理プランを作成する③～	安岡 知美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 山崎 敏秀(高知大学教育学部)
P3A-21	ICT機器に頼らないプログラミング教育 ボウリングを用いたアナログプログラミングの実践報告	山垣 雄大(神奈川県立あおば支援学校)
P3A-22	知的障害特別支援学校高等部におけるSDGsをテーマとした授業づくりの要点	小林 敬和(岡山大学教育学部附属特別支援学校)
P3A-23	特別支援学校(知的障害)高等部の地域協働を通じた変容に関する研究 「越境」の概念に着目して	広兼千代子(広島県立呉特別支援学校)
P3A-24	Mixed Reality(複合現実)を用いた知的障害児への手順支援	山本 健太(神戸大学大学院人間発達環境学研究所) 黒川 陽司(神戸大学附属特別支援学校)
P3A-25	東京島しょ部にある高校内に設置された特別支援学校の教育 高等部段階のインクルーシブ教育の新しいかたち	諏訪 肇(東京都立青島特別支援学校) 小榮 崇裕(東京都立青島特別支援学校)
P3A-26	知的障害特別支援学校における卒業後の豊かな生活を支える支援に関する研究(4) 姿勢・身体の動きの実態把握を活かした、ラジオ体操指導を通して	朝倉由里乃(香川大学教育学部附属特別支援学校) 坂井 聡(香川大学教育学部)
P3A-27	卒業後を見据えたQOLの向上につなげる高等部での支援	川井 優子(東京学芸大学附属特別支援学校) 奥住 秀之(東京学芸大学特別支援科学講座) 平田 正吾(東京学芸大学特別支援科学講座) 岩井 祐一(東京学芸大学附属特別支援学校) 松本 晃(東京学芸大学附属特別支援学校)
P3A-28	卒業後10年の仕事内容・人間関係の変化 知的障害特別支援学校高等部卒業生Aの教育歴・キャリア形成プロセスを通して	山内 俊久(創価大学教育学部児童教育学科)
P3A-29	効果的な振り返りと対話の促進を図るための小集団によるTEM図を活用したホームルーム活動の試行	田中 美紀(青森県立北斗高等学校) 菊地 一文(弘前大学大学院)
P3A-30	キャリア教育の充実に向けた校内研修の在り方 特別支援学校生徒の「卒業後の姿」を撮影した動画を活用して	今井 彩(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 武田 篤(秋田大学名誉教授) 前原 和明(秋田大学教育文化学部)
P3A-31	知的障害者の特別支援学校卒業後の余暇の過ごし方の現状及び変容と満足度、QOLに関する研究	細川かおり(千葉大学教育学部) 新妻翔太郎(千葉大学教育学部附属特別支援学校)

P3A-32	知的障害児の自己決定力を高める指導の在り方 振り返りにおける自己評価を取り入れた実践	岩井 大知(山形大学附属特別支援学校) 三浦 光哉(山形大学教職大学院)
P3A-33	知的特別支援学校における道徳及びキャリア教育の融合実践 学部間の系統性を手掛かりとして	間中 崇史(埼玉県立越谷西特別支援学校)
P3A-34	遠隔操作ロボットを使った美術館・博物館鑑賞プロジェクト	池田 吏志(広島大学)
P3A-35	知的障害者とクリエイターのコミュニケーションの変容 映画制作活動時における2者間のジェスチャーの同期現象に 着目して	工藤 真生(九州大学大学院 芸術工学研究院) 高取 千佳(九州大学大学院 芸術工学研究院)
P3A-36	菅原馬吉の教育思想と教育実践 1961年度における札幌市立美香保中学校の実践から	津田 良介(北海道教育大学附属札幌小学校) 千賀 愛(北海道教育大学札幌校)
P3A-37	医療少年院草創期における知的障害児教育について	小島富美子(公益財団法人矯正協会)

## その他

8月27日(日)11:00~12:00 教育文化ホール1階

P3B-1	通級指導教室と通常学級の協働による教科の授業づくり(1) —国語科の授業分析を中心に—	藤井 和子(上越教育大学) 関原 真紀(上越教育大学) 坂口 嘉菜(上越教育大学)
P3B-2	通級指導教室と通常学級の協働による教科の授業づくり(2) 教師の指導の視点の変容に関する質的研究	関原 真紀(上越教育大学) 坂口 嘉菜(上越教育大学) 藤井 和子(上越教育大学)
P3B-3	小学校におけるリーダーの特別支援教育に関する意識 アンケート調査の結果から	堀部 要子(名古屋女子大学)
P3B-4	特別支援学校のセンター的機能における地域の小中学校へ の支援に関する現状とその課題 —小中学校への質問紙調査を通して—	藤川 一輝(大阪府立支援学校) 谷川 明香(大阪府立藤井寺支援学校) 今枝 史雄(大阪教育大学)
P3B-5	学習者の自己評価の力を高める授業の一考察 形成的評価とフィードバックの取り組みを通して	藤丸 知彦(東京都清瀬市立清瀬小学校)
P3B-6	「特別な教育的ニーズ」に着目した授業の検討 通常の学級における授業実践を通して	松林 海斗(宇都宮大学大学院教育学研究科) 司城紀代美(宇都宮大学)
P3B-7	学校間連携特別支援教育研修会について 都立高校での一事例として	澤崎 陽彦(東京都立五日市高等学校)
P3B-8	授業のユニバーサルデザインに関する教職志望大学生の知識 —通常の学級の担当教員を志す学部生を対象として—	林田 真志(広島大学大学院人間社会科学研究科) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 新海 晃(広島大学大学院人間社会科学研究科) 澤 隆史(東京学芸大学総合教育科学系) 相澤 宏充(福岡教育大学特別支援教育ユニット)
P3B-9	障害者支援ピアサポーター学生における障害に関する認識 変容の効果	永井 友幸(九州大学 基幹教育院) 横田 晋務(九州大学) 田中 真理(九州大学)
P3B-10	全日制の公立高等学校における通級利用に関する検討 -チェックシートを用いた取組-	井上 里佳(和歌山県立有田中央高等学校)
P3B-11	カンボジアの特別支援教育の現状 政府公認の知的障害特別支援学校、視覚聴覚特別支援学校 を中心に	間々田和彦(王立ブノンベン大学社会科学部) 鈴木 祥隆(岐阜大学教育学部)

P3B-12	地域支援におけるコーディネーター育成に関する研究(2) 地域の小中学校コーディネーターの「資質向上のための チェックシート」を活用した研修方法についての検討	清水 謙二(大阪府立佐野支援学校) 浦井 尚女(大阪府立西淀川支援学校)
P3B-13	ダイナミック・アセスメントを用いた教育的支援の効果に 関する予備的検討	青木 真純(東京学芸大学)
P3B-14	近年の中国特殊教育政策の評価と可視化分析 —PMC指数モデルによる定量分析—	賀 佳(東北師範大学 教育学部)
P3B-15	特別支援学校における教師間の協働に基づく授業のPDCA に関わる実践 各教科と自立活動の時間における指導の担当教師との連携 に着目して	有井 香織(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 安藤 隆男(筑波大学名誉教授)
P3B-16	障害児者のきょうだいに対する就学前の教育現場での支援 きょうだい児のインタビュー調査から	辻 志乃布(桜花学園大学)
P3B-17	特別支援学校教師のICT活用に関する意識の現状3 一人一台端末を活用した効果の実感	秋本 公志(静岡市特別支援教育センター)
P3B-18	東京都における「就学支援シート」の調査を実施して -自治体の公式ホームページから分かること-	梶井 正紀(帝京科学大学教育人間科学部) 熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科)
P3B-19	近年中国インクルーシブ教育の現状と課題	呂 曉彤(帝京科学大学幼児保育学科)
P3B-20	特別支援教育コーディネーターにおける自己研修促進型ソ フトを用いたコンサルテーションスキルの形成	須藤 邦彦(山口大学教育学部)
P3B-21	日本における知的・発達障害の理解教育の実践に関する文 献研究 -先行研究の実践例への考察-	陳 宣伶(筑波大学人間総合科学学術院) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P3B-22	特別支援学校と高等学校の協働による通級指導教室開設の 取り組み 高等学校の通級による指導の充実に向けた特別支援学校の センター的機能が担うべき役割の検討	藤川 聡(大阪府立和泉支援学校) 麻生川理詠(元大阪府立和泉支援学校) 長澤 洋信(四天王寺大学)
P3B-23	特別支援教育専門性向上シート(試案)の検討	内河水穂子(埼玉大学)
P3B-24	小学校における個々の学びを尊重する校内支援体制の確立 特別支援教育コーディネーターによるインクルーシブ教育 の実現に向けたコーディネートの実践と考察	吉福 啓(空に架かる橋) 中村 美結(元草加市立川柳小学校) 新川里緒菜(草加市立川柳小学校)
P3B-25	特別支援教育の視点を取り入れた保育室環境のデザイン 一人ひとりが主体的に生活できる「自立心を育む3歳児保育 室」の環境調整の実践と考察	中村 美結(森のまち あおば保育園) 松田 友美(森のまち あおば保育園) 新川里緒菜(草加市立川柳小学校) 大沢 樹(本庄市立北泉小学校) 吉福 啓(空に架かる橋)
P3B-26	遺伝性疾患のある児童生徒の障害特性 6症候群を担当する教員を対象とした調査結果	加藤 美朗(関西福祉科学大学) 大橋 優(社会福祉法人大阪婦人ホーム子ロバキッズひろば) 嶋崎まゆみ(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
P3B-27	精神疾患患者の配偶者の生きがい感と家族関係の関連 —ヤングケアラー支援の観点から—	藤田 由起(くらしき作陽大学子ども教育学部) 遠矢 浩一(九州大学大学院人間環境学研究院)

P3B-28	未就学児における遠視がひらがな音読に及ぼす影響	岡野 真弓(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 漆原 美希(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 今中 楓菜(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 内川 義和(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科) 新井田孝裕(国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科)
P3B-29	児童発達支援の行動分析を駆使した支援力向上に関する研究	有村 玲香(鹿児島国際大学 福祉社会学部)
P3B-30	応用行動分析学の視点を取り入れた子育て応援プログラムの実践 就学前の子どもを育てている保護者を対象にしたプログラムの効果検証	堀尾 育子(星槎大学大学院教育実践研究科) 三田地真実(教育ファシリテーション研究所) 仲 久徳(星槎大学大学院教育実践研究科)
P3B-31	都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点1 -九州・沖縄-	水野 智美(筑波大学 医学医療系) 坂場 葉子(筑波大学大学院) 徳田 克己(アール医療専門職大学)
P3B-32	都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点 -関東-	坂場 葉子(筑波大学大学院) 水野 智美(筑波大学 医学医療系) 徳田 克己(アール医療専門職大学)
P3B-33	ISMGにおけるアーチェリー競技の変容(1959-1964)	阿部 崇(東京家政大学)
P3B-34	病院の駐車場の利用状況1 障害者用駐車スペースの利用に着目して	西館 有沙(富山大学教育学部)
P3B-35	北欧諸国における子どものコロナ後遺症問題と発達困難・リスクの動向	能田 昂(尚絅学院大学総合人間科学系教育部門) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 石井 智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 高橋 智(日本大学文理学部教育学科)

### 発達障害3

8月27日(日)12:30~13:30 教育文化ホール 1階

P3C-1	刺激条件の異なるStop-signal課題遂行時のエラー関連陰性電位に関する生理心理学的検討 定型発達成人におけるADHD傾向の高低からみた予備的検討を通して	中野 泰伺(筑波大学ヒューマンエンバワメント推進局) 岡崎 慎治(筑波大学人間系)
P3C-2	暗所での視覚刺激が発達障害生徒の心拍数とSpO2に与える影響 プラダーウィリー症候群・ダウン症候群・自閉症スペクトラム障害・健常各生徒の経時的変化に着目して	藤澤 憲(和歌山県立紀伊コスモス支援学校)
P3C-3	学齢期の自閉スペクトラム症児における動作模倣の効果検証 振り返りによる言語化とピアへの社会的行動に焦点を当てて	竹森 亜美(星美学園短期大学) 大石 幸二(立教大学現代心理学部)
P3C-4	ASD児を支援する大学生へのヒデユン・カリキュラムの効果 -応用行動分析の知識の変容に関する分析-	渡邊 孝継(星美学園短期大学)
P3C-5	きょうだい会スタッフとしての参加による障害のある人のきょうだいの心理的変容の検討	諏方 智広(横浜市立港南台ひの特別支援学校) 腰川 一恵(聖徳大学教育学部)
P3C-6	母子相互交渉における注意共有と自閉スペクトラム症児の不応行動	永井 祐也(岐阜聖徳学園大学教育学部) 金澤 忠博(奈良大学社会学部)
P3C-7	直示動詞使用時の発達的特徴の定量的測定とASD児に対する発達に基づく介入の効果	朝岡 寛史(広島大学大学院人間社会科学研究科) 高橋 知也(東京都健康長寿医療センター研究所)

P3C-8	読字障害児に対する語彙指導の事例報告	大井 雄平(中京大学 教養教育研究院)
P3C-9	発達障害児における強みの自覚がwell-beingに及ぼす影響	村瀬 忍(岐阜大学教育学部)
P3C-10	インクルーシブ教育に関する教員の自己効力感の国際比較 TEIP(Teacher Efficacy for Inclusive Practices)を用いた 先行研究のレビューを通して	宮川 拓人(筑波大学大学院人間総合科学学術院) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P3C-11	自閉スペクトラム症者の自己価値の随伴性・源泉の充足感 と主観的幸福感に関する事例的検討	尾川 周平(筑波大学大学院人間総合科学学術院/日本学術振興会特別研究員) 小島 道生(筑波大学人間系)
P3C-12	「気まずさ」場面理解の発達と特徴(1) 小学生から成人までを対象とした発達の検討	鈴木 大輔(東北大学) 滝吉美知香(岩手大学) 田中 真理(九州大学)
P3C-13	「気まずさ」場面理解の発達と特徴(2) 自閉スペクトラム症者を対象とした検討	滝吉美知香(岩手大学) 鈴木 大輔(東北大学) 田中 真理(九州大学)
P3C-14	「気になる子ども」に対するABAに基づく保育の効果	関 優美(一般社団法人ころん)
P3C-15	成人期に注意・欠陥多動性障害の診断を受けた神経発達症 者における環境適合	芝崎 文子(東京大学大学院教育学研究科) 今福 理博(武蔵野大学)
P3C-16	自閉スペクトラム症の青年男子を支える段階的支援(4) 放課後等デイサービス終了後のフォローアップの在り方 について	荒牧 要右(YCCこども教育研究所) 加藤 健一(YCCこども教育研究所)
P3C-17	自閉スペクトラム症児の身体活動を含むゲーム場面にお ける伝達行動の促進に向けたアセスメント —文字カードによるプロンプト・フェーディング手続きの 効果評価—	荻野梨紗子(立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻)
P3C-18	Listening Difficultiesに発達障害特性を併せ持つ小中学生 の 카테고리 知覚と語音聴取	山本 弥生(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 笹目 友香(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 佐々木香緒里(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 岩崎 淳也(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科) 小淵 千絵(国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科)
P3C-19	ワーキングメモリの実行機能と発達障害特性の関連性 視線計測を用いた発達障害特性に関するアナログ研究	五島 史子(田園調布学園大学) 中島 彩佳(湘南福祉センター診療所) 新井 雅明(田園調布学園大学)
P3C-20	ASD幼児に対するペアレント・トレーニングの効果 マンダの獲得を目的としたオンライン支援の検討	小笠原 忍(慶応義塾大学グローバルリサーチインスティテュート) 皆川 泰代(慶応義塾大学文学部) 山本 淳一(慶応義塾大学)
P3C-21	小学生におけるひらがな単語の心像性の特徴と読み困難の 関連 児童による心像性の評定に基づく検討	松崎 涼香(鹿児島県立鹿児島特別支援学校) 西 百々加(鹿児島県立南薩特別支援学校) 古里 恵(株式会社メイクア・リハビリ 子ども療育事業PARC) 小池 敏英(尚絅学院大学総合人間科学系) 雲井 未歆(鹿児島大学 教育学部 障害児教育学科)
P3C-22	ADHDを伴う学習障害児における読みの特徴と支援について 読みの困難におけるADHD特性の関連が示唆された事例	西 百々加(鹿児島県立南薩特別支援学校) 松崎 涼香(鹿児島県立鹿児島特別支援学校) 古里 恵(株式会社メイクア・リハビリ 子ども療育事業PARC) 小池 敏英(尚絅学院大学総合人間科学系) 雲井 未歆(鹿児島大学 教育学部 障害児教育学科)
P3C-23	高機能自閉症児における命題的心理化の促進(3) —言語学的能力と具体的介入を通じた心情推察評価の検 討に向けて—	和田 恵(立教大学大学院 現代心理学研究科) 大石 幸二(立教大学 現代心理学部)

P3C-24	新規課題が困難なASD児へエラーレス指導を用いたSSTの効果	半田 瞳(作新学院大学臨床心理センター) 岡野 陽太(社会福祉法人こぶしの会) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科)
P3C-25	発達障害女子に対するグループ療法の実践報告 感覚に着目したアロマ教室の効果	佐田久真貴(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
P3C-26	絵本の読み聞かせが中学生の障害特性理解に与える影響 -ADHDの特性をテーマにした絵本を用いて-	花田明光耶(四條畷学園ICP) 嶋崎まゆみ(兵庫教育大学) 堀口 節子(四條畷学園ICP)
P3C-27	自閉症スペクトラム障害児・者の養育者におけるストレス 反応 意味理解と有益性発見がストレス反応に与える影響	永瀬 開(山口県立大学社会福祉学部) 藤田 久美(山口県立大学社会福祉学部)
P3C-28	中学生の英語音韻意識に対する多感覚構造化学習アプローチによる指導の効果	池田 吉史(上越教育大学) 佐脇由佳子(市川市立大洲中学校)
P3C-29	自閉スペクトラム症児の生活環境音に対する不適応の理解	趙 彦媿(金沢大学) 吉村 優子(金沢大学人間社会研究域)
P3C-30	書字困難を示すLD事例の運筆技能評価に関する基礎的研究 ～三角形線引き課題より～	後藤 隆章(横浜国立大学教育学部) 赤塚めぐみ(常葉大学保育学部) 高木 悠衣(ゼブラHD株式会社) 岩間 卓吾(ゼブラHD株式会社)
P3C-31	日本版KABC-II・WISC-Vを組み合わせたアセスメント 漢字や英単語学習に苦戦している中学生を対象に	東原 文子(聖徳大学)
P3C-32	オンライン併用による発達障害児の親支援プログラムの実践 —Covid-19禍でも持続可能な親支援の模索—	前野 明子(志學館大学(鹿児島大学大学院))
P3C-33	挿絵の言語化活動における表現内容の発達の整理	池畑美恵子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P3C-34	放課後等デイサービス職員が感じるテーブルトーク・ロール プレイングゲーム(TRPG)の特長 ブレインストーミングを用いたTRPGの社会的妥当性の検討	木下 豪(放課後等デイサービスRapo Lab*) 丹治 敬之(岡山大学学術研究院教育学域)
P3C-35	壮年・高齢期の自閉症のある人の行動障害の縦断的研究(2)	近藤 裕彦(社会福祉法人檜の里 あさけ学園)
P3C-36	放課後等デイサービスにおけるASD児の仲間づくりについて 対人関係におけるつまずきの様相から	木下 蘭(吉田町立さくら保育園) 赤塚めぐみ(常葉大学保育学部) 森下未奈子(常葉大学保育学部) 後藤 隆章(横浜国立大学教育学部)
P3C-37	発達障害者支援センター等におけるペアレント・メンター 活動のサポート体制と活性化に必要な取組	柳澤亜希子(山口大学 教育学部) 小倉 正義(鳴門教育大学大学院教育学研究科) 井上 雅彦(鳥取大学大学院医学系研究科)
P3C-38	オンラインミーティングを活用した発達障害のある高校生の 余暇活動	瀬戸希津奈(東京学芸大学教職大学院) 山崎 樹(東京学芸大学教職大学院) 小澤 詩織(東京学芸大学教職大学院) 越智ちひろ(都立光明学園) 青木 利樹(栃木県那珂川町立小川小学校) 田中 亮(長野県塩尻市立桔梗小学校) 奥住 秀之(東京学芸大学)

重度・重複障害

8月27日(日)9:30~10:30 経済:2号館1階

P3D-1	重障児の指導目標設定におけるアセスメントツール利用の検討 「MEPA-IIR分析シート」の作成と実践における効果と課題	丸山 文恵(長野県稲荷山養護学校) 宮地弘一郎(信州大学学術研究院教育学系)
P3D-2	児童の自己選択・自己決定を引き出す授業づくり 物の永続性と主体的な手の動きを中心とした学習を通して	小田 亨(北海道手稲養護学校)
P3D-3	戦後肢体不自由養護学校における特別学級の設置と解消 学級編成に関する教師の自律的な実践に着目して	吉井 涼(福山市立大学教育学部) 北畑 彩子(聖徳大学教育学部) 松井 雄一(東京都立北特別支援学校)
P3D-4	行動セッティングの視点から考える特別支援学校小学部における朝の会の取組	石川 ゆず(広島市立広島特別支援学校) 三木由美子(広島修道大学) 樋口 和彦(広島修道大学)
P3D-5	重度・重複障害児の意思表示に関する事例的検討 視機能や運動機能と関連して	吉田 光伸(東京都立光明学園)
P3D-6	重度重複障害児の算数の授業で育む力と授業デザイン 事例を通して見る自立活動との関連をふまえた授業づくり	武部 綾子(東京都立光明学園)
P3D-7	視線入力機器を使ったアセスメントの可能性	日置 晋平(大阪府立交野支援学校)
P3D-8	重度・重複障害児に対する視線入力装置を活用した教育実践 —「見る」「観る」「視る」に着目した段階表の作成から—	和久田高之(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 水内 豊和(鳥根県立大学人間文化学部)
P3D-9	レノックスガストー症候群の生徒におけるケトン食療法の試み —寒天を混ぜたケトンフォーミュラ(半固形物)注入について—	池田 知史(広島市立広島特別支援学校) 樋口 和彦(広島修道大学) 渡邊 正人(鳥取大学地域学部) 中尾健太郎(横浜市東部地域療育センター)
P3D-10	障害が重い子どもの学習を支える理論(5) —行動セッティングの視点からの重度・重複障害児の学習活動の改善②—	樋口 和彦(広島修道大学人文学部) 渡邊 正人(鳥取大学地域学部) 藤川志つ子(千葉敬愛短期大学)
P3D-11	障害が重い子どもの学習を支える理論(6) 感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習活動の取り組み	渡邊 正人(鳥取大学 地域学部) 樋口 和彦(広島修道大学 人文学部) 藤川志つ子(千葉敬愛短期大学)
P3D-12	障害が重い子どもの学習を支える理論(7) —重度・重複障害児の主体的な学びを育む取り組みについての一考察—	藤川志つ子(千葉敬愛短期大学) 樋口 和彦(広島修道大学人文学部) 渡邊 正人(鳥取大学地域学部)
P3D-13	重度・重複障害児の自立活動の指導方法に関する全国調査研究	姉崎 弘(ISNA日本スノーズレン総合研究所)
P3D-14	音楽活動における重度重複障害児と教師の対話 教師の語りの分析から	市川友佳子(東京藝術大学)
P3D-15	重度重複障害児に対するコミュニケーション指導・支援の成果と困難	小澤 詩織(東京学芸大学) 田中 亮(長野県塩尻市立桔梗小学校) 奥住 秀之(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3D-16	往還型授業研究モデルの構想と展開 —国際教育協力を射程した課題の整理—	内海友加利(東京学芸大学) 池田 彩乃(山形大学) 一木 薫(福岡教育大学) 安藤 隆男(筑波大学名誉教授)

P3D-17	先天性ミオパチー児のコミュニケーション行動の変容 -家庭及び学校での9年間の係わり合いから-	寺本 淳志(宮城教育大学)
P3D-18	重複障害のある児童生徒の教育に関する訪問調査(1) ～特別支援学校を対象とした訪問調査の結果から～	小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 加藤 敦(国立特別支援教育総合研究所) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 相田 泰宏(国立特別支援教育総合研究所) 星 祐子(国立特別支援教育総合研究所)
P3D-19	重複障害のある児童生徒の教育に関する訪問調査(2) ～B特別支援学校の訪問調査の結果から～	加藤 敦(国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 相田 泰宏(国立特別支援教育総合研究所) 星 祐子(国立特別支援教育総合研究所)
P3D-20	特別支援学校(肢体不自由)の自立活動を主とする教育課程 における算数(数学)の教科指導に関する研究 年間指導計画作成上の課題と改善策の検討	菊池 高之(秋田県立秋田きらり支援学校) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科) 谷村 佳則(秋田大学教育文化学部)
P3D-21	重度・重複障害児の図画工作・美術における系統的な指導 についての一考察	永谷しず江(伊丹市立伊丹特別支援学校) 小谷 裕実(京都教育大学)
P3D-22	Students with Intensive Needs in an Inclusive Education System A Literature Review	NAEEMY MOHAMMADIDREES (筑波大学障害科学博士後期) 米田 宏樹(筑波大学人間系障害科学域)
P3D-23	重度重複障害者への眼鏡型アイトラッカーの活用の意義Ⅱ	新井 雅明(田園調布学園大学) 五島 史子(田園調布学園大学)
P3D-24	重症心身障害児の授業内での定位反応の生起様相の検討 働きかけの受容に関する情報を教員へフィードバックする ことを通して	渡邊流理也(新潟大学教育学部) 山田 綸(新潟市立東特別支援学校)

### 重度・重複障害、障害全般3

8月27日(日)11:00～12:00 経済:2号館1階

P3E-1	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医 療および移行期医療支援に関する研究 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)分 担研究報告	星 祐子(国立特別支援教育総合研究所)
P3E-2	学校教育におけるポジティブ行動支援の有用性 学習指導要領と生徒指導提要との整合性への着目	山川 直孝(滋賀大学)
P3E-3	配置される場所の違いが特別支援教育支援員の働き方やや りがい・困難さに与える影響に関する調査研究	真鍋 健(千葉大学教育学部) 若井広太郎(東京家政大学) 飯島 啓太(千葉県立東葛の森特別支援学校) 大内 進(星美学園短期大学) 香川 邦生(教育支援研究会) 佐藤 晋治(大分大学) 中村里津子(筑波大学附属視覚特別支援学校) 青木 隆一(筑波大学附属視覚特別支援学校) 山田 毅(国土館大学)
P3E-4	教科用図書における学びの連続性を再考する試み 国語科の検定教科書と著作教科書(知的障害者用)の比較	植田佐知子(静岡市立長田東小学校)
P3E-5	通常学級教師と通級指導担当教師のティーム・ティーチン グにおける意思決定過程の分析	引場 陽子(新潟県妙高市立新井中央小学校) 藤井 和子(上越教育大学大学院学校教育研究科)

P3E-6	通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究	井上 秀和(国立特別支援教育総合研究所) 大崎 博史(国立特別支援教育総合研究所) 西村 崇宏(国立特別支援教育総合研究所) 土屋 忠之(国立特別支援教育総合研究所) 山本 晃(国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(常葉大学) 埴淵かおり(御前崎市立第一小学校)
P3E-7	学習指導要領に基づく教育課程編成・実施の現状と課題(3) - 特別支援学校高等部普通科を対象とした調査から -	吉川 知夫(国立特別支援教育総合研究所) 北川 貴章(文教大学) 河原 麻子(国立特別支援教育総合研究所) 竹村 洋子(国立特別支援教育総合研究所) 金子 健(国立特別支援教育総合研究所) 照井 純子(国立特別支援教育総合研究所)
P3E-8	高等学校における合理的配慮の校内研修に関する研究Ⅲ 実態把握チェックリストと支援の手がかりシートを活用した校内研修プログラム(案)について	大崎 博史((独)国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(常葉大学)
P3E-9	特別支援学校中学部保健体育科(知的障害)の武道における 少林寺拳法指導プログラムの開発(2) 特別支援学校(聴覚障害)における実践を通して	天海 丈久(弘前大学) 神山 博(青森公立大学) 工藤 知哉(青森県立青森若葉養護学校) 加福千佳子(弘前大学教育学部附属特別支援学校) 秋元 宏介(一般財団法人少林寺拳法連盟)
P3E-10	特別支援学校、福祉・労働機関による高等学校支援Ⅰ -「特別支援学校」から高等学校に提供が期待される支援内容-	伊藤 由美(国立特別支援教育総合研究所) 榎本 容子(国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 相田 泰宏(国立特別支援教育総合研究所)
P3E-11	特別支援学校、福祉・労働機関による高等学校支援Ⅱ -「福祉・労働機関」から高等学校に提供することが期待される支援内容-	榎本 容子(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 相田 泰宏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 伊藤 由美(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P3E-12	特別支援学校における音楽アウトリーチ公演の配慮と工夫 -演奏会をマネジメントした教師の語りに着目して-	疋田 弥紅(九州大学大学院芸術工学府)
P3E-13	特別支援学校教育実習における事前指導プログラムデザイン	田中 雅子(北海道教育大学)
P3E-14	保育者養成校における特別支援教育実習を通じた学び -学部比較を通して-	奥村 香澄(名寄市立大学保健福祉学部) 郡司 竜平(名寄市立大学保健福祉学部) 藤川 雅人(島根大学教育学部)
P3E-15	道内大学における障害学生支援体制の現状 公表情報をもとにした分析と一考察	蒔苗 詩歌(北星学園大学)
P3E-16	障害理解教育におけるユーモアの効果(1) 発達障害に関する障害ユーモアが知識・態度に与える影響	大野 愛哉(佐賀大学) 南 晴香(福岡市福祉局) 脇浜 幸則(九州大学人間環境学研究院) 上田 綾香(九州大学人間環境学府) 田中 真理(九州大学)
P3E-17	障害理解教育におけるユーモアの効果(2) 合理的配慮に関する研修動画におけるユーモアが受講意欲 に与える影響	上田 綾香(九州大学大学院人間環境学府、日本学術振興会特別研究員) 南 晴香(福岡市福祉局) 脇浜 幸則(九州大学人間環境学研究院) 大野 愛哉(佐賀大学) 田中 真理(九州大学)

P3E-18	障害理解教育におけるユーモアの効果(3) 合理的配慮に関する研修動画におけるユーモアが知識と態度に与える影響	脇浜 幸則(九州大学人間環境学研究院) 南 晴香(福岡市福祉局) 上田 綾香(九州大学人間環境学府, 日本学術振興会特別研究員) 大野 愛哉(佐賀大学) 田中 真理(九州大学)
P3E-19	大学における障がい学生に対する支援の取組と今後の展望 —学生サポーターの募集と養成に関するこれまでの実践に焦点を当てて—	長谷川大也(青山学院大学 障がい学生支援センター) 関戸 美音(青山学院大学 障がい学生支援センター) 岡村真理子(青山学院大学 障がい学生支援センター) 田中 右美(青山学院大学 障がい学生支援センター) 工藤 明人(青山学院大学 障がい学生支援センター)
P3E-20	多様な参加者における学習支援システムの使用性推移の検討	熊井 正之(東北大学大学院教育学研究科) 森 つくり(目白大学保健医療学部) 石川 美希(東北大学大学院教育学研究科) 紺野 莉沙(東北大学大学院教育学研究科) 梶井 正紀(帝京科学大学教育人間科学部) 橋本 陽介(白梅学園大学子ども学部)

### 聴覚障害3

8月27日(日)12:30~13:30 経済:2号館1階

P3F-1	通常学級で学ぶ難聴児への情報保障支援の実際と課題の検討 特別支援教育支援員への質問紙調査を通して	奥沢 忍(茨城県つくば市立竹園東小学校)
P3F-2	インクルージョンで質の高い聾教育は可能か:研究序説 —1つの聾教育センターが全国を統括するニュージーランドの事例から—	木村 素子(群馬大学共同教育学部)
P3F-3	聴覚障害小学生の社会情動的スキル(SES)評価の試み 「子どもの強さと困難さのアンケート(SDQ)」の成績と専従保育士の日々の関わりから	瀧尾 陽太(手話でいきる子どものあ〜とん塾) 齋藤 友介(大東文化大学文学部教育学科)
P3F-4	聴覚障害小学生の社会情動的スキル評価の試み 「子どもの強さと困難さのアンケート(SDQ)」の基本統計量および信頼性の分析から	齋藤 友介(大東文化大学文学部教育学科) 瀧尾 陽太((一社)ありがとうの種 あ〜とん塾)
P3F-5	聴覚障害児の音韻意識習得後の作文力に関する一考察 聴覚特別支援学校に在籍する事例から	渡部 杏菜(筑波技術大学) 長南 浩人(筑波技術大学)
P3F-6	聴覚特別支援学校(小学部)の体育授業 授業の体制および実施種目における指導のしやすさと困難さについて	宗田 光博(東海大学 体育学研究科) 吉岡 尚美(東海大学 体育学部) 内田 匡輔(東海大学 体育学部)
P3F-7	難聴特別支援学級担任に対する実態調査と交流学級における難聴児支援に関する事例研究	片上 大祐(愛媛県立松山聾学校) 吉松 靖文(愛媛大学教育学部)
P3F-8	絵日記指導における言語発達に関する一考察 教師の音韻サインの使用場面や意図を振り返る	小柳 達朗(東京学芸大学)
P3F-9	スウェーデンのインクルーシブ教育と聴覚障害教育の動向 ストックホルム市アルヴィーク基礎学校(Alviksskolan)聴覚障害クラスの訪問調査を通して	石井 智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科特別支援教育専攻) 田部 絢子(金沢大学人間社会研究域学校教育系) 内藤 千尋(山梨大学大学院総合研究部教育学域障害児教育講座) 能田 昂(尚絅学院大学総合人間科学系教育部門) 石川 衣紀(長崎大学教育学部) 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科) 高橋 智(日本大学文理学部)

P3F-10	特別支援学校(聴覚障害)小学部教員の理科授業場面における表の読解指導の実態	野本 理紗(加須市立樋遣川小学校) 坂口 嘉菜(上越教育大学)
P3F-11	ろう重複障害児の文字指導プログラム作成に向けた予備的研究 定型発達児・知的障害児・聴覚障害児の言語発達等の文献調査	樋口 珠音(東京学芸大学 教職大学院) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3F-12	特別支援学校(聴覚障害)における外国語活動の現状と課題に関する調査研究	青山陽佳里(筑波大学大学院 障害科学学位P 博士前期課程) 鄭 仁豪(筑波大学 人間系 障害科学域)
P3F-13	勝手読みの頻発する聴覚障害児の困難要因について	大鹿 綾(東京学芸大学 特別支援科学講座) 濱田 豊彦(東京学芸大学 特別支援科学講座)
P3F-14	聴覚特別支援学校におけるろう重複児に対する指導に関する－検討 －担当教員へのインタビュー調査を通して－	中島 陽(呉南特別支援学校) 喜屋武 睦(福岡教育大学教育学部特別支援教育研究ユニット)
P3F-15	聴覚障害特別支援学校のセンター的機能に関する文献的考察 －特別支援学校間の連携に着目して－	峰 あやめ(東京学芸大学教職大学院) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3F-16	聴覚特別支援学校小学部児童の語彙の習得状況について 2007年度検査結果との比較を通して	井坂 行男(大阪教育大学教育学部)
P3F-17	ろう学校音楽科における教師の専門性 授業への参与観察を通して	立花 秀斗(一橋大学社会学研究科) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3F-18	聴覚障害者のコミュニケーション満足度に関する研究	山室 凱世(東京学芸大学) 大鹿 綾(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3F-19	聾学校におけるキャリア教育に関する調査 －セルフアドボカシーの観点に着目して－	吉松 靖文(愛媛大学) 柘植 香穂(愛媛大学教職大学院)
P3F-20	大学を卒業した聴覚障害社会人を取り巻くキャリアの実態 男女間についての検討	小林 洋子(国立大学法人筑波技術大学) 大杉 豊(国立大学法人筑波技術大学)
P3F-21	聴覚障害者の参与する音声会話における伏在的なきこえの問題 －応答のズレが指摘・修復されないまま進行する会話の道筋－	水内 樹(筑波技術大学大学院 技術科学研究科) 白澤 麻弓(筑波技術大学)
P3F-22	重度聴覚障害者が音楽ライブ・コンサートを鑑賞する際の情報保障ニーズに関するインタビュー調査	徳永 頼(筑波技術大学大学院技術科学研究科) 三好 茂樹(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 萩原 彩子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)

# 索引

五十音順。

万一誤読の際はご容赦ください。



【ア】		池田 敦子	P1A-38,P2B-19, P2B-24,P3B-35,P3F-9	稲田 尚子	自シI-40
相澤 純一	自シI-66			稲本 純子	P1C-13
相澤 宏充	P1F-5,P1F-6,P3B-8	池田 彩乃	自シI-23,自シI-25, 自シI-38,P1E-10, P2B-31,P3D-16	井上 和紀	P2E-18
相澤 雅文	自シII-33			井上 剛	自シII-8
相田 泰宏	自シII-24,P3D-18, P3D-19,P3E-10,P3E-11	池田 和馬	P2B-13	井上 知洋	国際シ,自シI-73
相羽 大輔	P2A-10,P2D-21,P2E-15	池田 吏志	P1D-20,P2A-12, P2D-24,P3A-34	井上 秀和	自シII-24,P1B-13, P3E-6
青木 高光	P2B-20,P2C-17			井上 寛子	自シI-56
青木千帆子	自シI-61	池田順之介	P1A-6	井上 雅彦	教育講演10,P3C-37
青木 利樹	P1C-25,P3C-38	池田 知史	自シI-48,P3D-9	井上 操	自シII-19
青木 真純	自シII-19,P3B-13	池谷 幸子	P2B-29	井上 里佳	P3B-10
青木 瑞樹	P2C-25	池谷 尚剛	P2B-29	今井 彩	P3A-30
青木 康彦	学企シ2	池田 吉史	自シI-46,P3C-28	今枝 史雄	自シI-54,自シI-62, P1A-3,P1A-4,P3A-15, P3A-17,P3B-4
青木 雄一	自シI-9,自シII-18, P2A-4,P2A-11,P2A-27	池畑美恵子	自シII-6,P3C-33		
	自シI-6,自シI-47, P3E-3	井坂 行男	P3F-16	今隈 亮太	自シII-11
青木 隆一	P2D-6	井澤 悟	P1D-18	今城 遥	自シI-49
青柳まゆみ	自シII-28	井澤 信三	学企シ3,自シII-12, P1C-33,P2C-22	今津 麻衣	P2D-10
青山 直樹	P3F-12	井澤 典之	自シII-24	今中 楓菜	P3B-28
青山陽佳里	P3C-30,P3C-36	石井 恭子	P1C-9	今福 理博	P3C-15
赤塚めぐみ	P3B-17	石井 映美	P1C-37	今村 幸子	P2C-30
秋本 公志	P3E-9	石井 智也	P1A-38,P2B-19, P2B-24,P3B-35,P3F-9	任 龍在	P1E-21
秋元 宏介	自シI-6	石井みや子	自シI-24	岩井 大知	P3A-32
秋山 篤	P3C-7	石井 幸仁	自シI-16	岩井 俊夫	自シII-27
朝岡 寛史	P1D-4,P3A-26	石川 衣紀	自シII-33,P1A-38, P2B-19,P2B-24,P3B- 35,P3F-9	岩井 祐一	自シI-26,P1D-3, P3A-27
朝倉由里乃	P2B-33,P3B-22			岩崎 淳也	P1F-1,P1F-14,P1F-15, P3C-18
麻生川理詠	P2A-13	石川 和博	P1E-21	岩崎真梨子	自シII-22
足立 圭子	自シI-5	石川 千尋	P1B-2	岩佐 直彦	自シII-12
吾妻 恵夢	P3D-13	石川 政孝	自シI-66	岩田 淳子	P1C-37
姉崎 弘	P1E-12	石川 美喜	P1B-7	岩田 恵実	P2D-6
阿部 晃久	P3B-33	石川 美希	P2F-10,P3E-20	岩田 吉生	P1D-23,P2F-23
阿部 崇	P2F-1	石川 ゆず	P3D-4	岩間 卓吾	P3C-30
阿部 敬信	P2B-6	石川 慶和	P2C-4,P2C-8,P2C-9	岩松 雅文	自シI-53,P1A-21
阿部美穂子	自シI-18,自シI-66	石倉 健二	P1D-21	岩村 賢	自シI-40
阿部 圭但	P3E-9	石黒 栄亀	P1B-24	岩本 佳世	自シII-21
天海 丈久	自シI-21,P2E-19	石坂 務	自シII-12	岩本 悠希	自シI-50,P1D-8
天谷由香里	P3C-19,P3D-23	石田 修	自シI-11,P1F-9		
新井 雅明	P3B-24,P3B-25	石田 秀典	P1E-22	【ウ】	
新川里緒菜	自シI-30	石田 基起	P1D-21	上田 綾香	P3E-16,P3E-17,P3E-18
荒木 良子	自シII-31,P2B-31	石田 祐貴	P1F-7	植田 青士	P3A-11,P3A-12
荒巻 恵子	P3C-16	石塚 謙二	教育講演8	植田佐知子	P3E-4
荒牧 要右	自シII-14	石飛 了一	自シI-20,P1D-11, P2E-11	上田さとみ	自シII-12
新谷 洋介	自シII-27,P3B-15			上野 大	自シI-33
有井 香織	P1C-22,P1C-23,P2B-27	石羽根里美	自シI-44	宇佐美太郎	P2E-10
有川 宏幸	自シI-67	石原 章子	自シI-73,P1C-14	牛込 彰彦	P1C-1
有川 真弓	P3B-29	石渡 和実	特別講演	氏間 和仁	P1B-5,P2D-10,P2D-13, P2D-16,P2D-17
有村 玲香	自シI-25,P3B-15, P3D-16	李 受眞	P2C-11		
安藤 隆男		泉 真由子	自シI-37,P2C-6	後松慎太郎	自シI-58
		伊勢川依里	自シI-58	内河水穂子	P3B-23
【イ】		磯貝 順子	P2B-14	内川 義和	P3B-28
飯島 杏那	P1C-17	磯田 恭子	P2F-5,P2F-8	内田 佳那	P1D-15
飯島 啓太	P3E-3	板倉 達哉	自シI-52	内田 匡輔	自シI-49,P3F-6
飯島 徹	P1A-34	市川 哲	P1C-33	内田 誠	自シI-38,P1E-21
飯島 睦美	自シI-2	市川友佳子	P3D-14	内山誉利子	自シI-35
飯田 順子	自シII-32	一木 薫	自シI-1,自シI-25, 自シI-68,P3D-16	内海友加利	自シI-25,P2B-21, P3D-16
飯野 順子	自シI-66				
飯原 美帆	P1C-23	市澤 豊	P1A-1	有働眞理子	P2A-16,P2A-17
飯村 大智	自シI-11,P2C-23, P2C-25	伊藤 啓子	自シII-26	垂髪あかり	自シII-23
	P1B-11	伊藤 駿	自シII-34,P1B-23	宇根 桃子	P1A-16
五十嵐一枝	自シI-20	伊藤 史人	自シII-14	梅崎眞理子	P2A-3
生田 茂	P1F-12	伊藤 由美	自シII-24,P3E-10, P3E-11	浦井 尚女	P3B-12
井口亜希子				漆原 美希	P3B-28

【エ】		岡崎 慎治	自シI-46,自シI-73, 自シII-19,P1B-6, P1C-14,P2A-28,P3C-1	郭 思奕	P2F-18
江頭 進	P2B-10			角原 佳介	自シI-9,自シII-5,P2A-7
衛藤 裕司	P1A-5,P1C-34,P1D-10, P2D-15	岡澤 慎一	自シI-75	笠原 芳隆	P3A-10
榎本 拓哉	自シI-7,P2B-1,P2B-2, P2B-3	小笠原志乃	P1D-11,P2E-11	梶井 正紀	P3B-18,P3E-20
榎本 容子	自シII-24,P1B-13, P3E-10,P3E-11	小笠原 忍	P3C-20	梶 正義	自シII-16
江見 大輔	自シI-65	緒方 亜文	P3A-9	梶本 夏未	P1D-19
遠藤 愛	P2B-1,P2B-2,P2B-3	岡田 雄佑	P2F-5,P2F-8	梶山 紘平	自シII-14
遠藤 佑一	P1C-13,P1C-17	岡田 類	P1A-14	片岡 美華	自シII-11
【オ】		岡野 真弓	P3B-28	片上 大祐	P3F-7
区 潔萍	P1B-6	岡野 陽太	P3C-24	片桐 侑大	P1C-15
大石 幸二	自シI-3,P1B-15,P3C-3, P3C-23	岡村恵里子	自シI-73	堅田 利明	P2E-23
大石 恒子	自シI-66	岡村 章司	自シII-12,自シII-12, P1C-8,P2C-14	勝谷 紀子	P1F-11
大石 博司	P2C-16	岡村真理子	P3E-19	加藤 敦	P3D-18,P3D-19
大井 雄平	P3C-8	岡本 明博	自シI-20	加藤 貴愛	自シI-32,P1A-16
大内 進	自シI-6,P2D-24,P3E-3	岡本 邦広	P2C-29	加藤 健一	P3C-16
大江 啓賢	自シI-50,自シII-15	岡本 洋	自シI-44	加藤 重樹	学企シ1
大川甲太郎	P1A-22	岡元 雅	自シII-14	加藤 慎一	P2F-3
大久保賢一	自シI-29	尾川 周平	P3C-11	加藤 誠一郎	P1F-4
大久保咲来	P2A-10	小川 拓郎	P2A-3	加藤 隆芳	P1E-19
大久保裕也	P2C-20	小川 修史	P1B-21,P1B-22	加藤 健生	自シI-51
大崎 博史	自シI-21,自シI-43, 自シI-74,P2E-19, P3E-6,P3E-8	小川 洗菜	P2B-1,P2B-2,P2B-3	加藤 達也	自シI-2
大沢 樹	P3B-25	荻野 昌秀	自シI-12	加藤 哲文	自シII-17
大鹿 綾	P1F-5,P3F-11,P3F-13, P3F-15,P3F-17,P3F-18	荻野 梨紗子	P3C-17	加藤 典子	自シI-28
大島 美絵	P2F-14	奥沢 忍	P3F-1	加藤 永歳	自シI-28
大杉 成喜	自シII-14	奥住 秀之	自シI-19,自シI-50, P1A-6,P1C-20,P1C-25, P1C-35,P1D-5,P1D-8, P2C-2,P2C-7,P2D-14, P2E-1,P3A-27,P3C-38, P3D-15	加藤 宏昭	自シI-8,自シI-55, 自シII-9
大杉 豊	P3F-20	奥田 健次	自シII-17	加藤 幹人	P2D-11,P2D-19
大関 浩仁	準委企シ	奥村 香澄	P1D-1,P3E-14	加藤美千子	P1D-5
大竹くるみ	P1C-20	奥村真衣子	自シI-69,自シII-16	加藤由佳里	P1C-26
大谷 博俊	P1C-5	奥山 敬	自シI-4	加藤 美朗	P3B-26
大谷 萌	P1D-16	小倉 正義	P3C-37	門田 麻美	自シI-57
大谷 泰樹	P2F-19	小倉 靖範	自シI-23,P1E-10	門脇 絵美	自シI-59
太田 容次	自シI-16,P1B-21, P1B-22	小郷 将太	自シII-5	門脇 弘樹	自シI-47,P2D-16
大多 和碧	P2C-4	長田百萌子	P2C-9	金澤 貴之	自シII-3
大多和 碧	P2C-8	小澤 詩織	P3C-38,P3D-15	金澤 忠博	P3C-6
大対香奈子	自シI-29	小澤 至賢	P3D-18,P3D-19,P3E-10, P3E-11	金森 克浩	自シII-14
大塚 玲	P1A-22	小島富美子	学企シ1,P3A-37	金子 健	P3E-7
大沼 健司	P1A-4	小田 亨	P3D-2	金子 尚弘	P1B-3
大沼 直紀	自シII-3	越智ちひろ	P2C-7,P3C-38	金子真奈美	P1B-3
大野 愛哉	P3E-16,P3E-17,P3E-18	越智 美雨	P2D-2	兼子 南	P2E-10
大野智佳子	P2C-4,P2C-8	小野川文子	自シII-23	何 美隣	P2F-15
大橋 智	自シI-7,P2B-1,P2B-2, P2B-3	小幡 和史	自シI-40	加福千佳子	P3E-9
大橋 雅夫	学企シ1	小原 舞音	P2F-3	加部 清子	P1B-25,P2E-10
大橋 優	P3B-26	小測 千絵	P1F-1,P1F-14,P1F-15, P2F-14,P3C-18	神尾 俊平	自シII-24
大櫃 玲子	自シI-60	面高 有作	P2B-8	神垣 一規	受賞者講演
大宮 弘恵	自シII-10,P1D-11, P2E-11	織田 晃嘉	自シI-16,自シI-27, 自シI-31	上村 哲也	自シI-62
大村 美保	P1C-37	【カ】		神山 博	P3E-9
大本 直子	P1C-27	賀 佳	P3B-14	萱田 沙織	自シI-60
大森 直也	P1E-9	加賀 詩織	P2A-9	樺澤 徹	自シI-43
大森 幹真	P1D-18,P1D-24	鏡原 崇史	P1C-21	川池 順也	P2C-11
大柳 俊夫	自シI-73	香川 邦生	P3E-3	河合 高鋭	自シI-51
大山 祥子	自シII-26	香川 奈緒美	自シII-31,P2B-31	川合 紀宗	国際シ,自シII-21
		香川 紘子	自シI-40	川井 優子	P3A-27
		柿澤 敏文	P2D-11,P2D-19	河内 昭浩	自シI-38
				川内紀世美	自シII-23
				川田 和子	P1B-17
				河野 純大	P2F-8
				河野 文子	P1B-19
				川端 康治	自シI-20
				河原 麻子	P2F-12,P3B-8,P3D-18, P3D-19,P3E-7
				川間健之介	自シI-17,P1D-11, P1E-17,P2E-11
				河村佐和子	P3A-3

川村 修弘	自シI-53	熊井 正之	P1F-13,P2F-10,P3B-18,	小森 朱里	P2D-3,P2D-20
河村 優詞	P2A-5		P3E-20	小森谷さおり	自シI-21,P2E-19
神田 智美	自シI-1	熊谷 恵子	自シII-32,P1B-6,	小柳 達朗	P3F-8
神田 知美	自シII-17		P1D-13	小柳 菜穂	自シII-9
菅野 敦	自シI-62,P1A-3,P1A-4	熊谷 裕央	P1C-16	小山 信博	P1E-6
菅野 和恵	自シI-20	雲井 未歎	P3C-21,P3C-22	是枝喜代治	自シI-20,P2B-5
菅野 和彦	自シI-23,自シI-25,	公文 匠	自シII-16	是永かな子	教育講演1,国際シ,
	自シI-68	倉光 晃子	自シII-13		自シII-34,P1A-11,
上林 宏文	自シI-23	栗田 真和	自シI-55		P2B-15
雁丸 新一	P1D-6	栗原 和弘	自シI-56	近藤 智	自シI-38
		黒岩 あこ	P2B-27	近藤 瑞季	自シII-17
【キ】		黒川 陽司	P3A-24	近藤 裕彦	P3C-35
木尾京一郎	P2C-10	郡司 竜平	P1D-1,P3E-14	今野 邦彦	自シI-35
菊池 恵美	P1A-34			紺野 莉沙	P1F-13,P3E-20
菊池 一文	自シI-44,自シII-22,	【ケ】		紺 恵	自シI-72
	P1A-10,P3A-29	見上 昌睦	P1B-7		
菊池けい子	P1A-15			【サ】	
菊池 高之	P3D-20	【コ】		三枝 里江	P2F-20
菊池 哲平	自シII-9	小池 敏英	P1C-7,P3C-21,P3C-22	齋藤 愛子	P1A-15
菊池 紀彦	自シII-15	小池由香里	自シI-28	齋藤 彩	P1C-31
岸川加奈子	自シI-56,P2F-9	小泉 俊子	自シI-55	齋藤 宇開	自シI-58
北岡 大輔	自シII-11,P1C-29	小出 博史	P1A-33	齋藤 翔平	自シII-13
北川 貴章	自シI-1,自シI-60,	高阪 英徳	P2A-22	齋藤 澄子	P1C-2
	P3E-7	高地 朋見	P1C-4	齋藤 大地	自シI-45,自シI-72,
北 翔平	自シI-8,P3A-2	古賀 裕美	自シI-22		P1A-21,P1D-7
北野ちゆき	P2E-2	後上 鐵夫	自シI-43	齊藤 嵩之	P1E-2
北場早智恵	P1C-8	小榮 崇裕	P3A-25	齊藤 博之	自シI-70
北畑 彩子	P3D-3	小里 直通	P1C-6	齋藤 友介	P3F-3,P3F-4
北村 和美	P1C-3	小汐 誉	自シII-1	齋藤 遼太郎	P1C-24
北村 満	自シI-27,自シI-72	腰川 一恵	P3C-5	佐伯 忍	P3A-10
北 洋輔	自シI-46	五島 脩	自シI-74,P2C-6	佐伯 胖	教育講演5
木下 豪	P1D-15,P3C-34	越 政樹	自シII-12	坂井 聡	自シI-26,自シI-71,
木下 蘭	P3C-36	小島 拓也	P2C-13		P1D-4,P2E-3,P3A-7,
木場夕佳子	自シI-32	小島 道生	自シII-11,自シII-21,		P3A-26
金 恩河	P1F-3		P1A-34,P1B-6,P1D-2,	酒井 貴庸	P2A-25
金 仙玉	自シII-23		P2A-29,P3C-11	佐貝 賀子	自シI-53
木村 昭善	P2E-12	小島 靖弘	自シII-8	酒井 春奈	自シII-29
木村 敦	学企シ1	呉 純慧	P2D-9	酒井 康年	自シI-67
木村 薫志	P2A-33	小菅 敏朗	自シI-43	酒井 泰葉	自シI-59
木村 素子	自シI-2,自シI-38,	小谷 裕実	P3D-21	坂口 嘉菜	P2B-4,P2F-19,P3B-1,
	P3F-2	小谷 理恵	P2C-14		P3B-2,P3F-10
喜屋武 陸	P2F-11,P3F-14	兒玉 尚子	P1E-18	坂口 友良	P1A-13
京 俊輔	自シI-54	小玉美津子	自シI-10	坂西 秀昭	自シI-38
清田 正史	自シI-48	古長 治基	P2C-3	坂場 菜子	P3B-31,P3B-32
清時 忠吉	自シII-25	後藤 隆章	P3C-30,P3C-36	坂本 裕	P2B-17,P2C-10
金原 正和	自シI-21,P2E-19	後藤 信之	学企シ1	櫻田 佳枝	自シII-5
		五島 史子	P3C-19,P3D-23	迫田 真喜	P3A-15
【ク】		後藤 匡敬	自シI-27,P2A-21,	佐々木香緒里	P1F-1,P1F-15,P3C-18
日下部貴史	自シII-20		P3A-11,P3A-12	佐々木銀河	P1A-2,P1C-36,P2A-19
草薙 亜礼	学企シ1	後藤 理央	P2E-5	佐々木健太郎	P3A-1
楠 敬太	P1C-12	小西 孝政	自シI-36	佐々木高一	自シI-17
楠見 友輔	自シI-33,自シII-31,	小林 愛	自シI-3	佐々木祥日	P2A-30
	P2B-31	小林 敬芳	P1D-4,P3A-7	佐々木順子	自シII-32
工藤 明人	P3E-19	小林 汰門	P2F-4	佐々木順二	P2F-21
工藤 久美	自シII-6	小林 秀之	P1D-12	佐々木俊英	自シI-10
工藤 滋	P2D-7	小林 敬和	P3A-22	佐々木敏幸	自シI-51,自シI-64,
工藤 傑史	自シII-6	小林 太海	自シI-33		自シII-7
工藤 知哉	P3E-9	小林 真	自シI-72,P1B-1	佐々木浩江	P2E-9
工藤 真生	P3A-35	小林 優子	自シI-5,P1F-10	佐々木竜太	P3A-11,P3A-12
國本 真吾	自シII-23,自シII-25	小林 洋子	P3F-20	佐々木琉奈	P1A-37
久野 建夫	P2B-7	小林 洋司	自シI-18	笹田 哲	教育講演2
窪崎 泰紀	自シI-56	小林利恵子	P1A-7,P1A-8	笹田夕美子	自シII-17
久保 愛恵	P1D-16,P1F-9	五味 修	P1B-10	笹原 未来	自シI-30,自シI-75
久保山茂樹	自シII-30	小峯 惣太	自シI-63		

笹原 雄介	自シI-32,自シI-39, P1A-16	霜田 浩信	自シI-38,自シII-8, P1E-21	【夕】	
笹目 友香	P1F-1,P1F-14,P1F-15, P3C-18	下中村 武	自シI-56,P2F-9	高木 悠衣	P3C-30
笹森 洋樹	P1B-13,P3E-6,P3E-8	下山 真衣	自シI-3,自シII-13, P1C-15,P2A-25	高津 梓	自シII-10,P2A-23, P2E-10
佐治信一郎	P3A-4	勝二 博亮	学企シ2,教育講演9, P1D-16,P1F-9	高取 千佳	P3A-35
佐島 毅	実践WS,自シI-71, P2D-3,P2D-20	庄司 和史	自シII-4	高野 聡子	自シI-63
佐竹 真次	自シII-18	白澤 麻弓	自シI-56,P2F-5,P2F-7, P2F-8,P3F-21	高野美由紀	P2A-16,P2A-17
佐田久真貴	P3C-25	城田 和晃	自シI-32,自シI-62	高野 陽介	自シI-30,自シI-37, P1E-20,P2C-6
左藤 敦子	自シII-4	城間 園子	P2E-20,P2E-21	高橋 潔	P2C-28
佐藤 克敏	自シI-71	新海 晃	学企シ2,受賞者講演, 自シII-3,P1F-5,P1F-6, P3B-8	高橋 甲介	自シII-33,P2C-24
佐藤 剛介	自シII-29			高橋 幸子	P2B-28
佐藤 駿一	P1B-23			高橋 智	学企シ3,P1A-38, P2B-19,P2B-24,P3B- 35,P3F-9
佐藤 晋治	P3E-3				
佐藤 貴宣	自シI-1	神宮寺 悠	自シII-18	高橋 三郎	自シI-11
佐藤 利正	自シI-55	真見 圭子	自シI-66	高橋 知也	P3C-7
佐藤 知洋	自シII-10,P1D-11, P2E-10,P2E-11			高橋 伸幸	自シI-31
		【ス】		高橋 眞琴	P1C-1,P2F-13
佐藤 真希	P1D-14	末永 統	P2C-15	高橋 幹則	自シI-53
佐藤真智子	自シI-5	末永多香光	P2D-15	高橋美由貴	自シI-2
佐藤 義竹	自シII-10,P1D-11, P2E-11	末吉 彩香	自シII-20,P1C-36	高橋 祐貴	P1D-6
		菅井 裕行	自シI-75,P2B-12	高橋 良育	自シII-5
佐藤亮太郎	P1D-13	菅井みちる	自シI-41	高浜 浩二	P3C-24
佐野 智子	P1F-11	菅井 裕行	自シI-4	田上 幸太	P1D-11,P2A-23, P2E-10,P2E-11
左振 恵子	自シI-41,自シII-1, P2D-5	菅原 宏樹	自シII-5,自シII-8		
		菅原 充範	自シII-4	高柳 優子	自シI-40
澤江 幸則	自シI-49,自シI-59	杉田 葉子	P1A-34,P1D-11,P2E-11	瀧尾 陽太	P3F-3,P3F-4
佐脇由佳子	P3C-28	杉中 拓央	自シI-44,P1F-2	滝川 国芳	教育講演7,自シI-63
澤崎 陽彦	P3B-7	鈴木 恵太	P1C-30	滝坂 信一	自シI-19
澤 隆史	受賞者講演,P1F-5, P1F-6,P3B-8	鈴木 浩太	自シI-46	滝澤 健	P2A-1
		鈴木 大輔	P3C-12,P3C-13	滝島 真優	P2B-6
澤田 隆視	自シII-28	鈴木 徹	P2A-8	瀧田美紀子	自シII-24
澤田 真弓	自シI-61	鈴木 暢子	P1B-16	滝吉美知香	P3C-12,P3C-13
澤本 佳江	P1A-34	鈴木 規子	自シI-54	田熊 立	自シI-29
三益 亜美	P1B-6,P1B-9,P1D-22	鈴木 潜	自シII-7	武居 渡	P2F-2
三瓶 夏希	P2E-6	鈴木美枝子	P2B-25	竹内 嘉恵	P1B-10
		鈴木 保巳	自シII-33	竹内 康二	自シI-40,P1B-12
【シ】		鈴木 悠介	P3A-19	竹内 理恵	P1A-7,P1A-8
塩田 順子	自シI-25	鈴木 祥隆	P2B-23,P2D-21,P3B-11	竹尾 勇太	P2A-26
塩津 裕康	自シI-67	鈴木 若那	P1C-22	武田 篤	P3A-30
志鎌 知弘	自シI-53	須藤 邦彦	自シI-7,P3B-20	竹田 一則	P1C-36,P1C-37
重松 弘	学企シ1	諏方 智広	自シI-13,P2B-6,P3C-5	竹田 周平	自シII-29
宍戸 和枝	自シI-36	諏訪 肇	P1B-19,P3A-25	武田 鉄郎	自シI-30,P1C-29
宍戸 和成	自シI-68			竹田 智之	自シI-10,自シI-37
司城紀代美	自シII-31,P2B-31, P3B-6	【セ】		武富 博文	自シI-14,P3A-6
		清 圭介	自シI-39,P1A-16	竹中 正彦	P1A-20
篠崎 友誉	自シI-65	関口あさか	自シI-45,P2E-14	武部 綾子	P3D-6
篠田 晴男	自シII-19	関口 薫	自シI-24	武村 知保	P2A-28
篠原 直子	自シII-30	関口 貴之	P1C-6	竹村 洋子	P1B-13,P3E-7
柴垣 登	P1E-8	関戸 英紀	自シII-18,P2C-12	竹森 亜美	P3C-3
芝崎 文子	P3C-15	関戸 美音	P3E-19	田実 潔	P1E-11
芝崎 悦子	P1B-3	関原 真紀	P3B-1,P3B-2	立花 秀斗	P3F-17
柴田 保之	自シI-4	関 由起子	自シI-74	立田 祐子	自シI-23
嶋崎まゆみ	P3B-26,P3C-26	関 優美	P3C-14	立石 宣暁	P1A-31
島 尚平	P1A-34	瀬戸希津奈	P3C-38	立石 力斗	P2A-3
島田 博祐	自シI-64	瀬戸山 悠	P1B-20	田中 敦士	P2E-9
島田 恭仁	P1C-18	瀬戸脇正勝	P1A-9	田中 栄一	自シII-14
嶋野 隆文	自シI-36,自シI-74, P1A-28,P1A-29	千賀 愛	P3A-36	田中 恭子	学企シ3
				田中 浩二	自シI-70,P2B-16
清水 謙二	P3B-12	【ソ】		田中孝志郎	自シI-62
志村 健一	自シI-63	曾根 一輝	P2F-3	田中 淳一	P1C-1,P2F-13
志村 美和	自シI-18	園山 繁樹	自シII-16	田中 翔大	P2A-23,P2E-10
下川 和洋	自シI-66			田中 雅子	自シI-19,P3E-13

田中 円華	P2D-16	土屋 忠之	自シI-36,自シI-57,	永田 彰子	P2C-1
田中 真理	自シII-20,P1C-32, P1C-37,P2F-9,P3B-9, P3C-12,P3C-13,P3E-16, P3E-17,P3E-18	土谷 充章	P3E-6	永田 真吾	P3A-18
田中 美紀	自シI-44,P3A-29	土谷 良巳	P1C-34	中田 正敏	準委企シ
田中 裕一	自シI-67	土谷 駿次郎	自シI-75	中西 郁	自シI-50
田中 右美	P3E-19	鶴田 絢子	P1A-18	中西 史	自シI-26
田中 佑里恵	P2C-26	鶴巻 正子	P2A-29	中西 美裕	P1B-23
田中 善大	自シI-29	【テ】		中西 裕子	P1C-1,P2F-13
田中 良広	自シI-41,自シI-61	出口 和宏	P2C-18,P2C-19	中西 雄飛	P2D-3,P2D-20
田中 亮	P2C-2,P3C-38,P3D-15	手塚 清	自シII-4	長沼 俊夫	自シI-35
田中 良三	自シI-54	手塚 史人	P2E-15	中野 聡子	自シII-3
棚田 千尋	P2C-22	手塚 亜希子	自シI-74	中野 芽生	P1E-5
谷川 明香	P3B-4	手塚 千尋	P2D-24	中野 泰志	自シI-61,P2D-12
谷口 由佳	自シII-1	手塚 浩	自シI-12	中野 泰伺	自シII-19,P3C-1
谷口 良太	自シI-29	寺門 宏倫	自シII-25	仲 久徳	P3B-30
谷村 佳則	P3D-20	寺田 信一	自シII-33,P1E-5	中村 しおり	自シI-10
谷村 葵子	P3A-13	寺谷 直輝	自シI-18,自シI-54	中村 晋	自シII-28,P1A-24
田原 洋明	P1A-2	寺本 淳志	自シII-15,P3D-17	中村 貴志	自シI-68,P1B-7, P2D-16
田原 敬	P1D-16,P1F-9,P1F-12	照井 純子	P3E-7	中村 信雄	自シI-10
田部 絢子	学企シ3,P1A-38, P2B-19,P2B-24,P3B- 35,P3F-9	【ト】		中村 洋士	自シI-74
玉木実希子	P1E-13,P1E-14	東城 恵	P2F-3	中村 美結	P3B-24,P3B-25
玉木 宗久	P1B-13	藤 美帆	自シI-34	中村 保和	自シI-75
田丸 秋穂	自シI-17	堂山 亜希	自シI-3,P2A-25	中村 里津子	P3E-3
田村康二朗	P2B-26,P2C-7	遠矢 浩一	受賞者講演,P3B-27	中村 理美	P1C-19
爲川 雄二	自シI-31	遠山裕一郎	P1A-26	永谷 しず江	P3D-21
丹沢 茂樹	P2E-1	徳田 克己	P2D-23,P3B-31, P3B-32	永山 宏平	自シII-7
丹治 敬之	P1D-15,P1D-19,P3C-34	徳田 朋子	自シI-21,P2E-19	中山 忠政	P2B-11
丹所 忍	自シI-47	徳永 亜希雄	自シI-70,P2B-16, P2E-5	中山 雄介	自シI-67
丹野 傑史	自シI-1,P2D-21	徳永 頼	P3F-22	名古屋 恒彦	自シII-5
【チ】		刀禰 豊	P2D-22	名取 幸恵	自シII-5
千明亜由美	P1A-11	冨澤佳代子	P2E-16	名執 宗彦	準委企シ
竹林地 毅	自シI-16,自シI-26, 自シI-58	冨田 享子	P2C-15	滑川 典宏	自シI-22
千葉 聡子	自シI-21,P2E-19	冨山 芽衣	P2A-18	名雪 美沙	自シI-48
張 好延	P1F-3	戸谷 健史	自シI-3,自シI-33, 自シI-69	【ニ】	
張 凱琪	P2D-17	豊島 勝昭	教育講演3	新井田孝裕	P3B-28
趙 彦媿	P3C-29	【ナ】		新妻翔太郎	P1A-35,P3A-31
長南 浩人	自シII-2,P3F-5	内藤 千尋	P1A-38,P2B-19, P2B-24,P3B-35,P3F-9	新津 雪乃	P2C-5
鄭 仁豪	P1F-8,P2F-22,P1F-7, P2F-15,P2F-18,P2F-20, P3F-12	永井 友幸	自シII-20,P3B-9	西浦 修平	P1D-4,P2E-3
陳 玉欣	P2B-30	長井 奈月	P2C-18	西川 崇	自シI-53
陳 宣伶	P3B-21	永井 伸幸	P1A-30,P1C-16	西木貴美子	自シI-43
【ツ】		永井 祐也	自シI-30,P3C-6	西島沙和子	自シI-8
柘植 香穂	P1D-23,P3F-19	中内 麻美	P1B-18	西館 有沙	P3B-34
柘植 雅義	P1B-6,P3B-21,P3C-10	中尾健一郎	自シI-48	西館 裕明	実践WS
柘植 美文	自シI-20,自シI-55, P1A-26,P1A-28, P1A-29	中尾健太郎	自シI-51,P3D-9	西 知美	P2A-19
辻 志乃布	P3B-16	中川恵乃久	P1D-9	西端 律子	自シI-31
辻田 那月	P2C-23,P2C-25	中川留美子	自シII-26	西牧 桂	自シI-65
辻 直美	自シI-16,自シI-58, 自シI-70,P2B-26	長崎 龍樹	P2D-8	西牧 謙吾	学企シ3
辻村 実央	P1B-21,P1B-22	長崎 勤	自シI-9,自シII-18	西村 健一	自シI-59,自シI-69
辻村 洋平	自シII-28,P1A-4	長澤 洋信	P2B-33,P3B-22	西村 大介	自シII-33
津田 良介	P3A-36	長澤 真史	自シI-9,自シI-52, P2A-2,P2A-27	西村 崇宏	P1B-13,P3E-6
土田 悠祐	P2F-7	中澤由美子	自シI-47	西 百々加	P3C-21,P3C-22
		中島亜紀子	P2F-5,P2F-6,P2F-8	西山 久子	自シII-20
		中島 彩佳	P3C-19	新田 賢司	P1E-1
		中島 陽	P3F-14	新田 昌広	自シI-64
		永杉 理恵	P1E-15	庭山 和貴	P1C-10
		永瀬 開	P3C-27	【ネ】	
				根本 文雄	自シI-20
				【ノ】	
				能田 昴	P1A-38,P2B-19, P2B-24,P3B-35,P3F-9
				野口 晃菜	国際シ,自シI-12



松永 悟	P2C-12	宮本 和輝	P2A-9	山口 美樹	自シI-39,P1A-16
松林 海斗	P3B-6	宮本 聡	P2A-3	山口裕紀子	自シII-10
松見 育子	P1A-32	宮本 昌子	国際シ,自シI-11,P1B-6	山口 遼	P1A-28,P1A-29,P2E-7
松見 和樹	自シI-14,自シI-39, P3A-6	三好 茂樹	P2F-8,P3F-22	山崎 樹	P3C-38
松本 晃	P3A-27	【ム】		山崎慶太郎	P3A-6
松本健太郎	自シI-4,自シI-71	武藤 豊	P1C-9	山崎 敏秀	P1A-11,P3A-20
松本 幸代	P2E-22	棟方 哲弥	自シI-55	山崎 智仁	自シI-45,自シI-59, 自シI-72
松本 末男	自シII-2	宗田 光博	P3F-6	山崎 真理	P2B-18
松本 敏治	自シII-22	村浦新之助	自シII-7,P1B-4	山下 貴子	P1B-11
松本真利子	自シI-2	村尾 愛美	P1F-5,P2E-24	山下 真由	自シI-48
松本 光央	P2C-19	村上 詩織	P1B-23	山地 康代	自シI-32
松山 沙樹	P2D-18	村上 祐介	自シI-49	山田 綸	P3D-24
間中 崇史	P3A-33	村上 由則	自シII-15	山田 詩織	自シII-32
真鍋 健	自シII-5,P1E-1,P3E-3	村上 理絵	P2A-22	山田 毅	P3E-3
真部 信吾	自シI-15,自シI-55, P1A-28,P1A-29	村瀬 忍	P2C-10,P3C-9	山中 健二	自シII-4
間々田和彦	P2B-23,P3B-11	村田由利子	自シI-52	山中 宏之	自シII-12
丸山 文恵	P3D-1	村中 智彦	P2E-4,P2E-12,P2E-13	山之内 幹	P2E-20,P2E-21
丸山 真幸	自シII-27,P1C-13, P2A-14	【メ】		山室 凱世	P3F-18
【ミ】		銘苺 実土	P1C-7	山本 晃	自シI-5,P2F-22,P3E-6
三浦 光哉	自シI-53,P3A-32	【モ】		山本元 薫	自シI-32,自シI-62, 自シI-70,P1A-9, P1A-16,P1A-31,P1A-32
三浦 巧也	実践WS	茂木 一司	P2D-24	山本久美子	自シII-6
三浦 拓也	自シI-21,P2E-19	茂木 成友	自シI-5	山本 健太	P3A-24
三浦 千夏	P1B-13	本杉 直子	P1E-22	山本 淳一	P3C-20
三木由美子	P3D-4	本宮久仁彦	P3A-8	山本 利和	P2D-18
三科 聡子	自シI-4,自シI-47, 自シI-66	本吉 大介	P2B-22	山本 麻衣	自シI-15
三嶋 和也	P1E-12	森川 悟	P1A-36	山本 弥生	P1F-1,P1F-14,P1F-15, P3C-18
水内 樹	P3F-21	森口 哲也	自シII-13	山本 有美	自シI-57
水内 豊和	自シI-27,自シI-45, 自シI-59,P2E-14, P3D-8	森澤 亮介	自シII-10,P2E-10	山森 一希	P1E-17
水野 和代	自シI-54	森下未奈子	P3C-36	梁 洗賑	P1F-3
水野 智美	P2D-23,P3B-31, P3B-32	守 巧	自シII-30	【ユ】	
溝口 大輔	P1A-25	森 つくり	P3E-20	湯浅 哲也	P1F-4,P2F-16,P2F-17
三田地真実	P3B-30	森 まゆ	P2D-9	由井 晶	P2E-4
三橋 翔太	P2A-24	森本 章	P2A-4	由谷るみ子	P1E-3
皆川 泰代	P3C-20	森本 明	P2F-3	【ヨ】	
南 晴香	P3E-16,P3E-17,P3E-18	森本 朝子	P2D-3,P2D-20	楊 鈺倩	P1D-22
峰 あやめ	P3F-15	森本 晃介	P1C-33	楊 子驍	P2B-21
三原 彰夫	P1D-10	森山 貴史	自シI-57	横尾 俊	P1A-28,P1A-29
三平 元	自シI-13	森脇 愛子	自シII-29	横倉 久	P1A-28,P1A-29
宮内 久絵	P2D-4	諸星 奏希	P1B-5	横田 祥	自シI-63
宮 一志	自シI-28	【ヤ】		横田 晋務	自シII-20,P1C-36, P1C-37,P2F-9,P3B-9
宮川 拓人	P3C-10	八重田 淳	P1A-39	横田千賀子	P2E-17
宮木 秀雄	自シI-7,P2A-15, P2A-18	矢島 総一	P1C-35	横堀 壮昭	P1A-36
宮崎 亜紀	自シI-60	八島 猛	自シII-15	横山 由季	P2A-12
宮崎 眞	自シII-18	安岡 知美	P3A-20	吉井 勤人	自シI-9,自シI-52, P2A-4,P2A-11,P2A-27
宮崎 美江	自シI-28	柳澤亜希子	P3C-37	吉井 涼	自シII-34,P3D-3
宮崎 光明	自シI-28,P1E-2	柳本 雄次	自シI-43	吉岡 尚美	自シI-49,P3F-6
宮崎 善郎	自シI-41,P1A-19, P2D-1	矢野川祥典	P2C-20	吉川 知夫	自シI-68,P3E-7
宮澤 聡	自シI-69	矢野 善教	P2B-1,P2B-2,P2B-3	吉田 崇	P1B-19
宮地弘一郎	P1A-25,P3D-1	矢作 聡子	自シII-26	吉田奈々子	P2A-15,P2A-18
宮下 恵子	自シII-2	藪 一之	自シI-18	吉田 未来	P2F-5,P2F-8
宮島 崇	自シI-69	藪中 良彦	P1A-7,P1A-8	吉田 道広	自シI-8
宮田 桃佳	P2D-3,P2D-20	山内 俊久	P3A-28	吉田 光伸	P3D-5
宮野 雄太	自シI-51,P1A-39	山垣 雄大	P3A-21	吉田 ゆり	自シII-33,P1C-32
宮林 一葉	P2E-10	山川 直孝	P3E-2	吉田 和市	自シI-74
		八卷 素子	自シI-62	吉福 啓	P3B-24,P3B-25
		山口明乙香	P2B-9	吉松 靖文	P3F-7,P3F-19
		山口 昂子	P3A-16		
		山口 哲平	P3A-14		
		山口 徹	自シI-36		
		山口真佐子	自シI-65		

吉村 優子 P3C-29  
 四日市 章 教育講演6  
 米田 宏樹 学企シ2,自シII-10,  
 P1A-24,P1B-6,P1D-12,  
 P1D-22,P3D-22  
 米山 文雄 P2F-3

【リ】

李 彩環 P1B-12  
 劉 錡洋 P1D-20  
 劉 李双 P2F-17

【ロ】

呂 曉彤 P3B-19

【ワ】

若井広太郎 自シI-6,自シI-52,  
 P3E-3  
 若月 暁 自シI-22  
 若月 芳浩 自シII-30  
 若林 上総 PIC-28  
 若林くもる P2E-8  
 若山 恵 自シII-16  
 脇 貴典 自シII-19,P1C-36,  
 P1C-37  
 脇中起余子 自シII-2  
 脇浜 幸則 P3E-16,P3E-17,P3E-18  
 和久田高之 自シI-17,P3D-8  
 和田多香子 P1C-13  
 和田 恒彦 P2D-7  
 渡部 昭男 自シII-23,自シII-25  
 渡部 杏菜 P3F-5  
 渡邊 孝継 P3C-4  
 渡邊 貴裕 自シII-9  
 渡部 匡隆 準委企シ,P2B-18  
 渡邊 正人 自シI-24,自シI-41,  
 P3D-9,P3D-10,P3D-11,  
 P3D-12  
 渡邊流理也 P3D-24  
 綿引 清勝 自シI-64  
 和田 恵 P3C-23

KarenParish 国際シ  
 HegeMereteSomby 国際シ  
 NAEEMYMOHAMMADIDREES  
 P3D-22  
 POV Sokunrith P1D-17  
 TRIGO-CLAPÉS AnaLaura 自シII-31,  
 P2B-31

# 日本特殊教育学会第61回大会 賛助団体御芳名

## 主 催

日本特殊教育学会第61回大会 準備委員会

## 共 催

一般社団法人 日本特殊教育学会

## 後 援

文部科学省

神奈川県教育委員会

横浜市教育委員会

川崎市教育委員会

相模原市教育委員会

## 広 告

株式会社アローウィン

株式会社エスコアール

株式会社学苑社

株式会社風間書房

株式会社北大路書房

慶応義塾大学出版社

株式会社 建帛社

サクセス・ベル株式会社

株式会社ジアース教育新社

株式会社スペクトラム出版社

中央法規出版株式会社

株式会社図書文化社

株式会社日本文化科学社

公益財団法人 博報堂教育財団

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。  
ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。

2023年7月

日本特殊教育学会第61回大会 準備委員会

委員長 渡部 匡隆（横浜国立大学）

# 一般社団法人日本特殊教育学会 第61回大会 大会準備委員会

委員長 渡部 匡隆 (横浜国立大学)

事務局長 軍司 敦子 (横浜国立大学)

委員 (50音順)

青木 真純 (東京学芸大学)  
泉 真由子 (横浜国立大学)  
神山 努 (横浜国立大学)  
雁丸 新一 (横浜国立大学)  
五島 脩 (横浜国立大学)  
後藤 隆章 (横浜国立大学)  
高野 陽介 (横浜国立大学)  
徳永亜希雄 (横浜国立大学)  
中 知華穂 (横浜国立大学)  
中戸川伸一 (横浜国立大学)  
名執 宗彦 (横浜国立大学)  
宮野 雄太 (横浜市立港南台ひの特別支援学校)

運営協力 (一社) 日本特殊教育学会  
(一社) 日本特殊教育学会 大会支援委員会  
(一社) 日本特殊教育学会 代議員および編集委員  
横浜国立大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 学生  
横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程・学校教育課程 学生 他  
横浜国立大学

## 日本特殊教育学会第 61 回大会プログラム

---

発 行 日 2023 年 8 月  
発 行 者 日本特殊教育学会第 61 回大会準備委員会  
委 員 長 渡部 匡隆

---

# 北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

## インクルーシブ教育ハンドブック

L. フロリアン編著 倉石一郎, 佐藤貴宣, 渋谷 亮, 濱元伸彦, 伊藤 駿監訳 A5上製・864頁・定価13200円 国際的な特別支援教育の名著, ついに邦訳! 多様化する教育的ニーズなどの理論的な問題から, 授業実践や機関間連携などの実践的な課題まで幅広く収録。社会文化的背景をふまえた学際的視座からインクルーシブ教育を捉えなおす。

## 特別支援教育総論 [第2版]

—インクルーシブ時代の理論と実践— 川合紀宗, 若松昭彦, 氏間和仁, 林田真志編著 A5・280頁・定価2530円 特別支援教育の理念・歴史や仕組みを概説。障害のある多様な子どもの理解を深めながら, 教育課程と支援の方法を学ぶ。コアカリキュラムに対応。

## 知的障害児の心理・生理・病理

—エビデンスに基づく特別支援教育のために— 勝二博亮編著 A5・240頁・定価2970円 知的障害の定義やアセスメント, 発生要因, 感覚・認知・学習・運動・言語の特性, 健康上の問題とその対応, さらに, 関連のある発達障害について豊富な図表と共に解説。特別支援に向き合う学生や教員に子どもの行動背景への多角的な視点と配慮を提供する。

## グローバル化とインクルーシブ教育

—通常学級に在籍する発達障害児にも対応した学校・学級経営— 安藤正紀編著 A5・164頁・定価2200円 児童生徒の知覚レベルの実態把握とICT利用, 21世紀型スキルを意識した職業教育, 効果的な教育課程づくり等の視点から, 豊富な実践事例とともに特別支援教育と通常の教育の一体化を推進するヒントを提供。

## ワーキングメモリと発達障害 [原著第2版]

—教師のための実践ガイド— T. P. アロウェイ, R. アロウェイ著 湯澤正通, 湯澤美紀監訳 四六・296頁・定価2750円 学習の基礎となる認知的スキル, ワーキングメモリ。読字障害, 算数障害, 発達性協調運動症, 注意欠如・多動症, 自閉スペクトラム症, 不安症群……障害ごとに支援方法を提案する。

## 障害から始まるイノベーション

—ニーズをシーズにとらえ直す障害学入門— 田中真理, 横田晋務編著 A5・208頁・定価2970円 障害を社会モデルから捉え直し, アクセシビリティを高める支援技術を解説する。さらには福祉社会学や工学, 人類学など様々な専門分野からみたユニバーサルデザインの研究知見を紹介。イノベーション創出のヒントを提供。

## 多職種連携を支える「発達障害」理解

—ASD・ADHDの今を知る旅— 土居裕和, 金井智恵子編著 A5・248頁・定価2640円 ASD・ADHDを中心に, 臨床・支援・研究分野で活躍する執筆陣が, 基礎から最新情報までをイラスト付で平易に解説する。各章に練習問題やグループワークを配し, コラムでは執筆者の体験談や当事者の声も紹介。初学者や分野間連携を志す人に。

## ギフティッド その誤診と重複診断

—心理・医療・教育の現場から— J. T. ウェブ他著 角谷詩織, 榊原洋一監訳 A5・392頁・定価5720円 1つ以上の分野で並外れた才能を示すギフティッド。本書では, 豊富な事例からギフティッドに類似する障害の特性と比較し, 特有の問題や支援の実践を示す。正確な理解に向けた手引きとなる。

### 重症心身障害児の認知発達とその援助

片桐和雄, 小池敏英, 北島善夫著 定価3190円

### 「9歳の壁」を越えるために

脇中起余子著 定価1980円

### LD児の漢字学習とその支援

小池敏英, 雲井未敬, 渡邊健治, 上野一彦編著 定価4400円

### 脳性まひ児の発達支援

木松憲幸著 定価2420円

### 視覚障害児・者の理解と支援 [新版]

芝田裕一著 定価2200円

### ワーキングメモリと発達障害

T. P. アロウェイ著/湯澤美紀, 湯澤正通訳 定価2090円

### 知的障害の心理学

小池敏英, 北島善夫著 定価3080円

### 聴覚障害教育 これまでとこれから

脇中起余子著 定価2530円

### 【三訂】臨床心理アセスメントハンドブック

村上宣寛, 村上千恵子著 定価2970円

# 特別支援教育免許シリーズ

全12巻

【シリーズ監修】 花熊 暁（関西国際大学大学院教授） 荻田 知則（愛媛大学教授）  
 笠井 新一郎（宇高耳鼻咽喉科医院言語聴覚士） 川住 隆一（元 東北福祉大学教授）  
 宇高 二良（宇高耳鼻咽喉科医院院長）

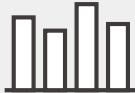
特別支援学校教諭免許取得を目指す人のための初の体系的テキストシリーズ

## ● 2017年告示の教育要領・学習指導要領準拠。

採用者特典



図表データ  
サービス



教科書として20部以上ご採用の場合、採用者特典として図表のデジタルデータをダウンロードいただけます。

第1欄

### 特別支援教育概論

【主な項目】 特別支援教育について 特別支援教育の仕組み 障害のある子どもとのかかわり方 特別支援教育における現代的諸問題

花熊 暁・川住隆一  
 荻田知則 編著  
 B5判・240頁  
 定価3,190円（本体2,900円+税10%）



第2欄

●聴覚障害教育領域

### 聞こえの困難への対応

【主な項目】 聴覚障害教育の概要 生理・病理・心理 聴覚障害児の教育課程・指導法 聴覚障害児者の生涯発達支援

宇高二良・長嶋比奈美  
 加藤哲則 編著  
 B5判・160頁  
 定価2,530円（本体2,300円+税10%）



●視覚障害教育領域

### 見えの困難への対応

【主な項目】 視覚障害教育の概要 心理・生理・病理 教育課程・指導法 生涯発達支援

氏間和仁・永井伸幸  
 荻田知則 編著  
 B5判・272頁  
 定価3,520円（本体3,200円+税10%）



●知的障害教育領域

### 認知機能・知的機能の困難への対応

【主な項目】 認知機能・知的機能の困難の概要 心理・生理・病理 教育課程・指導法 生涯発達支援

笠井新一郎・坂井 聡  
 荻田知則 編著  
 B5判・208頁  
 定価2,860円（本体2,600円+税10%）

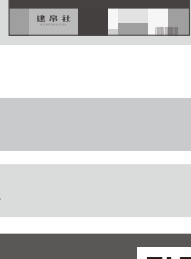


●肢体不自由教育領域

### 運動機能の困難への対応

【主な項目】 肢体不自由教育の概要 生理・病理・心理 肢体不自由児の教育課程・指導法 肢体不自由児者の生涯発達支援

榎木暢子・笠井新一郎  
 花井丈夫 編著  
 B5判・208頁  
 定価2,860円（本体2,600円+税10%）



●病弱教育領域

### 健康面の困難への対応

【主な項目】 病弱教育の概要 心理・生理・病理：子どもの病気 病気の子どもの教育 病弱教育の現代的諸問題

中野広輔・榎木暢子  
 滝川国芳 編著  
 B5判・192頁  
 定価2,750円（本体2,500円+税10%）

第3欄

●重複障害教育領域①

### 複数の困難への対応

【主な項目】 重複障害のある人を理解する視点 重複障害の心理・生理・病理 重複障害の教育課程・指導法 重複障害児者の生涯発達支援

榎木暢子・金森克浩  
 船橋篤彦 編著  
 B5判・160頁  
 定価2,640円（本体2,400円+税10%）

●合理的配慮

### 支援機器を用いた合理的配慮概論

【主な項目】 障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方 困難さに対応した支援機器の活用 支援機器を活用するための制度とリソース

金森克浩・大杉成喜  
 荻田知則 編著  
 B5判・208頁  
 定価2,860円（本体2,600円+税10%）

～以下続刊～

第1欄

「気になる子」をみる・かかわる視点

第3欄

生涯にわたる配慮・支援

ことばの困難への対応

学習と行動上の困難への対応



# LCSA 学齢版 増補版

言語・コミュニケーション発達スケール

大伴潔・林安紀子・橋本創一・池田一成・菅野敦【編著】

● B5 判変形（施行マニュアルと課題図版のセット）  
定価 6820 円（税込）



新刊

増補版では、文法の領域にかかわる課題を追加

「～が～に～する」という行為をする者と受ける者の関係について、助詞と動詞の空欄を補充する課題を新たに追加しました。イラストに描かれた状況を子どもが正しく理解していることを確認してから行うことにより、状況理解の要因を除いた、助詞や助動詞の使用をより適切に評価できるようになりました（課題図版 4 枚、記録用紙 1 ページを追加）。課題内容や手続き、標準化データの変更はありません。サマリーシート作成プログラム「えるしー君」（要 ID・パスワード、学苑社サイトからダウンロード）は引き続き使用できます。



## 教師のための保護者と創る学校「交渉術」読本

インクルーシブな私の教室づくり

有川宏幸【著】 ● A5 判 / 定価 2420 円（税込）

「去年の担任のほうがよかった？」と言われたら…… 「あざとい戦略」とは…… 保護者とうまくやっていく秘訣、ここにあります。

## かんたんにできる発達障害のある子どものリラクゼーションプログラム

高橋真琴【編著】 尾関美和・亀井有美・中村友香・山崎真義【著】

● A5 判 / 定価 2200 円（税込） 動作法、ムーブメント教育など、家庭や学校でできるプログラム。



## 発達障がいといじめ

発達のも多様性に応える予防と介入

小倉正義【編著】 ● A5 判 / 定価 2970 円（税込）

いじめへの「認識と実態」「予防」、そして「介入」までを解説し、子どもたちをいじめから守る方法を探る。

## こんな理由があったんだ！「気になる子」の理解からはじめる発達臨床サポートブック

綿引清勝【著】 イトウハジメ【絵】

● A5 判 / 定価 1870 円（税込）

教育・保育現場や子育てで実践的に活用できるように、つまずきの理解と支援方法が満載。



## 知的障害のある人への心理支援 思春期・青年期におけるメンタルヘルス

下山 真衣【編著】

● A5 判 / 定価 2420 円（税込）

知的障害のある人たちに向けた心理支援に関する知識や考え方をまとめ、具体的なサポート方法を提示する。



## 幼稚園や学校で話せない子どものための場面緘黙支援入門

園山繁樹【著】 ● 四六判 / 定価 1760 円（税込）



## ことばの遅れがある子ども レイトトーカー (LT) の理解と支援

田中裕美子【編著】 遠藤俊介・金屋麻衣【著】

● A5 判 / 定価 2200 円（税込）

新しい研究知見に基づいた捉え方や支援方法を提示。チェックリスト付き。

新刊

## 聞こえ方は、いろいろ 片耳難聴 Q&A

岡野由実【著】

● A5 判 / 定価 1760 円（税込）

いつも聞こえないわけじゃない、でも「片耳聞こえるから大丈夫でしょ」と思われたくない……片耳難聴を知るための 1 冊。



新刊

## 発達の気になる子ども 楽しく学べるグループ課題 69

幼児の社会性とことばの発達を促す教材集

宇賀神り子・吉野一子【著】

● A5 判 / 定価 2200 円（税込）

わかりやすい仕組みと保護者も含めた大人の関わりによって、子どもが意欲的に参加し、学ぶことができる 69 の課題をまとめた。



新刊



## ことばの教室でできる吃音のグループ学習実践ガイド

石田修・飯村大智【著】

● B5 判 / 定価 2090 円（税込）

吃音指導におけることばの教室の強みの 1 つである「グループ学習」は、個別指導での学びを深め進化させる力がある。

## もう迷わない！ ことばの教室の吃音指導 今すぐ使えるワークシート付き

菊池良和【編著】 高橋三郎・仲野里香【著】

● B5 判 / 定価 2530 円（税込）

医師、教師、言語聴覚士が、吃音症状へのアプローチから困る場面での対応までを幅広く紹介。



## 言語・思考・感性の発達からみた聴覚障害児の指導方法

豊かな言葉で確かに考え、温かい心で感じる力を育てる

長南浩人【著】 ● A5 判 / 定価 2420 円（税込）

聴覚障害児の育ちの姿を心理学的に検討し、実践的な指導方法を紹介する。



## 特別支援学校 教育実習ガイドブック

インクルーシブ教育時代の教員養成を目指して

遠藤愛・宇田川和久・高橋幸子【編著】

● B5 判 / 定価 2420 円（税込）



特別支援教育図書

学苑社

Tel 03-3263-3817

Fax 03-3263-2410

〒 102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2

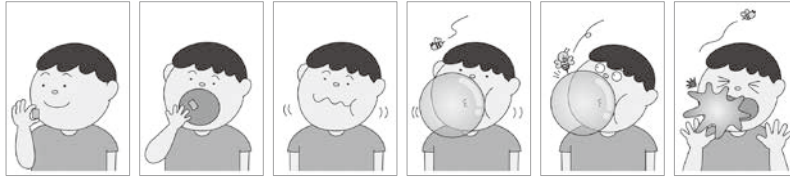
E-mail: info@gakuensha.co.jp https://www.gakuensha.co.jp/

# 配列絵カード じゅんばんわかるかな？

作：ありんこあり

話の前後関係を  
読み取る力

出来事を  
時系列で話す力



注意して問題に  
取り組む力

表情から感情を  
読み取る力  
……を育てます！

6枚の場面に順序づけをし、ひとつの物語を完成させる教材です。難しい場合は枚数を減らして進めても良いです。どんなお話になったかを説明したり、登場人物の気持ちやセリフを考えたりすることで、楽しみながらコミュニケーション能力を養えます。

ありさんレベル (やさしい) B7サイズ 90枚(6枚1組×15種) **3,850円**(10%税込)

ぞうさんレベル (むずかしい) B7サイズ 90枚(6枚1組×15種) **3,850円**(10%税込)

セットでお得！ / ありさん・ぞうさんセット **7,480円**(10%税込)

# いっしょに探そう 心のモヤモヤ解決シート

作：ありんこあり

モヤモヤ → スッキリ ☆

お子さんが学校生活や家庭において、何かモヤモヤとする不安を抱えたときに自分の心や体の状態を客観的に理解し、自分に合った解決方法を見つけ出せるようにするためのサポート教材です。モヤモヤを書き込み、カードを配置していきながらスッキリするための方法をお子さん自身で探し出すことを大切にします。



- ・モヤモヤカード 42枚
  - ・スッキリカード 30枚
  - ・白紙カード 10枚 ◆カードは全て名刺サイズです。
  - ・解決シート (モヤモヤシート・スッキリシート 各1枚 (A4サイズ))
  - ・書き込み用紙 2枚 (A4サイズ)
  - ・説明書
  - ・保管用ケース
- 2,420円**(10%税込)



# ソーシャルスキルトレーニング絵カード

編著：ことばと発達の学習室 M

26種類好評発売中

自閉症スペクトラム・ADHDなどの対人関係や社会性に弱さを持つ子のソーシャルスキル獲得を目的とした絵カードです。豊富なシリーズ展開で、就学前～中高生と幅広い年齢場面に対応しています。また危険回避、ルール、対人についてなど必要なテーマを選ぶことができます。

音声ペン対応 (音声ペン対応：幼年版4～8・小学生版シリーズ) **各4,180円**(10%税込)

場面・状況に  
ふさわしい行動

身近な  
出来事の意味

相手の気持ち



……などを楽しく学べます！

# 改訂版 じゃんけん発音カード

企画・監修：鈴木和子 音声ペン対応

カード44枚(名刺サイズ) / すごろくの台紙1枚 / すごろくのコマ6枚 / 使い方の手引き / 保管用PPケース



# すうじ発音カード

企画・監修：鈴木和子 音声ペン対応

カード67枚(名刺サイズ) / すごろくの台紙1枚 / すごろくのコマ6枚 / 使い方の手引き / 保管用PPケース



今まで難しかった無意味音の発音練習を楽しく行うことができます。「すうじ発音カード」と「じゃんけん発音カード」では全てイラストが異なり、併せて使用することで練習音の選択肢が広がります。同梱のすごろくで遊びながらの練習も可能です。

**各1,980円**(10%税込)

## RPMで自己刺激行動と問題行動に対処する

著：ソマ・ムコバディアイ 訳：鈴木麻子 十河和代

B5判 174頁 **2,090円**(10%税込)

レッスン中の「自己刺激や衝動、こだわり」などの問題行動にはどう対処するのが望ましいか、教育にどのように生かすのかに焦点を当てました。

## 発達障害のある人とのコミュニケーションに役立つコミュニケーションパートナーハンドブック

編著：佐竹恒夫 倉井成子 東江浩美 B5判 212頁 **2,970円**(10%税込)

支援の基本をおさえながら、日頃の関わりやコミュニケーション支援に活用できます。発達・障害・コミュニケーションを理解するための視点や知識、普段から使える効果的な工夫について、いろいろな場面での支援の方法を具体例をあげながら解説しています。

## 音声ペン (ActVoicePen)

アクトボイスペン

簡単操作で音声を再生、録音！

音声ペンのデモ機貸出実施中！ 詳細はホームページをご覧ください。

自作用シール100枚/ACアダプター付

**9,900円**(10%税込)



「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰

# 博報賞

後援：文部科学省

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。

「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている

学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。

また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行っています。

## 活動領域

「国語・日本語・ことばの育成に関わる教育実践」と、「特別な配慮や多様なニーズのある子どものコミュニケーション活動を支援する教育実践」を軸に、以下の幅広い領域を対象としています。

- 国語教育
- 特別支援教育
- 国際文化・多文化共生教育
- 日本語教育
- 日本文化・ふるさと共創教育
- 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動

## 賞の内容

- 文部科学大臣賞 博報賞受賞者の中で特に優れた活動へ贈呈されます。
- 博報賞 正賞 賞状  
副賞 100万円(15件前後)
- 功労賞 正賞 賞状  
副賞 50万円
- 奨励賞 正賞 賞状  
副賞 30万円

## スケジュール

- 応募受付期間 4月～6月末
- 審査会 7月～9月
- 受賞者発表 10月
- 贈呈式 11月

※応募には、推薦者資格を有する第三者による「推薦」が必須です。

## 審査委員

※五十音順(審査委員長除く)/敬称略

成田 信子 審査委員長/國學院大學 教授  
安部 朋世 千葉大学 教授  
伊藤亜希子 福岡大学 教授  
岩瀧 大樹 立教大学 教授  
東風 安生 横浜商科大学 教授

齋藤 博伸 文部科学省 教科調査官  
佐久間亜紀 慶應義塾大学 教授  
滝川 国芳 京都女子大学 教授  
山元 隆春 広島大学大学院 教授  
渡部 匡隆 横浜国立大学大学院 教授

## お問い合わせ先

公益財団法人博報堂教育財団博報賞担当  
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階  
TEL(代表)：03-6206-6266 (平日9:30～17:30)  
E-mail：hakuhouhou@hakuhodo.co.jp

主催：公益財団法人博報堂教育財団



詳細は、当財団ホームページや  
応募要項をご覧ください。

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

第19回

# 児童教育実践 についての 研究助成

応募受付期間



2023.7.3 Mon. ▶ 10.31 Tue.

ことば、まなび、おうえん



## 助成期間

2024年4月1日から1年間または2年間  
※2ヵ年助成の場合は1年経過時に中間報告の必要があります。

## 対象となる研究

- 「ことばの力」を育む研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

## 応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者
- 日本の学校・教育委員会に所属する教育実践に携わる方

※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です。

## 助成金額

1ヵ年助成：1件につき200万円を限度に助成します  
2ヵ年助成：1件につき300万円を限度に助成します

## 審査委員

米田 英嗣 青山学院大学 教授  
針生 悦子 東京大学大学院 教授  
藤野 博 東京学芸大学大学院 教授  
藤森 裕治 文教大学 教授（審査委員長）  
横山 詔一 国立国語研究所 教授  
(五十音順)



Webにて応募受付、詳しくは  
博報堂教育財団ホームページをご覧ください  
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266 FAX:03-6206-6582

チーム学校を実現する 3部作

新版 石隈・田村式援助シートによる  
**チーム援助入門**

学校心理学・実践編

シートに記入するだけで援助が進む。  
1次から3次支援まで。公認心理師必携。



定価 2,750 円 (税込)

石隈・田村式援助シートによる  
**子ども参加型  
チーム援助**

インフォームドコンセントを超えて

これからの援助の形。  
合理的配慮が求められる時代に。



定価 2,200 円 (税込)

石隈・田村式援助シートによる  
**実践チーム援助  
特別支援教育編**

特別支援教育コーディネーター必携。  
援助案の具体例が満載。

石隈利紀・田村節子 著



定価 2,640 円 (税込)

特別支援教育の本



**心理検査のフィードバック**

「長所活用型指導」に基づく、  
自分の強みがわかるフィードバックとは

藤田和弘・熊谷恵子 監修  
熊上 崇・星井純子・熊上藤子 編著

定価 3,080 円 (税込)

**「継次処理」と「同時処理」  
学び方の2つのタイプ**

認知処理スタイルを生かして  
得意な学び方を身につける

藤田和弘 著 定価 2,420 円 (税込)



**ADHDのコーチング**

—実行機能へのアプローチ—

「わかっていても、やる気が出ない、続かない」  
への対応策

熊谷恵子 監修 安藤瑞徳 著

定価 2,420 円 (税込)

教室でできる  
**特別支援教育のアイデア**

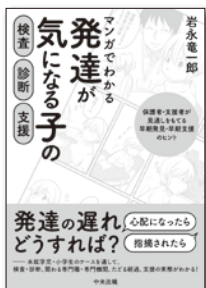
月森久江 編 小学校編 定価 2,640 円 (税込)  
小学校編 Part2 定価 2,640 円 (税込)  
中学校編 定価 2,860 円 (税込)  
中学・高等学校編 定価 2,860 円 (税込)



〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519



マンガでわかる  
**発達が気になる子の  
検査 診断 支援**

保護者・支援者が見通しをもてる  
早期発見・早期支援のヒント

●岩永竜一郎=著  
●定価 2,200 円 (税込) ●A5判・192 頁  
●2023 年 5 月発行 ISBN978-4-8058-8883-4

発達が気になる子が支援につながるまでの検査・診断等の一連の流れをマンガで解説。就学前と小学校低学年の2つの事例を用いて、利用できる専門機関や支援と治療について丁寧に示した。



**発達障害の  
ペアレント・  
トレーニング 簡易版**

プログラムの進め方と運営のコツ

●中田洋二郎=著  
●定価 2,200 円 (税込) ●B5判・152 頁  
●2023 年 4 月発行 ISBN978-4-8058-8829-2

発達障害のある子どもの親が、子どもへの適切なかわり方を身につける「ペアレント・トレーニング」。通常全 10 回のプログラムを全 6 回に凝縮した「簡易版」の詳細な進め方と運営のコツがわかる。



TEACCHプログラムに基づく  
**自閉症・知的障害児・者のための  
自立課題アイデア集**

目的別に選べる102例 **第2集**

●諏訪利明=監修/林 大輔=著  
●定価 2,640 円 (税込) ●B5判・152 頁  
●2023 年 4 月発行 ISBN978-4-8058-8849-0

身近で手軽な素材を使った「自立課題」を紹介した大好評書の第2弾！  
ねらい別に多数の課題を掲載し、個性性に応じたかわりができる。  
制作ポイントを示したWEB動画付き。よくある疑問もQ&Aで収載。



**「共感」からはじめる  
発達障害のある  
子どもの支援**

教室における行動・情緒の問題を  
解決する6つのステップ

●植木田潤=著  
●定価 2,420 円 (税込) ●B5判・約 180 頁  
●2023 年 8 月発行予定 ISBN978-4-8058-8928-2

教室で起こる、発達障害の子どもの暴言・暴力、パニック。その裏にある情緒の問題を読み解き、子どもに共感することからはじめる支援を解説。様々な要因が絡むリアルな事例でわかりやすく学べる。



東京都台東区台東 3-29-1  
TEL.03-6387-3196 (代表)

<https://www.chuohoki.co.jp/>

Facebookで最新情報を発信します！  
中央法規出版 保育・教育分野



# FOR SPECIALIST



私たちは  
心理テストの「総合代理店」  
お電話一本、メール一本で  
国内・国外の専門団体に  
著名な心理テストを  
瀬戸内海から

360日稼働で、お届けしています。

(見積り～予算組みも迅速対応。益々、ベルをご利用下さい。)



全省庁統一資格 : 0000121354

●代表的 心理検査ツール

WISC・WAIS・TEG・POMS・CAARS・SDS・PF・MMPI・YG・KABC・SLTA・  
BAD5・BIT・箱庭用具 ～ (正規代理店)

●代表的 ご利用ユーザー

公認心理師・精神科医師・臨床心理士・言語聴覚士・人事担当者・養護教諭・  
スクールカウンセラー ～

●代表的 ご利用団体

クリニック・医療団体～大学・特別支援団体・教育センター・教育委員会・  
矯正施設・自治体・自衛隊・海外日本人学校・国内外企業 ～

●代表的 心理検査専門出版社

(株)日本文化科学社・(株)三京房・(株)新興医学出版社・(株)金子書房・(社)雇用問題研究会・  
(株)クリエイションアカデミー ～ 多数の専門出版社

**SUCCESS・BELL**

サクセス・ベル株式会社

[www.success55.co.jp](http://www.success55.co.jp)

Mail ■ [jp-bell@success55.co.jp](mailto:jp-bell@success55.co.jp)

TEL ■ 0823-45-5555

FAX ■ 0823-45-3535

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川3642-1

## 教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

文化的・言語的に多様な子ども(CLD児)支援のためのガイドブック

—日本語教育と特別支援教育の統合をめざして—

鈴木ゆみ編著

1870円

発達障害児者の母親の成長とその支援

辻 あゆみ著

4180円

先天全盲児者の運動イメージ生成指導法と評価法の開発

百瀬容美子著

6600円

濃尾震災(1891年)における子ども救済と特別教育史研究

能田 昂著

7700円

発達障害当事者の睡眠困難と発達支援の研究

柴田真緒・高橋 智著

8800円

発達障害等の子どもの食の困難と発達支援

田部絢子・高橋 智著

8800円

日本語を母語とする特異的言語発達障害児の言語特徴

村尾 愛美著

4950円

発達検査課題の認知的要因の分析

清水 里美著

5500円

子どもの社会的行動のアセスメント

—早期発見と支援に生かせる乳幼児健診でのまご遊び— (DVD付)

神尾陽子監修/別府悦子・宮本正一編著

2970円

思春期の注意欠如・多動傾向と情緒の問題に関する心理学的研究

齊藤 彩著

6050円

戦前の東京市の初等教育と「特別な教育的配慮・対応」の研究

石井 智也著

8250円

特別支援学校におけるICFの活用に関する研究

清水 浩著

8800円

インクルーシブデザイン・コラボレーションの可能性

池田千登勢著

7480円

発達障害等を持つ非行少年と発達支援の研究

内藤 千尋著

7700円

近江学園・びわこ学園における重症児者の「発達保障」

垂髪あかり著

8250円

知的障害を伴わない発達障害児・者のきょうだいの体験に関する研究

大瀧 玲子著

11000円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34  
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>  
メールアドレス [pub@kazamashobo.co.jp](mailto:pub@kazamashobo.co.jp)

保育・指導要録のための発達評価シート

# TASP

Transitional Assessment Sheet for Preschoolers

保育・指導要録のための発達評価シート開発チーム  
監修者 辻井 正次 開発責任者 伊藤 大幸 開発副責任者 浜田 恵

子どもの発達(障害)チェックに不可欠な7領域



■ **TASP(タasp)って?** TASPは、保育園・幼稚園・認定こども園の「要録」作成の際に、**客観的な基準で子どもの発達を評価できるシート**です。 **大好評**

■ **客観的な発達の評価とは?** TASPは、保育現場に最適化した評価シートとして広く使われていただけるように、開発チームによってまとめられたものです。就学前に見られた子どもの発達の特徴と就学後の不適応の関連について、**10年に渡って4000名以上の子どもたちを、保育園から中学校まで追跡調査**しました。こうした大規模な調査によって、**一般的な子どもの特徴と比べて、対象となる子どもがどのくらい発達し、どのような支援が必要か、チェックすることが可能**となりました。TASPは、従来の保育士・幼稚園教諭の文章による記述と併せることで、**より客観的に子どもの発達を評価できるツール**です。

■ **簡単! TASPの4ステップ**

- ① 対象となる子どもについて、発達で特に着目すべき7つの領域(合計35項目)の質問に答える。
- ② 合計点を出す。
- ③ 学年・生まれ月に合った判定表を見て、その子の各領域の合計点が「標準的水準」「境界水準」「要配慮水準」かを判断する。
- ④ 判定結果シートに結果と、それに関わる子どもの様子を記入する。



領域	標準的水準	境界水準	要配慮水準
落ち着き(体の調節)			
注意力			
社会性			
順応性(ごたわり)			
コミュニケーション			
微細運動			
粗大運動			

TASP 判定結果(一部)

■ **TASPの活用** TASPでは、7つの発達領域だけではなく、**落ち込み・抑うつ**の傾向(内在化問題)、**イライラ・攻撃性**の傾向(外在化問題)、**学業不振**の傾向という、その後の子どもの不適応と関連する指標も得点として算出できます。**次年度の担任や就学先の小学校に引き継ぐことで、子どもの支援計画や小学校での小1プロブレム(学級崩壊等)の予防に役立**てることが可能です。

価格: 解説書5部セット 1650円、記録用紙20部セット 2200円、解説書1部 + 記録用紙20部セット 2530円、別途送料550円(いずれも税込)

スペクトラム出版社 <http://www.spectpub.com>

ご注文は、ホームページにある購入申し込み書をプリントし、ご記入の上、ファックスで03-5682-7157にお送りください。

視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、自閉スペクトラム症教育の「基本と実践」をまとめた特別支援教育テキストの決定版!

## 特別支援教育のエッセンス 〈全5巻〉

宍戸和成・古川勝也・徳永豊【監修】

### 視覚障害教育の基本と実践

小林秀之・澤田真弓【編】 A5判並製/200頁 ISBN978-4-7664-2861-2

定価2,420円

### 聴覚障害教育の基本と実践

宍戸和成・原田公人・庄司美千代【編】 A5判並製/200頁 ISBN978-4-7664-2862-9

定価2,420円

### 知的障害教育の基本と実践

佐藤克敏・武富博文・徳永豊【編】 A5判並製/200頁 ISBN978-4-7664-2863-6

定価2,420円

### 肢体不自由教育の基本と実践

徳永豊・吉川知生・一木薫【編】 A5判並製/200頁 ISBN978-4-7664-2864-3

定価2,420円

### 自閉スペクトラム症教育の基本と実践

(2023年9月発売予定)

齊藤宇開・肥後祥治・徳永豊【編】 A5判並製/200頁 ISBN978-4-7664-2865-0

定価2,420円

慶應義塾大学出版会

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 [価格税込]

<https://www.keio-up.co.jp/> Tel 03-3451-3584 Fax03-3451-3122

ここには映像だからこそわかる生の声があります

特別支援教育のDVDを40タイトル揃えています。詳しくは <http://arowin.net>

## 新・発達障害の理解と支援

企画協力：公益社団法人 日本発達障害連盟

監修：小澤 温 公益社団法人日本発達障害連盟会長  
 日本発達障害学会副理事長 / 筑波大学教授  
 橋本 創一 公益社団法人日本発達障害連盟理事  
 日本発達障害学会副理事長 / 東京学芸大学教授

発達障害の最新の知見を踏まえて、「こういう子いるよね」という具体的な30の事例に対する支援を解説



★2023年秋発売★

本編 (70分) 33,000円  
 短縮版 (15分) 11,000円

## ことばとコミュニケーションの評価と指導

第1巻 ことばを獲得し始めた子ども  
 第2巻 相手を意識してことばを使い始めた子ども

監修：湯汲 英史 (公社) 発達協会 常務理事 / 言語聴覚士  
 本間 慎治 (公社) 発達協会

長年の療育の実績から得られた実効性のある「ことばの獲得」への道筋を紹介します



各巻 19,800円  
 (37分+43分)

## 「気になる子」への支援アプローチ1

### ◆ペアレント・トレーニング

監修：井潤 知美  
 大正大学心理社会学部准教授

子どもの行動を3つに分けて解説します



### ◆ABAトレーニング

監修：加藤 慎吾  
 東京学芸大学教育学部講師

ABAに基づいたABC分析での支援を解説します 定価 27,500円 (22分+16分)



## インクルーシブ保育の実践

～共生社会をめざして～

監修：小山 望 埼玉学園大学大学院心理学研究科教授  
 河合 高鋭 鶴見大学短期大学部保育科准教授

何らかの手助けが必要な子に対して

- 1) 個性を育む
- 2) 別の個性を知る
- 3) 別の個性を認める

この3つの視点から解説します



定価 19,800円 (30分)

## 「気になる子」への支援アプローチ2

### ◆感覚統合

### ◆ホースセラピー

監修・指導：石井 孝弘 帝京科学大学医療科学部教授

「視覚」「聴覚」「触覚」「前庭覚」「固有受容覚」の5つを基礎感覚として考え、その「感覚の統合の不具合」を解消する遊びを子どもがすることを通して、感覚統合を解説します



定価 27,500円  
 (20分+12分)

## 自閉症児の教育と支援

～個性的な姿と対応のポイント～

監修：大伴 潔 東京学芸大学教育実践研究支援センター教授  
 橋本 創一 東京学芸大学教育実践研究支援センター教授

特別支援学校での授業を紹介します

- ・行動のコントロールの支援
- ・認知の支援・過敏さへの支援
- ・視覚的な支援、注意集中に向けた支援・言葉の支援
- ・コミュニケーションの支援



定価 27,500円 (67分)

## 「気になる子」への支援アプローチ3

### ◆DCD(発達性協調運動症)

～運動の不器用さがある子どもへの対応～

監修・指導：東恩納 拓也 東京家政大学健康科学部助教  
 DCDの子どもに対しての具体的な支援を解説します

- 【事例】(1) 姿勢 (2) ダンス  
 (3) 縄跳び (4) ドッジボール  
 (5) 跳び箱 (6) ボタン掛け  
 (7) 書字 (8) 箸 (9) 学用品  
 (10) 集団アプローチ



定価 27,500円 (32分)

## ダウン症の理解と支援

第1巻 ダウン症児の発達  
 第2巻 ダウン症児との付き合い方

各巻 19,800円 (35分+32分)  
 監修：橋本 創一 東京学芸大学教育実践研究支援センター教授

### 第1巻

- (1) ダウン症の原因と特性
- (2) ダウン症児の得意な面
- (3) ダウン症児の苦手な面

### 第2巻

- (1) 言葉 (2) 排泄習慣
- (3) 食事 (4) 体力

- (5) 数字 (6) 行動促進
- (7) 切り替え (8) 発音
- (9) 登校 (10) 動作
- (11) ちょっとした問題行動
- (12) 金銭 (13) 恋愛
- (14) スマートフォン



DVD  
 教材

株式会社 アローウィン

169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-8 大輝ビル 405

tel : 03-5291-6339 fax : 03-3207-0567

URL <http://arowin.net>

e-mail : [contact@arowin.net](mailto:contact@arowin.net)



## 教員・保護者のための 発達障害の薬・治療・教育支援

最新刊

三浦光哉、原田剛志 著  
B5判/144頁/定価2,200円(本体2,000円+税)  
ISBN978-4-86371-663-6  
発達障害の専門医と特別支援教育の専門家である二人の著者に日々寄せられる、困りを抱えた子どもに関するさまざまな悩み・疑問に答える。



## 新時代を生きる力を育む 知的・発達障害のある子の ウェルビーイング教育・支援実践

最新刊

西村健一、水内豊和 編著  
B5判/212頁/定価2,530円(本体2,300円+税)  
ISBN978-4-86371-664-3  
乳幼児から成人まで障害者の様々なライフステージにおける教育・支援実践34事例!



## 学校全体で取り組む ポジティブ行動支援スタートガイド

最新刊

若林上総、半田健、田中善大、  
庭山和貴、大対香奈子 編著  
B5判/224頁/定価2,420円(本体2,200円+税)  
ISBN978-4-86371-665-0  
スクールワイドPBS実践に向けた組織づくり、システムづくりのノウハウを順序立てて解説。



## 子どもから学び 子どもに返す

最新刊

～ NISE ダイアリー～  
穴戸和成 著  
四六判/324頁/定価2,420円(本体2,200円+税)  
ISBN978-4-86371-662-9  
国立特別支援教育総合研究所(NISE)前理事長が10年にわたってメルマガに綴ったコラムをまとめた。



## 身近なコトから理解する インクルーシブ社会の障害学入門

—出雲神話からSDGsまで—  
水内豊和 著  
四六判/236頁/定価1,650円(本体1,500円+税)  
ISBN978-4-86371-649-0  
身近なコトとインクルーシブ社会がどう繋がるかを解説する、わかりやすく、面白い27講義。



## スウェーデンにおける取り組み 就学前の EDUCARE・モデルと 歴史と制度とヘルスケア

子どもの人権・民主主義・専門職の役割を中心に  
小野次郎 監修・著/イングリッド・エンゲル(監訳白石淑江)、小野裕香、訓藤法子、水野恵子 著  
A5判/200頁/定価2,970円(本体2,700円+税) / ISBN978-4-86371-661-2  
スウェーデンにおける乳幼児の保育および教育を包括した EDUCARE・モデルという考え方を中心に紹介。

**近 刊** (編集中の書籍) ※タイトルは(仮) 【 】内は編著者

- 知的障害教育スタンダード  
～年間指導計画システムの理念と実践～ 【分藤賢之】
- 知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントと単元研究  
「学習指導要領の着実な実施を目指して」  
【福島県立相馬支援学校】
- 学びや困難さ・合理的配慮に対応した GIGA 端末・ICT 活用のアイデア 【新谷洋介】
- この子らしさを活かす支援ツール3 【愛知教育大学附属特別支援学校】
- ストーリーテリングのすすめ  
～楽しい学びと支援に向けて～ 【有働真理子】

### 「文部科学省」編著の書籍



#### 点字学習指導の手引 (令和5年改訂)

近刊

B5判/400頁(予定)/定価2,420円(本体2,200円+税)  
点字学習指導方法の基礎・基本を具体的に詳説。学習指導要領改訂を踏まえ、点字学習指導上における今日的課題を盛り込んだ20年振りの改訂版。



#### 生徒指導提要 令和4年12月改訂〈コンパクト版・関連法令付録〉

A5判/336頁/定価935円(本体850円+税) / ISBN978-4-86371-653-7  
生徒指導に関する学校、教職員に向けた基本的指導書「生徒指導提要」を、社会情勢の変化や今日的課題を踏まえ12年振りに大幅改定。



#### 特別支援教育における交流及び共同学習の推進 ～学校経営の視点から～

全国特別支援教育推進連盟 編集/A4判/256頁/定価2,420円(本体2,200円+税) / ISBN978-4-86371-651-3  
全国特別支援教育推進連盟が文部科学省から委託を受けた調査研究報告書に、あらたに加筆、書籍化。



#### 学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン+学校安全推進のための教職員向け研修・訓練実践事例集

A4判/カラー262頁/定価1,980円(本体1,800円+税) / ISBN978-4-86371-611-7  
文部科学省が令和3年に発表したガイドラインと実践事例集を一冊にまとめて書籍化。



#### 障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実にに向けて～

A4判/480頁/定価1,980円(本体1,800円+税) / ISBN978-4-86371-613-1  
「障害のある子供の教育支援の手引」と「小学校等における医療的ケア実施支援資料」をまとめて書籍化。

